

昭和 59 年 度
事 業 報 告 書

自 昭和59年 4月 1日
至 昭和60年 3月 31日

社団法人 日 本 病 院 会

目 次

昭和59年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	8
第3	広 報	37
第4	委 員 会	45
第5	医療従事者無料職業紹介事業	61
第6	定例研究会	65
第7	全国研究会	76
第8	第一線リーダー研修会	90
第9	第24回病院視察研究会	92
第10	診療録管理通信教育	93
第11	メディカルクラーク通信教育	96
第12	事務長養成課程通信教育	98
第13	セミナー	100
第14	病院幹部医会	107
第15	海外視察研究会	108
第16	調 査 室	109
第17	医療費対策および病院大会	111
第18	第34回日本病院学会	115
第19	第25回日本人間ドック学会	118
第20	第10回日本診療録管理学会	121
第21	'84国際モダンホスピタルショウ	123
第22	創立33周年記念行事	125
附録	要 望 書	131
	役員名簿	164
	委員会委員名簿	171
	会員状況	183

第1 会 務 報 告

- 4月7日 諸橋会長、日医羽田新会長と懇談 協力体制の維持確立にて意見が一致
- 4月15日 I H F国際病院連盟と日病の主催のもと I H Fスペシャル・スタディ・ビジットを開催
～21日 17カ国41人の参加で虎の門病院他を視察研究
- 4月17日 病院診療研究会、国立療養所村山病院にて開催 59年度の研究会スタート
- 4月23日 I H F国際病院連盟の地域会議がソウルで開催
～27日 諸橋会長“日本の健康保険制度”を講演
- 4月29日 春の叙勲・褒章の発表
国会推せんの小野肇理事、勲四等旭日小綬章を受章
- 4月30日 「日本病院会三十年史」「信頼される我が病院づくり」発刊
- 5月18日 諸橋会長、『将来の医師需給に関する検討委員会』に委員として出席
- 5月28日 小野肇理事の叙勲祝賀会をダイヤモンドホテルで開催
- 5月29日 定期総会にて昭和58年度事業報告・収支決算報告と併せて理事補選、代議員交替、日医羽田会長の顧問委嘱を承認
又、「国民医療を守るため、健保改正案に関し、かく考える」を決議
帝国ホテルで、引き続き、本会創立33周年記念式典を挙行
厚生大臣表彰は阿久津慎顧問他29名 会長表彰は秋山都美さん他126名
- 6月5日 「国民医療を守るため、健保改正案に関し、かく考える」を関係国会議員300人に提出、要望
- 6月8日 諸橋会長、自民党・医療基本問題調査会に出席
各種保険の一元化、退職者医療制度の確立等健康保険制度の見直し、原価割れ病院診療報酬の是正の意見開陳
- 6月15日 '84国際モダンホスピタルショウを池袋サンシャイン文化会館で開催、入場者26,560
～17日 人
- 6月16日 日本病院共済会、東条会館にて創立10周年記念祝賀会を開催
- 7月1日 諸橋会長、旭市の名誉市民に
- 7月1日 通信教育開講
診療録管理通信教育第25期生73名、メディカルクラーク通信教育第9期生51名
事務長養成課程通信教育第7期生に17名が入学
- 7月7日 四病団、税制要望を関係方面へ 医療法人の法人税率の軽減他
- 7月18日 四病団、自民党・医療基本問題調査会に出席、医療法の一部改正で意見具陳

- 8月4日
～5日 病院長セミナーをダイヤモンドホテルで開催、203名の参加者を見る
- 8月11日 医療とニューメディアを考える会と共催で、大阪YMCAホールにて、シンポ“医療とニューメディア”を開催
- 8月23日
～24日 総婦長セミナーをコクヨホールで開催、141名の参加をみる
- 8月24日
～25日 第25回日本人間ドック学会が愛知県産業貿易館で岡山義雄学会長のもと、550名の参加者をもって開催。一般演題過去最高の56題
- 8月28日 諸橋会長、福岡県病院協会で招聘講演
- 9月4日 本会顧問で、政治連盟委員長、野村秋守先生 逝去、同月27日合同葬
- 9月12日 健保法改正に伴う実務者向け説明会の開催（東京：東医健保会館）
- 9月13日 諸橋会長、和歌山県病院協会で招聘講演
- 9月15日 健保法改正に伴う実務者向け説明会を神戸、西山記念会館で開催
- 9月17日 病院診療報酬適正化推進会議が病院診療報酬改正要求書を関係者に提出
- 9月22日 健保法改正に伴う実務者向け説明会を東京、番町共済会館で開催
- 10月3日 厚生省吉村事務次官以下保険局幹部と正副会長懇談、当面の医療政策について意見交換
- 10月5日 『国立病院・療養所再編成問題懇談会』が初会合を開催、諸橋会長が委員として出席
- 10月9日
～20日 北米視察団出発
- 10月11日
～12日 第10回日本診療録管理学会が高橋政禎学会長のもと杏林大学医学部講堂で開催、参加者873名。特別講演としてロマリンド大学、マーガレット・ジャクソン女史による“米国の大学における病歴管理士養成課程のカリキュラムについて”
- 10月19日 I H F 実行委員会がロンドンで開催、河野副会長出席
- 10月28日 医療紛争防止のための研修会福島で開催
- 11月3日 秋の叙勲・褒章の発表
本会推せんの前会長内藤景岳顧問が勲三等旭日中綬章を受章、竹本副会長が藍綬褒章を受章
- 11月6日 財団法人日本顕彰会の社会貢献表彰者に本会推せんの外口正枝氏（国保旭中央病院検査科技師長）が受章
- 11月8日
～9日 第34回日本病院学会が近藤慶二学会長のもと高知県民文化ホールで開催、主テーマ“激動下における明日の病院”のもと6,000人が参集
- 11月22日 病院大会を病院診療報酬適正化推進会議の主催で砂防会館ホールで開催、病院診療報酬の9.6%の改定ならびに事業税の非課税措置の継続を決議 参加者1,137名
- 11月24日 内藤前会長の勲三等旭日中綬章、竹本副会長の藍綬褒章の受章、諸橋会長の旭市名誉市民推挙の祝賀会開催

- 11月27日 公正取引委員会公聴会に池谷常任理事が公述人として出席
医療用医薬品卸売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約及び同施行規則の認定について意見披露
- 11月30日
～7日 韓国研修団来訪、国立病院医療センター他を視察研修
- 12月4日 諸橋会長、羽田日医会長と幸田厚生省保険局長、行天NHK解説委員と医療保険制度について意見交換
- 12月15日 病院幹部医セミナーを番町グリーンパレスで開催
- 12月20日 賃金専門委員会による医療従事者の賃金実態調査がまとまる 118施設より回答
- 12月19日 諸橋会長、川崎市病院協会で招聘講演
- 12月21日 教育委員会開催、研究会の上半期の反省と昭和60年度実施大綱検討
- 12月27日 診療報酬改定をひかえ、中医協、厚生省に対して入院時医学管理料の引き上げ他を要望
- 1月9日
～12日 スウェーデン訪日団来訪 国立循環器病センター等を視察
- 1月18日 四病団、医療法改正に向け統一見解表明、29日日医に対して決議提出
- 1月20日 病院概況調査まとまる 回答病院 998施設
- 1月25日
～26日 事務長セミナーを食糧会館で開催 参加者 107名
- 1月29日 諸橋会長、愛知県病院協会で招聘講演
- 2月15日 日本病院会政治連盟常任幹事会開催、議員連盟の受け皿について検討
- 2月19日 診療報酬改定説明会を東京・北区公会堂で開催
- 2月21日 同説明会を神戸、灘生協文化会館にて開催 両開催で1,200人が参加
- 2月21日
～23日 第一線リーダー研修会を京都タワーホテルで、24名の参加のもと開催
- 3月4日 健保連と将来の人間ドックのあり方、短期人間ドック健診料について会談
- 3月9日 諸橋会長、NHK『今医師と考える』に出演。よい医師とは、を強調
- 3月9日 諸橋会長、長崎県医師会の招聘により“医療費改訂とこれからの病院経営”を講演
- 3月14日 日本病院会政治連盟幹事会に林義郎衆議院議員、中山太郎、大浜方栄参議院議員出席
現在の医療事情に対する自民党の基本姿勢と今後の本会政治連盟の活動方針を示唆
- 3月19日 千葉県支部の総会を千葉京成ホテルで開催
- 3月22日 『看護制度検討会』が初会合を開催、諸橋会長が委員として出席
- 3月23日 予算総会開催
会費額の一部改定、昭和60年度事業計画、収支予算、59年度補正予算を承認。
引き続き、厚生省病院管理研究所長 佐分利輝彦本会顧問による特別講演“医療費適正化と病院経営”を実施

庶務・人事

叙勲・褒章（会員病院）

4月29日☆勲二等瑞宝章

北原 哲夫（元東京通信病院長・70・東京）

☆勲三等瑞宝章

稲田 龍一（元東京都立墨東病院長・71・東京）

鈴木辰四郎（元長野赤十字病院長・71・長野）

内藤 行雄（和歌山赤十字病院長・76・和歌山）

服部 貞治（元新潟県立新発田病院長・70・新潟）

☆勲四等旭日小綬章

小野 肇（大口東総合病院理事長・70・神奈川）

☆勲五等瑞宝章

小島 カツ（元福岡県立遠賀病院総婦長・60・福岡）

佐藤 清蔵（元山形県立中央病院中央検査部臨床検査技師長・62・山形）

篠沢富美子（元三重県立総合塩浜病院総婦長・61・三重）

清水 紀子（元東京都立豊島病院看護科長・60・東京）

須山 照子（元鳥取県立中央病院総婦長・58・鳥取）

依田 清子（元山梨県立中央病院総婦長・56・山梨）

☆勲六等单光旭日章

石川 豊（元佐々木病院診療放射線技師・71・神奈川）

☆勲六等宝冠章

青木 はま（元藤枝市立志太総合病院第二看護科長・62・静岡）

土井 俊子（元県西部浜松医療センター総婦長・64・静岡）

中野 光子（元松下病院総婦長・64・大阪）

西崎 歌子（元東京都立台東病院看護科長・59・東京）

三原 説子（元沖縄県立中部病院婦長・60・沖縄）

宮尾恵美子（元長浜赤十字病院看護部長・62・滋賀）

☆勲六等瑞宝章

西道美代子（小坂病院看護主任・58・大阪）

根本 一蔵（元秋田赤十字病院検査部技師長・65・秋田）

☆勲七等青色桐葉章

永原 進（元島根県立中央病院中央検査科副技師長・61・島根）

☆黄綬褒章

横山 麗子（国立療養所長島愛生園看護助手・51・岡山）

☆藍綬褒章

福田 良平（市立小樽病院長・65・北海道）

11月3日☆勲二等旭日重光章

澤崎 博次（元関東逓信病院長・73・東京）

☆勲三等旭日中綬章

内藤 景岳（総合病院南大阪病院長・71・大阪）

☆勲三等瑞宝章

土屋 定敏（松山赤十字病院長・70・愛媛）

村田 清（市立伊勢総合病院長・70・三重）

森 徳松（元新潟県立六日町病院長・70・新潟）

☆勲四等旭日小綬章

酒井 義昭（富山赤十字病院長・71・富山）

☆勲四等瑞宝章

寺田 清（元弘前市立病院長・75・青森）

豊田 哲夫（元東京都立大塚病院長・70・東京）

瓢武 二郎（元健保宮城第二病院長・71・宮城）

☆勲五等瑞宝章

青木アキ子（元東京都立広尾病院看護科長・58・東京）

青山 幸（元釧路赤十字病院看護部長・71・北海道）

石脇 清子（北野病院看護部長・57・大阪）

榎 茂子（元松紅赤十字病院看護部長・61・島根）

加藤 芳郎（元社保中京病院エックス線技師長・69・愛知）

岸本マツ子（新小倉病院看護部長・61・福岡）

中松 守光（元兵庫県立尼崎病院放射線技師長・59・兵庫）

藤田 志げ（元東京都立府中病院看護科長・59・東京）

古屋 生子（元共立蒲原総合病院総婦長・61・静岡）

山室 義信（元富山市民病院研究検査科技師長・61・富山）

☆勲六等宝冠章

小澤まさ江（山角病院病棟主任看護婦・60・山梨）

荻田 梨江（元新潟県立新発田病院総婦長・56・新潟）

工藤 文子（大阪警察病院副総婦長・56・大阪）
武田 トキ（元秋田赤十字病院看護婦長・64・秋田）
三浦マサミ（元秋田組合総合病院総婦長・75・秋田）

☆勲六等瑞宝章

杉原 久雄（松江赤十字病院検査部技師長・55・島根）
住家 明（元甲府市立病院臨床検査技師長・59・山梨）
平岩 加代（元愛知県立尾張病院看護婦長・58・愛知）

☆勲七等宝冠章

関川 セイ（元九十九里ホーム病院看護婦長・63・千葉）

☆黄綬褒章

海原 測（国立療養所長島愛生園船舶長・56・岡山）

☆藍綬褒章

竹本 吉夫（秋田赤十字病院長・59・秋田）
小林 愿之（国保小見川中央病院長・63・千葉）
富井 通雄（岡山県立岡山病院長・61・岡山）
永瀬 一郎（元東京通信病院薬剤部長・64・東京）

人 事

1. 理 事

（新 任）

5月29日 福島県・竹内 正也（いわき市立常磐病院長）
埼玉県・井坂 重長（小川赤十字病院長）
東京都・野辺地篤郎（聖路加国際病院長）
富山県・石田 礼二（市立富山市民病院長）
山梨県・許山 隆（許山胃腸病院長）
岐阜県・高橋善弥太（県立岐阜病院長）
静岡県・三好 秋馬（県立総合病院長）

2. 代議員

（新 任）

5月29日 富山県・吉崎 亨（県立中央病院長）
長野県・永田 丕（厚生連北信総合病院長）
7月28日 静岡県・野木村昭平（市立静岡病院長）

9月22日 大阪府・武田 惇（済生会泉尾病院長）

（退任）

5月29日 富山県・石田 礼二（市立富山市民病院長・理事新任）

長野県・鈴木辰四郎（長野赤十字病院長・院長交代）

静岡県・三好 秋馬（県立総合病院長・理事新任）

9月22日 大阪府・田中 敏行（大阪逋信病院長・院長交代）

12月16日 宮崎県・船渡 護（県立延岡病院長・死亡）

12月31日 和歌山県・内藤行雄（和歌山赤十字病院長・院長交代）

1月31日 秋田県・峯木 照夫（秋田組合総合病院長・院長交代）

3月7日 山形県・篠田 秀男（篠田総合病院長・死亡）

3月23日 福岡県・吉川 東陽（吉川病院長・会員退会）

3. 事務局

11月1日 6名の人事異動を実施

第 2 会 議

総 会

第 1 回総会

5月29日(火) 帝国ホテル 出席 127名

1. 昭和58年度事業報告に関する件
原案どおり承認
2. 昭和58年度収支決算及び監査報告に関する件
報告を了承
3. 理事の補選に関する件
新任7名の理事を承認
(井坂重長・竹内正也・野辺地篤郎・石田礼二・許山 隆・高橋善弥太 各先生)
4. 代議員の交代に関する件
代議員4名の交代を承認
(吉崎 亨・永田 丕・林 茂樹・木沢 彰 各先生)
5. 顧問委嘱に関する件
羽田春兔日医会長を委嘱することを承認

第 2 回総会

3月23日(土) ダイヤモンドホテル 出席 91名

1. 正会員会費の一部値上げと定款施行細則の変更に関する件
301床以上病院の基本会費を値上げすることを承認
(301～400床2万円、401～500床3万円、501～600床4万円、601床以上5万円とし、最高18万円が23万円となる)
2. 昭和60年度事業計画(案)に関する件
原案どおり承認
3. 昭和60年度予算(案)に関する件
原案どおり承認、一般会計 35,470万円
4. 昭和59年度補正予算(案)に関する件
原案どおり承認

代 議 員 会

第 1 回代議員会

5月29日(火) 帝国ホテル 出席 47 名

1. 昭和58年度事業報告に関する件
原案どおり承認
2. 昭和58年度収支決算及び監査報告に関する件
報告を了承
3. 理事の補選に関する件
理事 7 名の就任を承認 (総会を参照)
4. 代議員の交代に関する件
4 県の代議員の交代を承認
(富山県・吉崎 亨、長野県・永田 丕、茨城県・林 茂樹、岐阜県・木沢 彰 各先生)
5. 顧問委嘱に関する件
羽田春 兔日医会長を委嘱することを承認

第 2 回代議員会

3月23日(土) ダイヤモンドホテル 出席 32 名

1. 正会員会費の一部値上げと定款施行細則の変更に関する件
301 床以上病院の基本会費を値上げすることを承認 (総会を参照)
2. 昭和60年度事業計画(案)に関する件
原案どおり承認
3. 昭和60年度予算(案)に関する件
原案どおり承認
4. 昭和59年度補正予算(案)に関する件
原案どおり承認

理 事 会

第 1 回理事会

5月29日(火) 帝国ホテル 出席 40 名

1. 昭和58年度事業報告に関する件
報告を了承
2. 昭和58年度収支決算及び監査報告に関する件
報告を了承

3. 顧問委嘱に関する件
羽田春免日医会長を委嘱することで承認
4. 理事の補選に関する件
新任7名の理事を承認（総会を参照）
5. 代議員の交代に関する件
代議員4名の交代を承認（総会を参照）
6. 全国研究研修会の開催変更について
提案を承認
7. 医療保険制度及び診療報酬対策について
診療報酬是正の要望書を国会議員に提出することで了承
8. 病院経営及び病院税制について
四病団に病院税制の要望を提出することで了承
9. 会員の入退会について
報告を了承（5月29日現在 正会員1,865会員、賛助会員391会員）
10. 短期人間ドック、自動化健診施設の指定について
短期人間ドック9施設、自動化健診3施設の指定を了承
11. 各種制度委員会の開催結果について
報告を了承
12. 学会の進捗状況について
第34回日本病院学会、第25回日本人間ドック学会、第10回日本診療録管理学会の報告があり了承
13. '84 国際モダンホスピタルショーの進捗状況について
“医療における質の改善と実践における討論会”を併設することで了承
14. IHF スペシャルスタディービジット、地域会議の開催について
17ヶ国・41名の参加、地域会議はソウル市において370名の参加報告を了承
15. AHF 理事の交代について
竹本吉夫副会長を推せんすることを了承
16. 内保連委員の交代について
小笠原社会保険委員を推せんすることで了承
17. 医療経済委員会追加委嘱について
石井孝宜氏の委嘱を了承
18. 春の叙勲、褒章受章について

報告を了承

北原 哲夫氏（勲二等瑞宝章）

鈴木辰四郎氏（勲三等瑞宝章）

内藤 行雄氏（ ” ）

小野 肇氏（勲四等旭日小綬章）

福田 良平氏（藍綬褒章）

19. 昭和59年秋の藍綬褒章の推せんについて

竹本吉夫氏の推せんを了承

20. 昭和59年度社会貢献表彰者の推せんについて

外口正枝・涌井栄美両氏を推せんした報告を了承

21. 小野肇理事の叙勲祝賀会開催結果について

報告を了承

22. 顧問会議の開催結果について

報告を了承

23. 病院長・幹部職員セミナーの開催要領について

提案を了承

24. 短期人間ドック指定施設の病床数変更について

9施設の変更を了承

25. 四病院団体連絡協議会の活動について

報告を了承

26. 将来の医師需給に関する検討委員会について

諸橋芳夫会長の委員参画を了承

第2回理事会

9月22日（土）ダイヤモンドホテル 出席 49名

1. 代議員の交代について

交代を承認

（静岡県・野木村昭平、大阪府・武田 惇 両氏）

2. 会員の入退会について

正会員入会 9件、賛助会員入会 1件、賛助会員退会 1件を承認（9月22日現在 正会員 1,887会員、賛助会員 395会員）

3. 短期人間ドック実施指定及び指定病床数の変更、再開始について

実施指定 2施設、病床数変更10施設、再開始 2施設の報告を了承

4. 医療紛争防止のための研修会の開催について
福島県下で実施することが承認
5. 日本衛生検査所協会第8回臨床検査月間に関する協賛名義使用について
協賛することで承認
6. 医療保険制度について
意見拝聴にて了承
7. 診療報酬について
意見拝聴をし、国会議員、厚生省幹部との懇談会、及び病院大会を実施することで了承
8. 病院経営について
現況報告、意見の拝聴にて了承
9. 病院税制について
60年度税制要望事項等について協議、現況を考慮し今後対処することで了承
10. 将来の医師需給に関する検討委員会について
現況報告にて了承
11. 医療監視について
規則、監督の必要性は認めるが、急速な指導を避けることで了承
12. '87 国際モダンホスピタルショーについて
第22回日本医学会総会との問題を対処することで了承
13. 会員増強について
各理事の協力にて推進することで了承
14. 学会の進捗状況及び開催結果について
日本人間ドック学会（第25回 8/24～25、第26回 8/23～24）、日本診療録管理学会（第10回 10/11～12、第11回 10/17～18）、日本病院学会（第34回 11/8～10、第35回 9/19～21、第36回 7/17～19）の進捗状況、報告を了承
15. 第1四半期会計報告及び監査報告について
報告を了承
16. 創立33周年記念事業会計報告について
決算見込として、不足分 4,807,860 円を一般会計から繰入れすることで了承
17. 日本病院会政治連盟について
活動報告、計画等を了承
18. 健康保険法改正に伴う実務者講習会の開催及び資料配布について

報告を了承

○東京 9月12日・22日

○神戸 9月15日

19. 部門別原価計算調査講習会の開催について

第1回9月14日に開催、第2回11月16日を予定することで了承

20. 各種制度委員会、研究会、セミナーの開催結果について

報告を了承

21. 福岡県・和歌山県両病院協会主催の研修会での講演について

福岡県（8/28）、和歌山県（9/13）で諸橋会長が講演した旨の報告を了承

22. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

医療経済委員会、総合部会の報告を了承

23. 病院診療報酬適正化推進会議の開催について

病院診療報酬改定要求書を関係各位に要望することで了承

24. "病院報告"調査日の変更について

12月31日を10月1日現在に変更した報告を了承

25. 日医の委員会開催結果について

社会保険診療報酬検討委員会、医業経営検討委員会の報告を了承

26. 厚生省衛生部局の再編と人事異動について

異動後、懇談会を実施することで了承

27. 国立病院・療養所再編成問題懇談会について

懇談会メンバー等の報告を了承

28. 故野村秋守先生の葬儀について

9月27日青山葬儀所にて開催、日病政連として吉岡理事が弔辞を述べることで了承

29. 昭和59年秋季全国火災予防運動に対する協力依頼について

協力することで了承

30. 医薬品副作用被害救済制度について

紹介にて了承

第3回理事会

11月7日(水) 国際ホテル高知 出席 47名

1. 会員の入退会について

正会員入会2件、賛助会員入会2件、賛助会員退会1件を承認

(11月7日現在 正会員1,893会員、賛助会員396会員)

2. 病院診療報酬について
原価割れ料金の適正化、技術料の適正評価、薬価差益によらない適正化等を基本方針とし病院経営危機突破全国大会で要求することです承
3. 病院税制について
各都道府県知事に対し各役員を通じ非課税措置存続の運動を展開することです承
4. 将来の医師需給に関する検討委員会について
現況報告にて了承
5. 国立病院・療養所再編成問題懇談会について
懇談会の現況報告にて了承
6. 昭和60年度事業計画(案)について
研究研修会、セミナーの事業計画を再検討、その他についての(案)を承認
7. 会員増強対策について
三重県下、高知県下の現況報告にて了承
8. 第34回日本病院学会の進捗状況について
報告を了承
9. 第10回日本診療録管理学会の開催結果について
1,300名の参加報告を了承
10. 第2四半期会計報告及び監査報告について
33周年記念事業終了のため、12月に補正予算を組むこととし、報告を了承
11. 病院大会の開催について
11月22日東京・砂防会館にて実施することです承
12. 国際モダンホスピタルショーについて
委員会組織の変更等報告を了承
13. 祝賀会の開催について
本会推せんにより、内藤景岳先生(勲三等旭日中綬章)、竹本吉夫先生(藍綬褒章)が受章され、開催することを了承
14. 日本医学会について
加盟申請について継続審議することです承
15. 薬務局“医薬品流通近代化協議会”への委員推せんについて
岡本常任理事を推せんすることです承

第4回理事会

2月23日(土) 食糧会館 出席 47名

1. 会員の入退会について

正会員入会 4 件、正会員退会 3 件、賛助会員入会 2 件、賛助会員退会 4 件を承認
(2月23日現在、正会員 1,905 会員、賛助会員 394 会員)

2. 短期人間ドック実施指定について

4 件を承認

- 千葉県 国保旭中央病院 (8 床)
- 群馬県 堀江病院 (4 床)
- 大阪府 高槻病院 (6 床)
- 兵庫県 神鋼病院 (2 床)

3. 3月23日開催の会議及び講演会の実施について

下記要領にて承認

- 会長副会長会議
- 常任理事会
- 代議員会・総会
- 講演会 (佐分利輝彦氏)

4. 昭和60年度事業計画(案)について

原案どおり承認

5. 正会員会費の一部値上げと定款施行細則の変更について

会の円滑な運営と、全国研究会の参加費を半額程度にするため 301 床以上の会員病院の
基本会費を値上げすることとし、4 月 1 日から実施することで承認
(301～400 床 2 万円、401～500 床 3 万円、501～600 床 4 万円、601 床以上 5 万円)

6. 昭和60年度予算(案)について

一般会計(案)収支合計 354,700,000 円、特別会計(案)を承認

7. 昭和59年度補正予算(案)について

収支合計 360,000,000 円で補正予算を組むことを承認

8. 病院診療報酬について

本会の医療費改定の経緯、報告を了承

9. 病院経営について

現況報告を了承

10. 病院税制について

60年度税制改正要望事項の報告を了承

11. 国立病院・療養所の再編成問題について

- 意見書提出の報告を了承
12. 将来の医師需給について
中間意見等の報告を了承
 13. 家庭医制度と中間施設について
報告を了承
 14. 学会等の進捗状況について
第26回日本人間ドック学会、第35回日本病院学会、第11回日本診療録管理学会、'85 国際モダンホスピタルショーの報告を了承
 15. 各種制度委員会、セミナーの開催結果について
報告を了承
 16. 昭和59年度第3 四半期会計報告及び監査報告について
報告を了承
 17. 退院時疾病統計の書式標準化検討委員会について
60年度から通信教育委員会の付設委員会として設置、委員には日病6名、全自病3名で構成し運営することを承認
 18. 医薬品流通近代化協議会委員について
日病から岡本常任理事、全自病から竹内副会長を推せんした報告を了承
 19. 医療審議会委員について
委員選出経緯の報告を了承
 20. 医療費改定による説明会開催結果及び解説の会員配布について
東京（2/19）、神戸（2/21）において開催し、1,077名の参加報告、解説書の配布を了承
 21. 病院診療報酬適正化推進会議と病院大会の開催結果について
推進会議の開催と、病院大会（11/22）開催結果報告を了承
 22. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
総合部会、医療法委員会、医療法合同委員会の開催結果報告を了承
 23. 日本病院会政治連盟について
議員連盟（仮称）の設置、活動報告等についての報告を了承
 24. 昭和60年春の叙勲、褒章について
岡山義雄理事の推せん報告を了承

常任理事会

第1回常任理事会

4月21日(土) 日病会議室 出席 25名

1. 医療保険制度について
役員の意見拝聴にて了承
2. 病院税制について
活動現況報告を了承
3. 医療法について
改正案に対する意見拝聴にて了承
4. 理事の補欠選挙について
経営主体別に選出された新任理事7名を承認
井坂 重長(埼玉県・日赤)
竹内 正也(福島県・市町村)
野辺地篤郎(東京都・公益法人)
石田 礼二(富山県・市町村)
許山 隆(山梨県・医療法人)
高橋善弥太(岐阜県・都道府県)
三好 秋馬(静岡県・都道府県)
5. 全国研修会の開催について
看護病院管理総合合同研究会は病院管理総合研究会と看護管理研究会独自で開催すること承認
6. 羽田日医会長の顧問委嘱について
委嘱すること承認
7. 小野肇理事の叙勲祝賀会の開催について
叙勲(勲四等旭日小綬章)受章に伴い祝賀会を5月28日に開催すること了承
8. 病院長・幹部職員セミナーの開催について
8月4・5日の両日開催すること了承
9. 国際学会(IHF 主催87ヘルシンキ)ルネサンド特別講演会の推せんについて
本会では、早石修氏(大阪医科大学長)を推せんすることを承認
10. 常任理事の提案について
本会における将来の姿勢・政策を立案する特別委員会設置の提案があり、労務・福利厚生、物品部会で検討すること了承

11. 昭和58年度事業報告について
原案に対し、叙勲の項目に太田監事の金盃を追記することで原案のとおり承認
12. 昭和58年度収支決算および監査報告について
報告を承認
13. 理事の退任について
原 俊夫、松井永二両氏の退任を承認
14. 会員の入退会について
正会員入会 5 件、賛助会員入会 1 件、正会員退会 5 件、賛助会員退会 3 件を承認
(4月21日現在 正会員 1,860 会員、賛助会員 398 会員)
15. 日本病院学会評議員の推せんについて
永瀬一郎氏の退任に伴い真田幸良氏(日赤医療センター薬剤部長)の就任を承認
16. 短期人間ドック指定施設の病床数変更について
実施指定 9 施設の病床数変更を承認
17. 各種制度委員会の開催結果について
報告を了承
18. 創立33周年記念式典について
日程等の紹介があり了承
5月29日(火) 東京都・帝国ホテル
19. 59年度秋の藍綬褒章の推せんについて
竹本吉夫副会長を推せんした報告を了承
20. 全国公私病院連盟について
公私病連の法人格取得等にも協力することで承認
21. 羽田日医会長と諸橋会長の懇談結果について
4月7日に懇談した旨の報告を了承
22. IHF クロンボルグ会長との会談結果について
日本、オーストラリアの病院状況等について懇談した旨の報告を了承
23. IHF スペシャル・スタディー・ビジットの開催結果について
4月15日～21日に日本において開催され41名の参加があった旨の報告を了承
24. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
現況報告を了承
25. '84 国際モダンホスピタルショウについて
現況報告を了承

26. 顧問会議の開催について
5月27日(日)に開催することで了承
27. 短期人間ドック実施病院について
一時休止病院(5施設)、再開施設(4施設)の報告を了承
28. 医療従事者無料職業紹介事業について
58年度の実績報告を了承
29. 書籍“明日の医療”(中央法規出版)への推せんについて
本会で推せんすることが承認
30. 通信教育受講生の募集について
役員への協力依頼を了承
31. 週間新潮の「いま医療を考える」について
報告を了承

第2回定例常任理事会

5月28日(月) 日病会議室 出席29名

1. 医療保険制度について
現況報告等、各役員からの意見聴取にて了承
2. 厚生省提示の医療政策21世紀へのビジョンについて
医療制度委員会にて検討することが承認
3. 病院経営について
現況報告にて了承
4. 医薬品について
各役員の意見聴取にて了承
5. 医学生の定員削減について
厚生省の諮問機関“将来の医師需給に関する検討委員会”の開催報告等にて了承
6. 四病院団体規約(案)について
各団体の主体性を考え継続検討で了承
7. 内保連委員の交替について
小笠原社保委員(河北総合病院長)を推せんすることで承認
8. 病院長、幹部職員セミナーについて
8月4日(土)～5日(日)に東京で開催することとし要領を了承
9. 病院給食について
制度委員会にて検討することで了承

10. がん特別健診の実施について
協力することで承認
11. 会員の入退会について
正会員入会 7 件、賛助会員入会 4 件、正会員退会 2 件、賛助会員退会 11 件を承認
(5 月 28 日現在 正会員 1,865 会員、賛助会員 391 会員)
12. 短期人間ドック、自動化健診施設の指定について
短期人間ドック指定 2 件、自動化健診指定 3 件を承認
13. 理事・代議員の補選について
理事新任者 7 名(井坂重長・竹内正也・野辺地篤郎・石田礼二・許山 隆・高橋善弥太・三好秋馬各氏)、代議員 2 名(吉崎 亨・永田 丕両氏)の紹介があり承認
14. '84 病院設備展への協賛名義について
協賛することで承認
15. 医療経済委員会委員の追加委嘱について
岡山義雄・石井孝宜両氏の委嘱を承認
16. 各種制度委員会の開催結果について
報告を了承
17. 学会の進捗状況について
三学会の報告を了承
18. 春の叙勲・褒章受章について
報告を了承
勲二等瑞宝章 北原 哲夫 氏
勲三等瑞宝章 鈴木辰四郎 氏
勲三等瑞宝章 内藤 行雄 氏
勲四等旭日小綬章 小野 肇 氏
藍 綬 褒 章 福田 良平 氏
19. (財)日本顕彰会社会貢献表彰への推せんについて
外口正枝・涌井栄美両氏を推せんすることを承認
20. 顧問会議の開催結果について
報告を了承
21. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
開催報告、現況報告を了承
22. 代議員鈴木達也先生のご逝去について

5月6日ご逝去された旨の報告を了承

23. 三十年史、信頼される我が病院づくり、'84病院設備機器、ハンドブック、33周年記念式典次第について進捗状況等の報告を了承
24. 小野肇理事の叙勲祝賀会について
5月28日に実施することを了承
25. 医療法改正に伴う同法施行細則の一部改正にかかわる要望書について
報告を了承
26. '84 ホスピタルショウについて
進捗状況を了承

第3回定例常任理事会

6月16日(土) 日病会議室 出席 25名

1. 自民党医療基本問題調査会について
6月8日に諸橋会長が出席し意見を述べた旨の報告を了承
2. 医療保険制度について
各役員の見解聴取を了承
3. 将来の医師需給に関する検討委員会について
現況報告を了承
4. 病院経営および税制について
現況報告を了承
5. 全日病学会講演について
副会長から出席することです承
6. 医療制度委員会に対する諮問について
将来の病院医療、21世紀に向けてのビジョンの作成を委員会に諮問することを承認
7. 四病院団体連絡協議会の協議事項“パート医師の調査”について
医療経済委員会に諮問することを了承
8. 病院長・幹部職員セミナーのプログラム変更について
一部変更を承認
9. 会員の入退会について
正会員入会10件、正会員退会5件を承認(6月16日現在、正会員1,869名、賛助会員391名)
10. 叙勲・褒章の申請について
岡山義雄理事を推せんすることを承認

11. 各種制度委員会及び研究会、セミナーの開催について
報告を了承
12. 日医“社会保険診療報酬検討委員会”委員の推せんについて
北村行彦理事を推せんすることを承認
13. 日医“医業経営検討委員会”委員の推せんについて
有澤源蔵副会長を推せんすることを承認
14. 全国病院栄養士協議会役員改選に伴う理事候補の選出について
栄養管理研究会より下 房子氏（関越病院）を推せんすることを承認
15. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
現況報告を了承
16. 創立33周年記念事業の開催結果について
5月29日（火）に実施した旨の報告を了承
17. 国際モダンホスピタルショウについて
6月15日～17日に開催された旨の報告を了承
18. 関係団体等の記念行事について
報告を了承
 - ① ㈱日本病院共済会10周年
 - ② 全国公私病院連盟20周年
 - ③ 秋田赤十字病院70周年
19. 三十年史編集委員長への感謝状について
小野田敏郎委員長（顧問）に感謝状を出すことを承認
20. 衛生検査所業における景品類の提供の制限に関する公正規約（案）及び同施行規則（案）について
（案）に対し本会意見を公聴会で述べることを了承
21. 台湾病院協会第17回学会総会への出席について
有澤源蔵副会長が出席することを承認
22. 第25回日本人間ドック学会について
進捗状況報告を了承
23. 第24回病院視察研究会について
7月11日～14日に茨城・福島を対象とし開催される旨の報告を了承

第4回定例常任理事会

7月28日（土） 日病会議室 出席 25名

1. 医療保険制度について
役員の意見聴取があり、意見中の労災、自賠責の問題については顧問弁護士に相談することとし、又、四病団でも協議することを了承
2. 病院経営について
役員からの現況報告を了承
3. 病院税制について
現況説明を了承
4. 将来の医師需給に関する検討委員会について
現況説明を了承
5. 脳波検査従事者の資格について
意見聴取を了承
6. 四病院団体連絡協議会の協議事項について
四病団の規約(案)については、団体が共通する問題を連絡、協議することとし、パート医師の実態調査については実施することを承認
7. 医師の所得に関する所見について
西能正一郎常任理事の執筆を雑誌、ニュースに掲載することを了承
8. 会員の入退会について
正会員入会12件、正会員退会3件、賛助会員入会6件を承認
(7月28日現在、正会員1,878会員、賛助会員397会員)
9. 短期人間ドック施設の指定について
2施設を承認
静岡県 共立蒲原総合病院(6床)
北海道 札幌循環器クリニック(3床)
10. '84病院経営革新大会の後援名義使用依頼について
後援名義を承認
11. 健保連“第19回健康強調月間”の協力依頼について
協力依頼を了承
12. 医療事故対策部会委員会(ラウンドテーブル方式)の福島開催および研修会開催について
10月28日に福島県において開催することを承認
13. 救急ヘリシステム研究実験実行委員会の協賛名義使用について
協賛することを承認
14. 各種制度委員会、研究会の開催結果について

- 報告を了承
15. 代議員の交代について
交代を承認
新任 野木村昭平 氏
前任 三好 秋馬 氏
 16. 59年度第1 四半期会計報告及び監査報告について
報告を了承
 17. 創立33周年記念事業会計報告について
報告を了承
 18. 日医の委員会開催結果について
社会保険診療報酬検討委員会、医業経営検討委員会の報告を了承
 19. 四病院団体連絡協議会の開催報告について
60年度税制要望事項、健保法改正(案)に対する声明の紹介を了承
 20. 広報座談会の開催報告について
7月7日の開催報告を了承
 21. 衛生検査所業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約の認定についての公聴会への出席報告について
7月10日の公聴会結果報告を了承
 22. 自由民主党医療基本問題調査会地域医療計画小委員会に対する要望書について(四病団)
四病団名で“都道府県医療計画の作成及び医療審議会”等の要望を提出した旨の報告を了承
 23. 全日病学会への演者推せんについて
若月俊一副会長を推せんすることを了承
 24. 中華民国医院行政協会への出席報告について
6月30日の出席報告を了承
 25. 部門別原価計算調査講習会の開催について
9月14日、11月14日に実施することを了承
 26. 日中友好臨床検査技術振興協力会について
紹介を了承
 27. 昭和60年春の叙勲及び賜杯並びに褒章授章候補者の推せんについて
岡山義雄理事を叙勲に推せんすることを了承
 28. 昭和59年3月1日改定診療報酬及び薬価基準改定影響率調査報告書について

本会と公私病連の合同調査報告を了承

第5回定例常任理事会

8月18日(土) 日病会議室 出席27名

1. 医療保険制度について
各役員の見解を聴取し、今後の対策等を協議し活動を強化することを了承
2. 健康保険法等改正に伴う請求書式の簡素化について
一部負担金処理方式の簡素化について等、厚生省保険局長に要望書を提出することを承認
3. 診療報酬について
診療報酬の適正化について、社会保険・医療経済両委員会で検討することを了承
4. 病院税制について
国税庁からの相続税財産評価に関する基本通達の一部改正の紹介、日医の動向について報告を了承
5. 将来の医師需給に関する検討委員会について
委員会報告を了承
6. 日本病院会政治連盟について
8月4日の常任幹事会報告として吉岡観八氏が委員長の後任期間を代行する等の報告を了承
7. 9月22日(土)第6回定例常任理事会・第2回定例理事会の合同開催について
合同開催、講演会(石原信吾氏)を承認
8. 常任理事の提案について
 - ① 「健康保険法改正」に伴う実務講習会の開催について
9月12日(水)に開催することを承認
 - ② 医療法、医療法施行規則の改正について
四病団の改正(案)を再度検討することを了承
 - ③ 議事録送付について
会長・副会長を歴任した先生方にも送付することを承認
9. 会員の入退会について
正会員入会1件、正会員退会2件、賛助会員入会1件、賛助会員退会3件を承認
(8月18日現在、正会員1,877会員、賛助会員395会員)
10. 昭和59年病院状況報告日の変更について

10月1日に変更となった旨の紹介を了承

11. 日本病院学会評議員の異動について
村田 勇氏の名誉評議員、高知開催の特別評議員23名を承認
12. 第13回日本病院設備学会後援名義の依頼について
応諾することを承認
13. 代議員の退任について
田中敏行氏（大阪府）の退任を承認
14. 短期人間ドック実施施設の指定について
1件を承認
新潟県 新潟医師協木戸病院（2床）
15. 各種制度委員会、セミナー等の開催結果について
報告を了承
16. 第34回日本病院学会の進捗状況について
進捗状況報告を了承
17. 「医療とニューメディアを考える会」の収支報告について
8月11日の大阪での開催報告及び収支報告の紹介を了承
18. '84 国際モダンホスピタルショウ収支報告及びアンケート集計結果について
アンケート集計結果及び収支報告を了承
19. 厚生省の人事異動について
人事異動の紹介を了承
20. 海外視察研究会について
役員への協力要請を了承

第6回定例常任理事会

9月22日（土）ダイヤモンドホテル 出席 49名
第2回理事会と合同開催のため理事会参照

第7回定例常任理事会

10月27日 日病会議室 出席 25名

1. 病院診療報酬について
病院経営の安定化を図り診療報酬の適正化、合理化の早期実現のため、11月22日に病院経営危機突破全国大会を実施すること等を了承
2. 病院経営について
“原価割れ是正” “病院経営の安定化”を病院経営危機突破全国大会にて訴えることを

了承

3. 病院税制について

病院診療報酬に対する事業税課税反対を各都道府県知事、県会議長等に対し要望することを了承

4. 将来の医師需給に関する検討委員会について

委員会報告を了承

5. 国立病院・療養所再編成問題懇談会について

経緯、現況報告を了承

6. 祝賀会の開催について

内藤景岳先生の叙勲、竹本吉夫副会長の褒章受章を祝し、11月24日に祝賀会を開催することを了承

7. 日本医学会について

演題募集、分科会の紹介を了承

8. 昭和60年度事業計画について

原案どおり承認され、11月7日の理事会に提出することを承認

9. 医療秘書等の教育状況について

再調査のうえ後日報告することを了承

10. 薬務局“医薬品流通近代化協議会”への委員推せんについて

本会として、岡本隆一常任理事を推せんすることを了承

11. 会員の入退会について

正会員入会 8 件、正会員退会 2 件、賛助会員入会 1 件、賛助会員退会 1 件を承認
(10月27日現在、正会員 1,891 会員、賛助会員 395 会員)

12. 短期人間ドック実施病院の指定について

1 施設を承認

長野県 丸子中央病院 (4 床)

13. 病院大会の実施について

11月22日(木)に東京・平河町の砂防会館にて実施することを承認

14. 第22回日本医学会総会、展示委員会「情報とニューメディア小委員会」の委員推せんについて

大道学常任理事を推せんすることを承認、又、'87国際モダンホスピタルショウと第22回日本医学会総会の重複開催については河野稔・竹本吉夫両副会長、三宅浩之委員長で検討することを了承

15. 国際モダンホスピタルショーについて
進捗状況、委員会組織の改組の紹介を承認
16. 各種制度委員会、研究会の開催結果について
報告を了承
17. 第2四半期会計報告及び監査報告について
報告を了承
18. 防災改修検討委員会（建設省）の委員派遣依頼について
小原知次郎理事を推せんすることを了承
19. 第10回日本診療録管理学会の開催結果について
10月11～12日に東京・三鷹市において開催され1,300名の参加があった旨の報告を了承
20. 日医”第1回医療施設現況報告”について
紹介・協力を了承
21. 第13回日本病院設備学会の開催について
開催の紹介及び、諸橋会長の、特別講演「病院完成への道”わが病院のあゆみとめざすもの”」の実施予定を了承
22. 昭和59年度社会貢献表彰者の推せん結果について
外口正枝氏（国保旭中央病院・検査技師長）が推せんされ、11月6日に表彰される旨の報告を了承
23. 厚生省新幹部との懇談会の開催結果について
10月3日に開催された旨の報告を了承
24. 中山太郎参議院議員との懇談会の開催結果について
10月5日に開催された旨の報告を了承
25. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
26. 全日病学会のシンポジウムの出席報告について
報告を了承
27. 韓国・峨山社会福祉事業団の来日について
10月10～18日に来日し5病院（秋田赤十字病院・国保旭中央病院・杏林大学医学部付属病院・北品川総合病院・虎ノ門病院）を視察した旨の報告を了承
28. 学会の進捗状況について
報告を了承
29. 日本病院学会評議員名簿について

紹介を了承、又、澤崎博次先生の名誉評議員への異動については、次回に提案することを了承

第8回定例常任理事会

11月24日(土) 日病会議室 出席 29名

1. 病院診療報酬について

各役員の意見聴取、意見中の基準看護基準、自賠責の件については、社会保険委員会で検討することを了承

2. 病院経営について

現況報告、意見聴取を了承

3. 病院税制について

60年度税制改正項目の紹介、社会保険診療報酬への事業税の非課税措置継続については、各役員から都道府県知事、県議員に要望することを了承

4. 将来の医師需給に関する検討委員会について

委員会現況報告、役員の意見聴取を了承

5. 第35回日本病院学会について

進捗状況及び、遠山豪学会長の常任理事会出席(1年間)を願うことを了承

6. 日中友好委員会委員の追加委嘱について

太田元次理事の委嘱を承認

7. 国際疾病分類(ICD)第10回改正に対するアンケートについて

高橋政祺委員長に一任することを了承

8. 中間施設について

本会としては、今後慎重に対処してゆくことを了承

9. クレジット・カードの導入について

医療経済委員会で検討することを了承

10. 自動化健診学会、日本人間ドック学会の評議員について

本会役員と評議員の就任状況報告を了承

11. 会員の入退会について

正会員入会5件、賛助会員退会1件を承認

(11月24日現在、正会員1,898会員、賛助会員395会員)

12. 短期人間ドック実施指定及び登録の変更について

2施設の指定、指定病床数変更を承認

神奈川県 総合川崎臨港病院(4床)

広島県 興生総合病院（6床）
山口県 山口労災病院（60年7月まで休止）
新潟県 新潟県厚生連頸南病院（4床→2床）

13. (社)生命科学振興会第2回ライフサイエンス・シンポジウムの後援名義依頼について
名義使用を承認
14. 各種制度委員会、研究会の開催結果について
報告を了承
15. 第34回日本病院学会の開催結果について
開催報告を了承
16. 「医療用医薬品卸売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約(案)及び同施行規則(案)に関する意見提出および公聴会出席について
11月27日の公聴会に出席し本会意見を述べることを了承
17. セブンスデー・アドベンチスト教団の仲介による中国製掛軸画（800本）寄贈応諾について
本会として寄贈を応諾することを承認
18. 診療報酬適正化推進会議および病院大会開催結果について
開催報告を了承
19. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
20. 国際モダンホスピタルショーについて
諮問会議、企画委員会の開催報告を了承
21. 部門別原価計算第2回講習会開催結果について
11月16日の開催報告を了承
22. 昭和59年度秋の叙勲、褒章について
本会会員病院の受章者（叙勲29名、褒章3名）の紹介を了承
23. 建設省・建築物総合安全対策検討委員会委員の委嘱について
小原知次郎理事が委嘱された旨の紹介を了承

第9回定例常任理事会

12月22日(土) 日病会議室 出席 25名

1. 病院診療報酬について
診療報酬改訂の経緯及び本会の活動等の報告を了承
2. 病院経営について

現況報告及び役員の見解聴取を了承

3. 病院税制について

60年度税制改正の検討項目を説明、現状報告を了承

4. 将来の医師需給について

現況報告を了承

5. 家庭医制度と中間施設について

医療供給体制の重要問題であり、本会としては慎重に対処してゆくことを了承

6. 昭和60年度事業計画(案)について

研究会、研究研修会、セミナーについては、教育委員会で再調整を図ることとし、その他の計画(案)については原案どおり承認

7. 昭和60年度一般会計予算(案)について

研究研修会の受講料、開催地について教育委員会で再検討することとなり、調査費の増額について提案があり、次回常任理事会で協議することを了承

8. 退院時疾病統計の書式決定に関する委員会設置について

委員会設置については承認され、人選、委員会開催時期については、高橋政祺委員長に一任することを承認

9. 会員の入退会について

正会員入会 4 件、正会員退会 3 件を承認

(12月22日現在、正会員1,899 会員、賛助会員 395 会員)

10. 短期人間ドック実施指定について

2 施設を承認

静岡県 静岡県立総合病院 (10 床)

東京都 大畑病院 (2 床)

11. 日本診療録管理学会評議員の委嘱について

5 名の委嘱を承認

片山 仁・岡島光治・山内一信・平川顕名・小野丞二の各氏

12. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

13. '85 国際モダンホスピタルショウの講演会、説明会の開催について

検討結果報告を了承

14. 国際疾病分類 (ICD) 第10回改正アンケート結果について

アンケートの提出報告を了承

15. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
16. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について
報告を了承
17. 国立病院・療養所の再編成問題について
現況報告を了承
18. 「中国製掛軸画等」の寄贈について
各役員に寄贈した旨の報告を了承
19. 第26回日本人間ドック学会の進捗状況について
8月22～23日東京・簡易保険ホールで開催される旨の報告を了承

第10回定例常任理事会

1月26日(土) 日病会議室 出席 28名

1. 病院診療報酬について
診療報酬改訂に伴う本会の活動経緯の説明、中医協の現況報告等を了承
2. 病院経営について
現状説明、医師過剰対策等の報告を了承
3. 病院税制について
60年度税制改正事項の報告を了承
4. 家庭医制度と中間施設について
厚生省、中医協の動向報告を了承
5. 昭和60年度事業計画(案)について
未承認(再調整)事項の承認として看護研究会、看護管理研究会の合同開催、診療システム研究会の開催日等を承認
又、研究研修会の名称変更として①病院診療研究会→病院システム研究会、②第一線リーダー研修会→職場リーダー研修会を承認
6. 昭和60年度予算(案)について
研究研修会、セミナー等の参加費減額費などにより、正会員会費(基本会費)の一部値上げを承認
301～400床 2万円、 401～500床 3万円
501～600床 4万円、 601床以上 5万円
収支合計 355,600,000円
7. 医療秘書専門学校について

実態調査等を本会雑誌に掲載することを了承

8. 会員の入退会について

正会員入会 5 件、賛助会員入会 2 件、賛助会員退会 1 件を承認

(昭和60年 1 月26日現在、正会員1,904 会員、賛助会員 396 会員)

9. 短期人間ドックの実施指定について

4 施設を承認

群馬県 上牧病院 (4 床)

愛知県 大竹病院 (2 床)

三重県 榊原みのり会病院 (3 床)

福岡県 田川市立病院 (4 床)

10. 国際委員会委員の追加委嘱について

開原成允氏(東京大学医学部教授)の委嘱を承認

11. 後援依頼について

4 件の後援名義を承認

① 厚生省 “第27回成人病予防週間”

② 日本能率協会 “ニューメンブレンテクノロジー 85”

③ 第34回日本理学療法学会

④ “欧州国際病院機器展 INTER-HOSPITAL と病院視察旅行”

12. 診療報酬改訂説明会の開催及び解説の会員配布について

説明会の開催、解説書の配布を承認

2 月18日(月) 東京都

2 月19日(火) 兵庫県

13. 各種制度委員会、セミナーの開催結果について

報告を了承

14. 昭和59年度第 3 四半期の会計報告および監査報告について

報告を了承

15. 代議員のご逝去について

船渡 護先生(宮崎県)のご逝去報告を了承

16. 診療録管理通信教育第26期生の募集結果について

報告を了承

17. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

18. 第22回日本医学会総会からの委員委嘱願いについて
諸橋会長の学術委員を応諾することを了承
19. スウェーデンDASISグループの訪日団について
1月9～12日の訪日報告を了承
20. 国立病院・療養所の再編成問題について
現況報告を了承
21. 医療用医薬品卸売業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約について
12月22日に認定された報告を了承
22. 退院時疾病統計の書式標準化検討委員会について
60年度通信教育委員会の付設委員会として設置され、委員には日病6名、全自病3名で構成運営することを承認
 - 日病（委員長） 高橋 政祺（敬称略）
 - 一条 勝夫
 - 石塚 隆男
 - 小野 丞二
 - 財津 晃
 - 仲村 英一
 - 全自病 末武 保政
 - 藤野 臻策
 - 村上 義次
23. 第35回日本病院学会の進捗状況について
状況報告を了承
24. 日本病院会政治連盟について
活動報告を了承
25. 第26回日本人間ドック学会について
進捗状況を了承

第11回定例常任理事会

2月23日(土) 食糧会館 出席 47名

第4回理事会と合同開催のため理事会参照

第12回定例常任理事会

3月23日(土) 日病会議室 出席 25名

1. 医療保険制度および診療報酬について
診療報酬体系、医療供給体制等について各役員の意見聴取を了承
2. 病院経営について
現況報告を了承
3. 病院税制について
現況報告を了承
4. 家庭医制度と中間報告について
本会としても慎重に検討する方向を了承
5. 移動常任理事会の開催について
病院幹部医会セミナーに併せ、10月26日の常任理事会を富山市において開催することを承認
6. 会員の入退会について
正会員入会7件、正会員退会12件を承認（3月23日現在、正会員1,900会員、賛助会員394会員）
7. 短期人間ドック実施指定について
3施設を承認
宮城県 宮崎第二病院（4床）
千葉県 柏厚生病院（4床）
福岡県 福岡通信病院（4床）
8. 臨床予防医学委員会委員の交代について
交代を承認
新任 大川日出夫 氏
退任 榎本 敏雄 氏
9. 病院管理機構と管理者マニュアルの発行について
4月を目標に発刊することで承認
10. 日本病院学会評議員の推せん等について
5名の評議員、1名の名誉評議員を承認、17名の特別評議員を了承
(評 議 員) 野辺地篤郎 氏(東京都)
菊地 二郎 氏(大阪府)
南 溢 氏(奈良県)
田中 稔正 氏(高知県)
本森 良治 氏(高知県)
(名誉評議員) 澤崎 博次 氏(東京都)

11. 諸規程の改正について
事務局組織分掌規程、就業規則の一部(定年について)の改正を承認し、4月1日から実施
12. 各種制度委員会、研究会の開催結果について
報告を了承
13. 内保連会議について
59年度決算の紹介を了承
14. (財)日本顕彰会主催60年度社会貢献表彰候補者の推せんについて
本会での締切りを4月30日(火)とすることを了承
15. I H F エシックスアンケート調査の回答について
報告を了承
16. 代議員のご逝去について
篠田秀男先生(山形県)ご逝去の報告を了承
17. 医療審議会委員名簿(60.3/1)について
経緯報告を了承
18. 厚生省“看護制度検討会”について
開催報告を了承
19. 第34回日本病院学会の収支決算報告について
決算報告および監査報告を了承
総収入 41,987,566 円
支出 41,287,566 円
次期繰越 700,000 円
20. 日本病院会政治連盟の活動について
活動報告を了承

第 3 広 報

日本病院会ニュース

号 数	発 行 日	主 な 記 事 内 容
258号	4月10日	1) 全医療機関協力体制を、難関突破の唯一の道、代議員会・総会で諸橋会長が強調、医療費急速抑制策を強く批判 2) 今の厚生行政に不満、日医等と名実共提携へ、諸橋会長発言要旨 3) 日医会長に羽田氏 4) 59年度事業計画・予算を承認、事業計画24項目 5) パート医師源泉税が減額、4月から最高38%、国税庁確認えて「早見表」送付 6) (主潮) パート医師給与の手取問題 7) 新年度へ意欲新たに59年教育研究活動まとめる 8) おしん医療と私の晩酌(中村了生) 9) 7月からは「燃え広がらないじゅうたん」を、消防庁が防災規制の通知 10) 「診療録管理」解説、その2(三竹年世子)
259号	4月25日	1) 看護体制見直しへ本腰、4病団、基準看護は弾力運用を、准看廃止には絶対反対 2) 日看協大森会長ら、准看廃止案を説明 3) 世界17カ国から41人、IHF視察研16日スタート 4) 勤務医師45人を斡旋、59年度職業紹介事業実績伸ばす 5) 運命(池谷巨) 6) 「診療録管理」解説、その3(三竹年世子) 7) 59年度日本病院会、教育研究活動等の予定表
260号	5月10日	1) '84国際モダンホスピタルショウ、作る側使う側情報交換の場に、「質の改善と実践」30例発表 2) 3・1改定、集計494病院で△1.9%、影響率調査を中間報告 3) (主潮) 数字に目くばりを 4) 小野理事ら栄えの受章、59年春の叙勲、褒章を発表 5) 早川崇氏を偲ぶ(小野田敏郎)

- 6) 「診療録管理」解説、その4（三竹年世子）
 - 7) 13カ国 340人が参加、IHF地域会議ソウルで開く
- 261号 5月25日
- 1) 「日本病院会三十年史」が完成、戦後の病院のあゆみ、協会創立前後から30年間を810ページに
 - 2) 「我が病院づくり」も、142会員の歴史、個性的なタイトルで
 - 3) 医薬、景品類制限に関する「公正競争規約」を認定、公取委7月施行、周知徹底を
 - 4) 異常気象（野田潔）
 - 5) '84ホスピタルショウの全日程決まる、「質の改善」発表討論会プログラム
- 262号 6月10日
- 1) 各界の期待と激励が、一層の「病院づくり」誓う、盛大に創立33周年記念式、厚生大臣表彰で30人
 - 2) 健保は慎重審議を、関係議員に要請、全理事名で
 - 3) 58年度事業報告、決算を承認、代議員会・総会29日に開く
 - 4) （主潮）人間を生かす経営
 - 5) うなぎの蒲焼（遠藤香苗）
 - 6) 小野理事の叙勲祝賀会
 - 7) 33周年記念会長表彰者
 - 8) 式典で157人表彰、5月29日帝国ホテル（写真）
- 263号 6月25日
- 1) 原価割れは正、保険統合こそ、諸橋会長が意見表明、自民党医療基本問題調査会に出席、調査会4小委での検討約す。
 - 2) 3日間で26,500人、昨年より1万人増、ホスピタルショウ大きな成果
 - 3) 厚生省の衛生部局7月から再編、健康政策局、保健医療局
 - 4) ホスピタルショウ開会式、悪環境下の努力に意義、吉崎医務局長、丸山日医常任理事ら出席
 - 5) 饗庭氏受精卵トラブルを「予告」医療事故防止セミナー開く
 - 6) 最近感動した映画（河野稔）
 - 7) 共済会創立10周年、なごやかに記念パーティ
 - 8) 悪環境下の創意工夫と向上、ホスピタルショウ（写真）
- 264号 7月10日
- 1) マイナス改定のダメージ大きく、一般病院総数で2.4%減、影響率（2月

当てはめ) 最終報告まとまる

- 2) 4病団は「声明」発表、診療報酬の「早急改定」求む
- 3) 日本人間ドック学会の開幕にあたって(学会長岡山義雄)
- 4) (主潮) 技術料に正しい評価を
- 5) 第25回日本人間ドック学会、一般演題過去最高の56題に、学会前日市民向け講演会も
- 6) 第25回日本人間ドック学会プログラム
- 7) 台湾式医師公会(平野明)
- 8) 8月4(土)5(日)東京で、病院長・幹部職員セミナー
- 9) 15年前の借金を返してくれた表彰状(大城三郎)

- 265号 7月25日
- 1) 高額医療費の改善を、健保再修正で要望、4病団各方面と折衝へ、推進会議も「再修正」、経営健全化の要請合わせ
 - 2) 医療法改正案で主張、「統制強化は遺憾」自民調査会小委に出席、4病団、民間の資源活用はかれ、重要5項目の見解説明
 - 3) 60年度税制要望まとむ、パート医師源泉問題解決へ全力、4病団11項目
 - 4) 「認識標」にご注意!!、新しい救急情報システムが発足、メディックアラート
 - 5) 事務管理者による座談会(前)「今後の病院経営に対する視点」
 - 6) 真の健康社会実現めざし(岡山義雄)
 - 7) 韓国見聞記(諸橋芳夫)
 - 8) 富山県のチューリップ(西能正一郎)
 - 9) 10月11・12日、第10回日本診療録管理学会、「10年のまとめと将来展望」シンポジウム、ロマリンド大ジャクソン女史の講演も

- 266号 8月10日
- 1) 盛夏の「院長幹部職員セミナー」に220人、健保後の「これからの医療」追求
 - 2) 健保大改革10月施行、日医羽田会長「悪法は根本から見直す」
 - 3) 日本初の「ルネ・サンド記念講演」国際病院学会の最高名誉急抛実現、大阪医大早石修学長
 - 4) (主潮) 健保改正案が通過して
 - 5) 座談会(後)「今後の病院経営に対する視点」
 - 6) モントリオールの日(平野井直英)

- 7) 事務長通教OB研開く、淀川キリスト教病院「ホスピス」を研修
- 8) 日本の運命を決めたサイパン沖海戦記（諸橋芳夫）
- 267号 9月10日
- 1) 「日本人間ドック学会」新時代へ、「健康医学の確立」を、第25回学会で提唱、550人参加
 - 2) パート医師給標準を設定、経験年数に応じ算出、4病団各県病等に通知
 - 3) 相続税新方式1月に遡及、類似業種比準の通達末端へ、更正該当者は積極的に申し出を
 - 4) （主潮）技術料の見直しを
 - 5) 野村秋守先生逝去
 - 6) 日本人間ドック学会特集、成果挙げた記念学会、人間ドック・自動化健診の現況（写真）
 - 7) 第10回日本診療録管理学会プログラム
 - 8) 診療録管理学会開催にあたって（学会長高橋政祺）
 - 9) 長崎・シーボルト・紫陽花（福井順）
 - 10) 医師の所得に関する私見（西能正一郎）
- 268号 9月25日
- 1) 「病院診療報酬改定要求」出揃う、病院団体が総力体制、組織医療特有項目の新設も
 - 2) 11月8・9日高知市、第34回日本病院学会開幕へ、（学会長近藤慶二）
 - 3) 日本病院学会プログラム
 - 4) 大改革で医療事務も混乱、「健保法改正実務者説明会」3回開く
 - 5) 経済性優先の中味（中野昇）
 - 6) 公は私に、私は公に（末武保政）
 - 7) 原価計算講習会に200病院、診療報酬改定の基礎資料等に
 - 8) 野村先生を偲んで（河野稔）
- 269号 10月10日
- 1) 病院診療報酬改定を一斉要求、長期ひっ迫の限界点に、推進会議・4病団決定
 - 2) 医療保険問題で交換、吉村次官ほか保険局幹部と
 - 3) （主潮）禍を転じて福にしよう
 - 4) 推進会議の改定要求、部門別原価補償を基礎、病院で9.7%総数7.3%の要求に

- 5) 4病団の改定要求、私的病院の崩壊防げ、技術料と病院特有項目に重点
- 6) 84歳いまだ主婦（宇井美代子）
- 7) 健保法の質疑応答まとむ、一部負担金・特定療養費等58項目
- 8) 故野村秋守君のことども（木下真澄）

- 270号 10月25日
- 1) 改定健保2週間、窓口調査、事務煩雑化一方的負担増に怒りの声、18病院を調査
 - 2) 日医幹部と4病団、診療報酬・事業税問題で懇談
 - 3) 第10回日本診療録管理学会に800人、諸問題洗い出し将来へ備え、創立10年のまとめと将来展望
 - 4) 個性とコピー（木村千枝子）
 - 5) 「開かれた医学会総会」に、コ・メディカルの参加呼びかけ、テーマ「21世紀への医学と医療」
 - 6) 職業紹介事業上半期の実績

- 271号 11月10日
- 1) 病院経営危機突破全国大会を開催、診療報酬改定と事業税改悪阻止主題、推進会議が主催1,000人動員へ
 - 2) 事業税改悪今年も急浮上、4病団強力阻止運動へ、特例廃止で一挙に2ケタ増のケースも、全医療法人144億円を負担
 - 3) （主潮）医療制度のデザインを
 - 4) 新厚相が決定、増岡博之氏
 - 5) 秋の叙勲・褒章、内藤顧問、竹本副会長ら栄えの受章
 - 6) 長生き（三竹年世子）
 - 7) 第8回メディカルクラーク通教の卒業式、名古屋第一日赤桑原さんが答辞
 - 8) 世界の医療事情（河野稔）

- 272号 11月25日
- 1) 激動下明日の病院の道を、第34回「高知」病院学会開く、参加のべ6,000人
 - 2) （学会特集）注目のパネル・シンポ、行政・医療側で討論「医療法改正と病院経営」「老人保健法と老人医療の将来」「これからどうあるべきか日本の病院」「病棟看護体制の多角検討」（写真）
 - 3) 中間施設、家庭医など、検討委設置計画の説明きく、4病団
 - 4) 医療新聞を研修、大韓病院協会本格発刊へ

- 5) 知らなすぎる病院の実態（平和夫）
- 273号 12月10日
- 1) 経営危機突破大会に1,200人、診療報酬と事業税、関係部会が支援約す
 - 2) (大会特集) 重大局面に追いやるな、諸橋会長、力強い支援と決意表明、自民稲垣氏・日医吉田氏、衆参108議員が出席、各党代表の支援次々に、大同団結の気運説く、小野理事気魄の演説(写真)
 - 3) 特集「病院医療における保険点数の矛盾点」、病院各部門の実態とズレ、本会役員60病院長の意見
 - 4) 内藤前会長ら祝賀会、叙勲・褒章・名誉市民合わせ
 - 5) 来年6月開催へスタート、ホスピタルショウ諮問会議発足
 - 6) 松江市・全国医事研の帰路での出来事(三上晃)
- 274号 1月1日
- 1) 新春座談会「医療保険制度をめぐる諸問題」(前)
 - 2) 年頭所感・病院経営基盤の確立を、会長諸橋芳夫
 - 3) 泣く子も黙る(中野博光)
 - 4) アフリカへ毛布を!!
 - 5) 細目等備え対策本部、診療報酬改定大幅答申へ全力
 - 6) 日本語の同時通訳が実現、5月プエルト・リコ国際病院学会で、AHFツアール・インドネシアの概要も
 - 7) 囲碁雑感(戸川潔)
- 275号 1月25日
- 1) 59年病院概況調査まとめ、100床当たり職員87人に、公・私1,000病院のデータ
 - 2) 診療報酬で要望、ホスピタルフィー関連アップを
 - 3) 「病院医療の評価」議題に、諸橋会長4病団で提案
 - 4) ソーラーシステムに補助金
 - 5) 座談会「医療保険制度をめぐる諸問題」(後)
 - 6) 年頭におもう(河野稔)
 - 7) 医原病とプロイラー(池谷巨)
- 276号 2月10日
- 1) 新・診療報酬点数が確定、病院は甲表3.9%、乙表3.5%アップ、再診料に格差入院料評価、病診機能、連携強化へ
 - 2) 診療報酬改定の趣旨と概要
 - 3) 医科点数表の改正(現行、改正点数表、甲乙)

- 4) 医療法で意見集約、病院代表明記に焦点、4 病団→日医へ
- 5) (主潮) 積極的に医療計画へ
- 6) タバコと女王 (財津晃)
- 7) 病院賃金の資料集、庶務人事・労務研まとむ、限定頒布へ

- 277号 2月25日
- 1) 赤字脱却へ全力、59年病院経営実態調査を報告、若干改善だが依然6割台の赤字
 - 2) 今回の診療報酬改定について (諸橋芳夫)
 - 3) 経営実態調査、開設者別の収支状況、日赤等の公的が医業拡大、病院総数で総費用2.5%総収益4.0%増
 - 4) 薬価基準改正を告示、3月実施平均6%下げ
 - 5) 「社会福祉・医療事業団」スタート、医療金融公庫が新法人へ移行
 - 6) 待合室に土器展示、岡山病院内からの出土品
 - 7) 私と美術家との出会い (岡山義雄)
 - 8) 病院管理研究所、60年度の研修計画発表
 - 9) 新紙面スタート、日病雑誌の目次予告、本紙合本の予約頒布も
 - 10) 意欲的テーマで企画、第26回日本人間ドック学会概要を発表、健康医学のニューパラダイム、予防から健康増進へ、学会テーマ決まる
 - 11) 60年度料金を改正、短期人間ドックは据置き、健保連契約

- 278号 3月10日
- 1) 医療審議会に病院団体代表、3月新委員で発足、本会池谷常任理事が選任
 - 2) 東京・神戸で1,200人参加、診療報酬改定説明会開く
 - 3) 診療報酬改定とその周辺 (北村行彦)
 - 4) (主潮) 新しい医療資源を求めて
 - 5) 第24回国際病院学会へ、参加募集、5月24日からプエルト・リコと北米の旅
 - 6) ある外科修業 (村田勇)
 - 7) '85ホスピタルショウ新企画、ホームケアの出品説明
 - 8) 座談会「病院の国際交流その意義と使命」
 - 9) 診療報酬点数の質疑応答集

- 279号 3月25日
- 1) 病院管理マニュアル作成へ、医療と経営の「標準」設定、制度委が編集4月中旬発刊、「病院憲章」5カ条も

- 2) 「マニュアル」発刊にあたって(丹野清喜)
- 3) 病院幹部医セミナー開く、激動の世界医療情勢、最新レポートと現場の分析
- 4) 幹部医セミナー、過激なDRGの実態まざまざ、対談「アメリカの医療費問題」
- 5) 医薬卸業「公正競争規約」を認定、公取委、景品類提供の制限4月から実施
- 6) “開かれた学会”めざす、保健事業者等参加よびかけ、日本人間ドック学会、日医・都医も後援
- 7) コンピュータ減税、59年4月から対象、確定申告で
- 8) 教育研究活動、2部会が名称変更、診療システム研・職場リーダー研

第 4 委 員 会

1. 医療制度委員会

1. 開催回数 12回
2. 出席者数 87名
3. 協議項目 1) 病院管理マニュアル作成について
2) その他
4. 総 評

昨年度からの懸案である「病院管理マニュアル」が、その最終案として、本年度最後の常任理事会に提出され、発刊の運びとなった。まず、5,000冊印刷の予定で、「勤務医マニュアル」同様、会員病院には無料頒布される。

2. 病院管理運営委員会

① 統計調査部会

1. 開催回数 4回（合同調査委含む）
2. 出席者数 19名
3. 協議事項 1) 病院部門別原価計算調査票について
2) 簡便な原価計算について
3) 公私病連との合同調査について
4) 日本病院会独自の原価計算について
4. 総 評

毎年全国公私病院連盟と合同で実施している「病院運営実態分析調査」のほかに、3年に一度の調査である「病院部門別原価計算調査」実施のための調査票の検討を行った。来年度は、現在行っている原価計算調査は複雑なため、中小病院でも参加できる簡便な原価計算調査を実施する予定である。

② 医療事故対策部会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 15名
3. 協議項目 1) 医療紛争防止のためのセミナーについて
2) 看護婦を中心としたセミナーについて
3) 昭和60年度セミナー開催計画について

4) その他

4. 総 評

前年度同様セミナー開催を行うことにより、医療紛争の防止策を実践していくことになった。本年度は特に、福島県より「医療紛争防止のためのセミナー」の誘致があり、昭和60年度にも要望があれば開催することとなった。

③ 防災対策部会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 3名
3. 協議項目
 - 1) 防火管理制度検討委員会（消防庁）中間報告について
 - 2) 病院防災セミナー開催計画について
 - 3) その他

4. 総 評

本年度も日本病院共済会と共催の病院防災セミナー開催計画の検討および防火管理制度検討委員会の中間報告等を主に開催した。

④ 労務・福利・物品 本年度開催なし

3. 勤務医対策委員会 本年度開催なし

4. 教育委員会

1. 開催回数(回)

教育委員会	5回
研究会委員長会議	3回
2. 出席者数(回)

教育委員会	32名
研究会委員長会議	51名
3. 協議項目(まとめ)
 - 1) 昭和59年度上期（4月～8月）の研究会活動について
 - 2) 昭和59年度下期（9月～3月）の研究会活動について
 - 3) 昭和60年度研究会活動方針について
 - 4) 昭和60年度研究会開催日程案の検討・調整について
 - 5) 研究修会名の改称について
 - 6) 昭和60年度の運営について
 - 7) 昭和60年度研究会予算案について

- 8) 第35回日本病院学会へ各研究会が参加し、研究発表をすることについて
- 9) '85国際モダンホスピタルショウへの参加について
- 10) 昭和59年度研究会活動に対する反省について

4. 総 評

昭和59年度は、定例研究会開催回数延45回、全国研究会開催回数延18回、セミナー開催回数延4回、第一線リーダー研修会開催回数延3回を実施した。また、各研究協会毎の延参加者数は、定例研究会2,734名、全国研究会1,849名、セミナー295名、第一線リーダー研修会72名であり、それぞれ多大の収穫を得て終了した。

今年度は、定例研究会・全国研究会とも参加者数において昨年を上まわる活況を呈した。これは内容面においても、魅力あるテーマの選定、演者の選択等が多くの参加者を吸引したものといえよう。加えて、開催地側の協力が充分得られた場合には、とりわけ成功する率が高まることも立証された。したがって、今後は地元と密接な連携をとりつつ、現在の医療情勢を的確に把握し、参加者のニーズに充分適ったプログラムの作成が望まれよう。

来年度は、定例研究会については、ほぼ従来どおりの運営でいくことが確認された。しかし、全国研究会については、従来のやり方を多少変更した方向で運営していくことで合意をみた。すなわち、参加者から参加費を取らない。但し、資料代は実費を徴収する。また、研究協会終了後の懇親会もとりやめる。但し、個人の負担でそれぞれ行うものについてはこの限りでない。したがって、研究協会開催にかかわる経費については、各研究協会に割当てられた年間予算の枠内でまかなっていくこととなる。

次に、第35回日本病院学会（伊勢市）に各研究会が参加し、発表を行っていくことが決まり、10研究会より参加の希望が出され演者の決定もみた。これは初めての試みであり、どのような反響がみられるか未知数であるが、大きな成果を収められることを期待したい。

また、'85国際モダンホスピタルショウ（池袋・サンシャインシティ）にも本年同様参加していくこととなった。

なお、従来の病院診療研究会が診療システム研究会に、第一線リーダー研修会が職場リーダー研修会に、来年度より改称される。

5. 通信教育委員会

① 診療録管理通信教育部

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 12名
3. 協議項目

- 1) 9月14日(土) 17:00～19:30 大阪 弥生会館

- 進級・卒業試験の合否について
 - 受講生の現況について
 - 第26回スクーリング開講要領について
 - 延長受講料の改定について
 - 第12回診療録管理学会について
 - 学術研究団体の登録について
- 2) 3月9日(土) 17:00～19:30 大阪 弥生会館
- 進級・卒業試験の合否について
 - 受講生の現況について
 - 第27回スクーリング開講要領について

② メディカルクラーク通信教育部

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 11名
3. 協議項目

- 1) 4月2日(月) 17:00～19:30 東京 鉄道会館 ルビーホール鳳凰の間
- 試験 : 第8期生後期 8月23日(木) 9:00～16:00
第9期生前期 2月14日(木) 9:00～16:00
 - スクーリング : 第9期生前期 8月20日～22日 東京会場
8月24日～26日 京都会場
第9期生後期 2月11日～13日 京都会場
2月15日～17日 東京会場
 - 第8回認定審査委員会 9月22日 11:00～14:00
 - 第8回認定証授与式 10月20日 17:00～20:00
 - スクーリングの時間割り

		午前 9:00～12:00	午後 13:00～16:00
東京地区 早稲田速記	8/20(月)	医療学 高橋先生	臨床検査 伊藤先生
	21(火)	秘書実務 與那嶺先生	医学用語学 笠井先生
	22(水)	医療事務 杉本先生	
京都地区 ビル葆光	24(金)	医療学 高橋先生	臨床検査学 伊藤先生
	25(土)	医療用語学 笠井先生	秘書実務 與那嶺先生
	26(日)	医療事務 杉本先生	

- 雪害の為、受験できなかった城北病院6名については延長受講料免除
(但し、60年2月まで)

2) 9月22日(土) 11:00~14:00 東京 鉄道会館 ルビーホール葵の間

- 第8回の認定審査

第8回認定者 33名(延長生1、第8期生32)

第8回追加認定者 5名

- 延長受講予定者 43名

- 60年2月の試験・スクーリングについて

予定表通り確認

- 第8回認定証授与式

10月20日(土) 17:00~19:30

東京 番町グリーンパレス

- 第10期生より前期・後期科目履修順序を次のように変更

臨床医学を前期から後期へ

解剖・生理学を後期から前期へ変更する。

- 第8回認定者代表は名古屋第一赤十字病院桑原みどりに決定

③ 事務長養成課程通信教育部

1. 開催回数 1回

2. 出席者数 12名

3. 協議項目

1) 4月6日(金) 15:00~17:00 東京 日本病院会第一会議室

- 昭和59年度の教育実施について

原案のとおり承認

- 第5回生最終試験：6月23日(土) 大阪 共済会館新大阪

- 第5回認定証授与式：7月21日(土) 東京都内

○ 試験：第6回生1年後期 7月15日

第6回生2年前期 1月17日

第7回生1年後期 1月10日

○ スクーリング：第6回生2年前期 7月16日~21日

第6回生2年後期 1月18日~23日

第7回生1年前期 7月9日~14日

第7回生1年後期 1月11日～16日

- 会場は、いずれも聖路加国際病院第2記念館とする。
- 7月のスクーリングの時間割りについて

第7回生1年前期

変更は 12日(木) 病院財政管理 針谷講師→15日(日)に
15日(日) 病院事務のあり方 井上講師→12日(木)に

第6回生2年前期

変更は 18日(水) 午前・午後を今村講師に
19日(木) 午前を高橋講師に
20日(金) 午前・午後を上林講師に

- 事務長養成課程通教月報の巻頭言を4月号より、病院会雑誌に掲載する。
高橋委員長担当とする。
- 講義テキストの目録は公開してよいこととした。

6. 医療経済委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 28名
3. 協議事項
 - 1) 昭和60年度税制改正要望事項について
 - 2) パート医師アンケートについて
 - 3) 承継税制について
 - 4) 手取額による源泉徴収税額表について
 - 5) 一部負担金の口座振替について
 - 6) 診療報酬改正要望についての検討
 - 7) 病院経営安定化の対策について
 - 8) 健康保険法改正に伴う実務者講習会開催について
 - 9) 昭和60年度税制改正について
 - 10) 昭和61年度税制改正要望事項について
 - 11) 病院経営セミナー(仮称)の開催について
 - 12) クレジットカード利用について
 - 13) 昭和61年度以降税制のうごきについて
 - 14) 病院経営セミナーについて

4. 総 評

今年度は税制改正要望事項検討の他にクレジットカードの利用、一部負担金の口座振替、社会保険委員会と合同で診療報酬問題の検討等、病院経営安定化についても論議した。また来年度には「病院経営セミナー」の開催を予定している。

7. 国際委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 57名
3. 協議項目

本年度も、吉岡委員長を中心に、多岐に渡る国際活動を展開した。主要な活動を列記すれば、下記のとおりであるが、標記のとおり開催の委員会は、こうした活動のための準備委員会としての性格も強かった。

- 1) 4/16～ 4/20 I H F スペシャルスタディビジット（日本）を、コーディネーション。
- 2) 4/23～ 4/27 I H F 地域会議への参加（韓国）、本会より、諸橋会長、大道常任理事、長澤国際委員が講演。なお、25日 A H F 理事会。
- 3) 8/25～ 9/ 7 北欧病院視察研究会を催行。参加10名（高橋勝三委員がコーディネーター）。
- 4) 10/ 9～10/20 米国医療調査団を催行（コーディネーター、三宅浩之委員）。参加19名。
- 5) 10/10～10/18 韓国峨山財団（A S A N 財団）事務長等3名が、新病院設立のため、秋田日赤、国保旭中央、北品川総合病院等を見学。
- 6) 11/ 8～11/ 9 日本病院学会に A H F 会員各国9名招待の窓口を務める。
- 7) 11/29～12/ 7 韓国研修団（医事部門）の受入れ、コーディネーション。団員5名。
- 8) 1/ 9～ 1/12 スウェーデンより研修団来日。研修会を開催（大阪ロイヤルホテル）テーマ「コンピュータ利用による医療情報システム」、団員9名（団長ソアー氏、S P R I 所長）、日本側東大開原教授がコーディネーター。
- 9) 3/10 同日付の日本病院会ニュースに国際委員会として座談会を掲載。
- 10) 3/26～ 3/29 ベルギー大使館紹介のドミニック・クレスパン氏、東京消防庁、日本医大、帝京大、千葉県救急医療センターを見学。日本の救命救急

システムを調査。

上記についての参照資料としては（番号対照）

- ① 日本病院会ニュース 昭和59年4月25日号
WORLD HOSPITALS（IHF機関誌） 1984年11月号
- ② 日本病院会ニュース 昭和59年5月10日号，7月25日号
日本病院会雑誌 昭和59年6月号
- ③ 日本病院会雑誌 昭和60年1月号
- ⑥ 日本病院会ニュース 昭和59年11月25日号
- ⑧ 日本病院会ニュース 昭和60年1月25日号
- ⑨ 日本病院会ニュース 昭和60年3月10日号

○ 来年度海外視察研究会として

- 1) IHF国際病院学会参加視察研究会
- 2) AHFスタディツアー参加視察研究会
- 3) ヨーロッパ視察研究会
- 4) 中国視察研究会

について、検討を開始した。

○ 特記すべき事項として、10月常任理事会において、日中友好部会（小委員会）の設立が承認され、有澤副会長、太田元次理事、熊田正春代議員が、新たに委員に加わった。

○ 河野副会長が担当役員として、IHF実行委員会（3月、11月）に出席するなど、積極的に活動された。

○ IHF年会費（1985年分）およびAHF年会費（1984年分）を、それぞれ支払った。

8. 臨床予防医学委員会

- 1. 開催回数 5回（常任委員会4回含む）
- 2. 出席者数 41名
- 3. 協議項目
 - 1) 臨床予防医学委員会委員業務分担について
 - 2) 人間ドック現況報告集計について
 - 3) コンピュータによる健康診断システムについて
 - 4) 既指定病院の再チェック方法について

- 5) 委員業務分担について
- 6) コンピュータ診断答申について
- 7) 超音波エコー講習会について
- 8) 短期人間ドック既指定病院再チェック方法について
- 9) 第25回日本人間ドック学会について
- 10) 臨床予防医学委員会報告（集計）について
- 11) 日本人間ドック学会評議員推せん者について
- 12) 臨床予防医学委員会委員業務分担について
- 13) コンピュータ診断システム答申について
- 14) エコー使用義務付に伴う講習会について
- 15) 昭和58年度臨床予防医学委員会現況報告
- 16) 既指定病院の再チェック方法について
- 17) 昭和60年度健保連との契約料金について
- 18) 短期人間ドック実査認定委員について
- 19) 第26回日本人間ドック学会発表演題について
- 20) 人間ドックの書籍作成について
- 21) エコー講習会実施アンケート結果について
- 22) 日病ドック指定病院再チェック方法について
- 23) 健保連との契約について
- 24) 第27回（昭和61年）日本人間ドック学会について
- 25) 第28回（昭和62年）日本人間ドック学会について
- 26) 病症別アンケートの実施について
- 27) 委員会委員構成について
- 28) 第26回日本人間ドック学会開催内容について（報告）
- 29) 「人間ドック」書籍作成について

4. 総 評

本年度は、日病指定（健保連契約）短期人間ドック並びに自動化健診実施希望申請施設が例年になく多く殺到し、短期人間ドック実施認定委員が大変多忙な年度であった。それゆえに、申請施設の実情調査も厳格に行い、さらにレベルアップをはかるよう心がけた。これらは昨今の予防医学に対する国民全体の意識向上によるものと思われるが、日病臨床予防医学委員会としては、ドックによって安易に患者を増やすのではなく、正しい指導から予防医学をすすめて、真の健康チェックをすることを目指すものであり、種々の検討を重ねている。そのために

委員会の組織内をさらに細分化し、総務（企画・調査・渉外）・学術図書に分け、それぞれ担当を決定し活動を始めている。総務関係の主な推進事業は、既指定施設の再チェック方法であり、指定後かなりの期間を経ている施設の改善状態を把握すべく準備をすすめている。また、学術図書関係の主な推進事業は、本会発行の「人間ドック」の改訂版発行であり、製作企画中である。

なお、健保連との昭和60年度の短期人間ドック料金改訂の協議は、当会側と健保連側の主張にかなりのへだたりがあり、二本杉委員長、鈴木副委員長が、何度となく交渉にあたったが、諸般の事情により、昭和59年度と同額にて契約締結した。ただ、自動化健診料金については各施設より提出された希望料金どおり契約締結した。例年のように12月中に契約締結することが出来ず、指定施設各位に多大なるご迷惑をおかけいたしましたことは、非常に遺憾であった。今後は早い時期に健保連と打合せを開始し、双方が納得するような契約をする必要性を痛感した。

9. 社会保険委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 20名
3. 協議項目
 - 1) 診療報酬改正要望についての検討
 - 2) 病院経営安定化の対策について
 - 3) 健保法改正に伴う実務者講習会について
 - 4) 診療報酬改定について
 - 5) 基準看護について
 - 6) 自賠責の診療報酬基準の諸問題について
 - 7) 今回の医療費改定と今後の動向
 - 8) 診療報酬改定説明会開催について
 - 9) その他

4. 総 評

本年度は診療報酬改定の要望事項中心に検討を行った。

なお、「点数表改正点の解説書」を会員へ無料配布（1845件）

10. 組織委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 8名
3. 協議事項 日本病院会組織拡大に関する件

なお59年度6月と2月に、非会員病院あて、会員募集の案内を、合計約5,000通発送した。

11. 学術委員会

1. 開催回数 10回
2. 出席者数 88名
3. 協議項目
 - 1) 日本病院会雑誌 '84 6月号~'85 5月号の編集について
 - 2) 日本病院会雑誌 '84 7月号~'85 6月号の企画について
 - 3) 英文誌「Japan Hospitals No.4」の編集および出版について
 - 4) 「信頼される我が病院づくり」の編集および出版について
4. 雑誌59年度('84 4月号~'85 3月号) 主要掲載記事

(4月号)

グラフ：済生会横浜市南部病院

巻頭言：公私の病院の協調と団結を求めて

記事：シンポジウム・病院経営の乗り切り策は何か

(5月号)

グラフ：沖縄県立南部病院

巻頭言：医療に政治が入ってはいけない

記事：今、事務長に望むこと

(6月号)

グラフ：虎の門病院

巻頭言：これからの病院経営—その自主性と質の向上について—

記事：日本の健康保険制度

(7月号)

グラフ：日本病院会創立33周年記念式典

巻頭言：日本の病院団体の大同団結

記事：日本病院会創立33周年記念式典

(8月号)

グラフ：'84国際モダンホスピタルショウ

巻頭言：医療における社会との連携の必要性と方法論

記事：銷夏随筆

(9月号)

グラフ：所沢市市民医療センター

巻頭言：重ねて病院団体の団結をのぞむ

記事：「信頼される我が病院づくり」を読了して ー近頃稀にみる興味津津たる書ー
(10月号)

グラフ：第24回病院視察研究会

巻頭言：第34回日本病院学会を開催するにあたって

記事：医療紛争防止セミナー 講演・老人医療の特質

病院長セミナー 講演・これからの日本の医療、講演・これからの医療行政

(11月号)

グラフ：名古屋掖済会病院

巻頭言：技術料について考える

記事：病院の倒産について

(12月分)

グラフ：第25回日本人間ドック学会

巻頭言：人間ドックのあれこれ

記事：第25回日本人間ドック学会よりの一連の記事 記念講演・人間ドック25年の歩み他

(1月号)

グラフ：北ヨーロッパの病院

巻頭言：年頭所感ー病院経営基盤の確立をノー

記事：海外報告・北欧医療視察研究会報告

(2月号)

グラフ：第10回日本診療録管理学会

巻頭言：第10回日本診療録管理学会を終って

記事：第10回日本診療録学会よりの一連の記事 シンポジウム・学会創立十年のまとめと将来展望他

(3月号)

グラフ：第34回日本病院学会

巻頭言：病院団体の脱皮を願って

記事：第34回日本病院学会よりの一連の記事 学会長講演・激動下における明日の病院

5. 「信頼される我が病院づくり」の発刊について

本書は、(社)日本病院会創立33周年記念事業の一環として、諸橋会長の提案により発刊され

た。

同時に、全国の当会会員にも贈呈され、病院経営に強い関心が寄せられている折柄、生きた病院経営を知るうえで大変参考になるとの高い評価を得て、多大の反響を呼ぶに至った。ここに文字どおり、諸橋会長の“序文”にあるごとく、まさに「日本病院会の医療に対する真摯な姿勢を天下に示す」ことができたのである。

ちなみに、掲載施設数は142施設（公的病院71・私的病院71）で、北は北海道から南は沖縄に至る公・私病院を網羅している。

12. 広報委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 56名
3. 協議項目
 - 1) 日刊紙記者との懇談報告、対策
 - 2) 病院医療の広報について
 - 3) 座談会「今後の病院経営に対する視点」
 - 4) 医療保険制度の大変革に対する対応
 - 5) 60年度の活動計画と予算について
 - 6) 病院医療における保険点数の矛盾点特集の企画
 - 7) 座談会「医療保険制度の諸問題」
 - 8) 60年度日病ニュース発行計画について、発行・配布・予算関係、年間の編集計画大要
 - 9) 日病ニュース合本の製作について
 - 10) 座談会「診療録管理へのいざない」
 - 11) 60年度座談会の企画
 - 12) 日病ニュース 300号記念冊子の製作企画

4. 総 評

健保本人1割負担導入を柱とする健保法改正問題は、結局厚生省ペースで10月実施と決着したが、今後のためにも改正後の諸問題を取り上げ広報すべきとして、健保改正2週間後の窓口調査を実施した。東京・関西18会員病院の調査結果によると、事前に窓口混乱回避等の対策を立てたものの、大半の病院に混乱がみられ、待時間は確実にのびた。このため人員増、機械等費用増などの一方的持出しとなり、事務煩雑化が加わって当局に対する怒りの声が充満した。これらは第270号、10月25日付に掲載した。

次いで医療保険制度、点数の諸問題を取り上げた。従来言われてきたように病院関連の点数

には不合理で非学問的なことが多く、現在の点数表が病院の現場を知らない者の手であまりにも多く決められてきたとして、「病院医療における保険点数の矛盾点」のテーマを設定、各部門別選ばれている広報委員の原稿と、本会役員に対するアンケートをもとにまとめ、第273号、12月10日付に特集掲載した。さらに高山広報委員長の司会で座談会を実施、本会諸橋会長、日医羽田会長、厚生省幸田保険局長、NHK行天氏の出席により医療保険問題を話し合い、新年号に掲載した。

また医療の実態、国民の健康と生命を守る病院医療の側面がいかに伝わるかというテーマが「病院医療の広報」として取り上げられ、日刊紙記者、厚生省クラブ記者との懇談などを通して探られてきたが、なお検討中の課題とされた。

13. 諸規程検討委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 3名
3. 開催月日 3月15日(金) 日病役員室
4. 協議事項
 - 1) 組織規程の見直しについて
 - 事務局組織分掌規程の改正について
 - 常任理事の基本的な組織図を明確に表示するため今後検討する。
 - 2) 就業規則の一部改正について
 - 3) その他諸規程について

5. 総 評

現組織規程、規則を簡潔にし、現状に即したものに改めるため、事務局組織分掌規程とし、事務局長の下に総務部、企画広報部、学術研修部の3部を置くこととした。また就業規則の定年の規定に事務局長63歳を挿入し、それぞれ60年4月1日から施行することが望ましいとの結論を得た。

給与規程の中ベースアップの都度金額の変更を要する扶養、住居、通勤手当については人事院規則を準用するように改正をしていく。その他規則、規程についても漸次検討していくこととなった。

〔特別委員会〕

1. 病報情報センター運営委員会

A 委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 63名
3. 協議項目
 - 1) 6月分セミナー開催の件
 - 2) 病院学会開催時における病院見学について－(高知医大)
 - 3) 今回の医療費改定について
 - 4) アンケート調査「日本におけるコンピュータによる病院経営改善」について
 - 5) 同上のアンケートとりまとめについて
 - 6) 昭和60年度セミナー開催計画について
 - 7) 病歴データのもち方について
 - 8) 病院情報システム標準化について
 - 9) その他

4. 総 評

来年度より、病院情報システムの標準化等につき検討していくこととなり、当面は、各委員より意見を求めていくこととなっている。

B シンポジウム

「病院における効果的なコンピュータの使い方」

1. 日 時 昭和59年6月15日(金)～16日(土)
2. 会 場 サンシャインシティ文化会館(東京・池袋)
3. 参加者数 96病院 123名
4. 演 題
 - 1) 総合的病院情報システム形成の努力と効果
 - 2) 病院業務処理から病院管理システムへの展望
 - 3) 医事業務におけるパーソナル・コンピュータの利用と技術上の諸問題
 - 4) 病院情報システムと病院医療

2. 国際モダンホスピタルショウ委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 103名

3. 協議項目
- (1) 4月11日(水) 日病会議室
 - 1) NMR-C Tパネル展示について
 - (2) 7月27日(金) ダイヤモンドホテル
 - 1) '84国際モダンホスピタルショウの反省
 - 2) '85国際モダンホスピタルショウの企画について
 - (3) 11月19日(月) ホテルパシフィック(東京)
 - 1) 国際モダンホスピタルショウ委員会の組織について
 - 2) '84国際モダンホスピタルショウの開催結果について
 - 3) '85国際モダンホスピタルショウの開催要領について
 - (4) 同 日病会議室
 - 1) '85国際モダンホスピタルショウの開催要綱について
 - (5) 1月22日(火) 日病会議室
 - 1) '85国際モダンホスピタルショウの企画について
 - (6) 2月7日(木) 日病会議室
 - 1) 特別企画ホームケアコーナーについて
 - (7) 3月5日(火) 日病会議室
 - 1) 部門別展示方法、細部企画について

3. 33周年記念事業企画・式典運営合同委員会

- 1. 開催回数 2回
- 2. 出席者数 9名
- 3. 協議項目
 - (1) 小委員会 4月10日(火) 日病役員室
 - 1) 案内状について
 - 2) 発送先明細について
 - 3) 式次第について
 - 4) 来賓記念品について
 - 5) 運営役員分掌の確認について
 - (2) 合同委員会 4月20日(金) 帝国ホテル4階橋の間
 - 1) 会場下見
 - 2) 式次第の細部調整について

第5 医療従事者無料職業紹介事業

(紹介状況)

昭和59年4月～60年3月

項目 職種別	求職件数	求人件数	就職件数	繰越求職件数
医師	91	102	31	16
看護職員	1	5	0	0
医師・看護職員を除く医療従事者	15	13	9	4
合計	107	120	40	20

(就職者の地域別状況)

項目 職種別	就職件数	北海道	東北	関東	甲信越	中(東海)部	北陸	近畿	中国	四国	九州
医師	31		1	24		1		2		1	2
看護職員	0										
上記以外の職員	9			9							
計	40		1	33		1		2		1	2

(就職者の年代別状況)

項目 職種別	就職件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
医師	31	2	7	4	7	8	2	1
看護職員	0							
上記以外の職員	9	4	2	1	2			
計	40	6	9	5	9	8	2	1

(診療科別)

内科	19
産婦人科	4
外科	3
小児科	2
整形外科	1
精神科	1
その他	1

(総 評)

将来の医師過剰に備え、対応策の一つとして医学部定員の削減が叫ばれている現在、病院側が医師を選ぶ時代が遠からじくるのではないかと推測されるが、このような傾向の一端が本紹介業務の中で伺えるか。

以下の表中の数字にもとづいての考察では未だ医師不足の感が強い。

ただ、第一に若年層の医師を求める傾向が顕著である。ベテランの医師に対する報酬が経営を圧迫しているのか、代替性が強い。

第二に学位取得者また産業医、各学会の認定医を求める傾向にある。

第三に過疎地域における外国医師の招聘が従前程スムーズにいかない。

このような流れが、将来の変化の先取りなのか、ここ2、3年の資料を吟味していきたい。

開設以来の紹介状況

期 間	項 目	求 人 数	求 職 数	就 職 者 数
	54年度 54. 11. 30 ~ 55. 3. 31		4 0 5	1 2
55年度 55. 4. 1 ~ 56. 3. 31		6 7 6	2 7	2
5 6	医 師	2 3 9	4 1	1 7
	そ の 他	1	2 4	9
5 7	医 師	6 4	6 5	2 0
	そ の 他	9	8	4
5 8	医 師	9 0	1 1 4	4 5
	そ の 他	1 7	1 5	1 2
5 9	医 師	1 0 2	9 1	3 1
	そ の 他	1 8	1 6	9
	計	1,6 2 1	4 1 3	1 4 9

医師求人施設の都道府県別、公私ならびに病床規模別表

昭和55年4月1日～60年2月28日

項目 都道府県	公的 施設	私的 施設	計	0床	1～ 19床	20～ 50床	51～ 100床	101～ 200床	201～ 300床	301～ 400床	401～ 500床	501床 以上
北海道	9	13	22			2	11	2	5	2		
青森	0	1	1		1							
岩手												
秋田	0	2	2				1	1				
山形	2	3	5				1	2	1	1		
宮城												
福島	1	9	10				1	4	1	1		3
栃木	1	2	3		1		1				1	
茨城	2	9	11				3	7			1	
群馬	1	6	7	1			1	2	3			
埼玉	1	13	14			3	6	4		1		
千葉	1	14	15	1		2	1	6	3			2
東京	1	52	53	4	1	3	13	20	8	3	1	
神奈川	1	33	34	4	1	1	9	12	4	2		1
山梨	0	2	2			1			1			
長野	4	4	8	1	1	2	2	1	1			
新潟	1	3	4		1		1	1			1	
静岡	1	4	5	1		1		3				
愛知	0	4	4			1		3				
岐阜	1	2	3				1	1		1		
三重	0	2	2					1	1			
富山	0	1	1					1				
石川												
福井	0	1	1					1				
滋賀	1	2	3					2				1
京都	0	3	3			1			1	1		
大阪	1	18	19		1	2	5	5	5			1
奈良												
和歌山	2	8	10	1			3	3	2	1		
兵庫	0	11	11			1	5	4		1		
岡山	0	1	1				1					
広島	0	3	3				1	1		1		
鳥取	0	2	2					1	1			
島根												
山口	0	2	2			2						
香川	0	2	2				2					
徳島												
高知	0	1	1					1				
愛媛	0	3	3				2	1				
福岡	4	8	12	1			2	4	4	1		
佐賀												
長崎	0	1	1				1					
熊本	1	1	2					1	1			
大分												
宮崎	0	1	1								1	
鹿児島	0	1	1				1					
沖縄	1	4	5				3	1	1			
計	37	252	289	14	7	22	78	96	43	16	5	8

医師求人施設の都道府県別、求人科目別表 昭和55年 4月1日～60年 2月28日

求人施設 都道府県	診療科目	内科	精神神経	呼吸器	循環器	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	性病科	肛門科	産人婦科	眼科	耳鼻咽喉科	理学療法科	放射線科	気道科	食道科	麻酔科	歯科	その他	計	
北海道		22	1			2	4	2							1							1	33	
青森		1				1																		2
岩手																								
秋田		1	1					1																3
山形		5	1				1	1						1	1									10
宮城																								
福島		9			1		2	2		1				1	1							1	18	
栃木		1								1					1							1	1	5
茨城		7	1		1		4	2																15
群馬		5	1				1	1					1											9
埼玉		13	1			2	6	2	1				1											26
千葉		13	1			1	5	1					2	1	1									25
東京		39	2	1		2	9	14		2			3	3								1	2	78
神奈川		27	3	1	1		5	4						1	3								1	46
山梨		2					1																	3
長野		6				1	4	1					1	1	1								1	16
新潟		3					1						1											5
静岡		4						1					1											6
愛知		4					2	2																8
岐阜			1				1			1			1											4
三重		1	1					1																3
富山		1					1	1																3
石川																								
福井								1																1
滋賀		2				1	1	1	1				1											7
京都		3				1	1	3																8
大阪		13			1		7	4	1					1	1									28
奈良																								
和歌山		6				1	6	2					2											17
兵庫		8					4	2												1				15
岡山		1																						1
広島		1	1		1		2		1															6
鳥取		1					1																	2
島根																								
山口		2						1		1														4
香川		1					1	1																3
徳島																								
高知		1	1																					2
愛媛		2					1							1	1									5
福岡		11	1				2	1						1	1								1	18
佐賀																								
長崎		1																						1
熊本		1						1																2
大分																								
宮崎		1																						1
鹿児島							1																	1
沖縄		4				2	2	1	1															10
計		223	17	2	5	14	76	54	5	6			14	11	12					1	2	8	450	

第 6. 定例研究会

1. 定例病院診療研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- (1) 4月17日(火) 国立療養所村山病院 5施設 7名
- ① 施設見学
- ② 「最近の脊椎・脊髄外科の現況」
国立療養所村山病院 第一整形外科医長 大谷 清
- (2) 6月19日(火) 埼玉県立小児医療センター 11施設 19名
- ① 「小児病院における放射線科の在り方」
埼玉県立小児医療センター 放射線科副部長 藤岡 睦久
- ② 施設見学
- (3) 12月18日(火) 都立広尾病院 13施設 16名
- ① 「救急病院における医療ソーシャルワーカー(MSW)の活動」
都立広尾病院 医療相談室 鈴木 孝男
- ② 施設見学
- (4) 2月19日(火) 順天堂浦安病院 18施設 37名
- ① 「順天堂浦安病院の現状」 順天堂浦安病院 院長 小酒井 望
- ② 施設見学

2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 5月16日(水) 日病会議室 31施設 40名
- ① 「アメリカにおける病院原価管理と予算統制」
河北総合病院 副理事長 河北 博文
- ② 「最近のコンピュータの進歩とトータル・システムへのアプローチ」
虎の門病院 情報システム課長 斉藤 誠
- (2) 7月17日(火) 日病会議室 32施設 40名

- | | | |
|--------------------|---------------|-------|
| ① 「医療費改訂の影響と経営対応策」 | 武蔵野赤十字病院 医事課長 | 緒方 廣市 |
| | 北品川総合病院 事務次長 | 勝守 昭雄 |
| | 社保蒲田総合病院 事務長 | 安藤 秀雄 |
| ② 「医療費改訂の影響と薬価問題」 | 日比谷病院 庶務課長 | 梅津 勝男 |

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- | | | | |
|--------------------------------|---------------------|-------|------|
| (1) 4月19日(木) | 全国町村議員会館 | 93施設 | 146名 |
| | 「収入管理のあり方」 | | |
| | 「査定減に対する積極策」 | | |
| ① 「収入管理のあり方」 | | | |
| a. 収入管理のあり方 | 厚生省病院管理研究所 経営管理部長 | 針谷 達志 | |
| b. 事例 1 | 本島病院 業務課長 | 中野 隆男 | |
| c. 事例 2 | 虎の門病院 医事課係長 | 船津 浩 | |
| ② 「査定減に対する積極策」 | | | |
| | グループ討議 | | |
| a. レセプト院内審査 | | | |
| b. 対策委員会の運営 | | | |
| c. 再審査申請の進め方 | | | |
| (2) 9月20日(木) | 全国町村議員会館 | 98施設 | 192名 |
| | 「健保法改正による留意点」 | | |
| | 「医事業務とコンピュータ その9」 | | |
| ① 「健保法改正による留意点」 | 三井記念病院 医事課顧問 | 三上 晃 | |
| ② 「コンピュータ導入検討における知識と留意点」 | | | |
| a. 患者情報を中心として | 聖路加国際病院 医事課次長 | 湯浅 誠 | |
| b. 点数計算を中心として | 河北総合病院 医事課係長 | 大西 正利 | |
| c. コンピュータメーカー並びにセンターが導入病院に望むもの | 杏林大学医学部付属病院 医事課長 | 徳永 貴士 | |
| ③ 「コンピュータ導入後における問題点とその対策」 | | | |
| | — 導入を検討している病院への警鐘 — | | |
| | 本島病院 業務課長 | 中野 隆男 | |

- 越谷市立病院 医事課第二係長 染 谷 光 一
- (3) 2月21日(木)～22日(金) 浜松市 館山寺ロイヤルホテル 39 施設 60 名
- ① 基礎医学講座 (第 28 回)
- 「肝疾患について」 総合病院聖隷浜松病院 副院長 藤 澤 弘 芳
- ② グループ討議
- ③ 情報交換
- ④ 事例解答例の説明
- ⑤ 全体討議

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- (1) 7月6日(金) 聖路加国際病院第二記念館 17 施設 20 名
- ① 「当院における広報活動」 亀田総合病院 広報課長 君 塚 清
- ② 「院内報のつくり方」 ㈱形成社 代表取締役 中 城 民 夫
- (2) 11月16日(金) S R L セミナールーム 23 施設 27 名
- ① 「今、何故、病院に T Q C なのか」 北里大学 教授 井 上 昌 彦
- ② 「サービス業における T Q C」 日本管理技術協会 渡 辺 勝 行
- (3) 2月18日(月) S R L セミナールーム 43 施設 54 名
- ① 「初任給・賃金水準」 聖路加国際病院 総務課次長 石 山 稔
- ② 「諸手当」 元済生会向島病院事務長 稲 垣 武
- ③ 「人事考課」 石和温泉病院 事務長 齊 藤 正 夫

5. 定例用度研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- (1) 6月22日(金) 日病会議室 94 施設 109 名
- 「医薬品産業をとり巻く環境と医薬品流通」
- 薬事ニュース社 編集部記者 東 栄 一
- (2) 9月28日(木) 横須賀米海軍病院 33 施設 47 名
- 「N R M C の病院管理に占める物品管理の位置づけと、その実際」
- 横須賀米海軍病院 Mr. Wohcher

- (3) 11月16日(金) 日病会議室 41 施設 51 名
「用度業務に関する調査・業務内容と範囲、および、医薬品等価格調査」
用度研究会 委員 塩山 雅英 ・ 南雲 英俊 ・ 梅津 勝男
川田 國雄 ・ 手島 基行

6. 定例施設研究会

1. 開催回数 4回
2. 開催概要
 - (1) 5月11日(金) 日病会議室 29 施設 38 名
「病院施設設備の事故例」 — 建築・空調・電気・衛生のトラブル —
 - (2) 9月28日(金) 獨協医科大学越谷病院 24 施設 43 名
「病院施設見学」
 - (3) 12月6日(木) 日病会議室 37 施設 43 名
「施設管理の問題点」
— 省エネをふまえた暖房運転 —
— 病院における直営・外注のメリット・デメリット —
— 受水槽のトラブル —
 - (4) 2月14日(木) 日病会議室 24 施設 31 名
「施設設備の効率化」 — わが病院の改善事例 —

7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回
2. 開催概要
 - (1) 6月13日(水) 虎の門病院 48 施設 61 名
① 「部門別原価計算の演習」 聖路加国際病院 総務課 中村 彰吾
② 施設見学
 - (2) 9月13日(木) 東京通信病院 29 施設 36 名
① 「部門別原価計算とその結果」 聖路加国際病院 経理課次長 横山 達治
② 施設見学

8. 定例労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- (1) 5月24日(木) 主婦の友ビルホール 85施設 260名
「看護研究」 — リーダーとしてのかかわり方 —
千葉大学看護学部 助教授 金井和子

10. 定例看護研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- (1) 2月21日(木) コクヨホール 76施設 215名
「看護体制の変革をめぐる」 厚生省健康政策局 看護課長 清水嘉與子

11. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- (1) 4月25日(水) 日赤中央女子短期大学講堂 27施設 31名
「病院薬剤師のための薬事法学」 東京大学薬学部 講師・弁護士 三輪亮寿
- (2) 9月19日(水) 日赤中央女子短期大学講堂 41施設 45名
「公正取引規約に伴う諸問題」
医療用医薬品製造業公正取引協議会 運営委員長 山田裕久
- (3) 12月6日(木) 日赤中央女子短期大学講堂 44施設 49名
「血液製剤の変遷と現況」
日本赤十字社中央血液センター 製剤部長 羽田憲司
日本赤十字社中央血液センター見学
- (4) 2月13日(水) 日赤中央女子短期大学講堂 25施設 28名
「先輩薬剤師の立場から後輩に望む」
薬事管理研究会委員 日本薬剤師会副会長 永瀬一郎
明治薬科大学 客員教授 吉本与一

12. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

(1)	4月24日(火)	日本栄養会館	62施設	91名
①	「新しい配膳システムの方向」	三井記念病院 栄養管理室長	田 辺 嘉 子	
		済生会横浜市南部病院 栄養課長	末 崎 一 恵	
(2)	6月5日(火)	日本栄養会館	67施設	85名
①	「病院給食のコンピュータの応用」	越谷市立病院 栄養科長	坂 内 礼 子	
②	「パソコンにおける栄養指導の検討」	慶応義塾大学病院 食養第1科 科長代理	渡 部 昭	
(3)	11月13日(火)	日本栄養会館	68施設	101名
①	「新しい栄養所要量について」	国立栄養研究所 健康増進部長	小 林 修 平	
②	「米国病院栄養管理視察団に参加して」	三井記念病院 栄養管理室主任	佐 藤 ミヨ子	
(4)	2月5日(火)	(調理研究会と合同) 日本栄養会館	57施設	87名
	「給食委託業務を考える」	名古屋掖済会病院 院長	太 田 元 次	
		都立府中病院 栄養科長	深 浦 京 子	

13. 定例調理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

(1)	5月15日(火)	日本調理機(株) 栃木工場	17施設	28名
①	工場見学			
②	映画鑑賞 「ヒポクラテスの島」			
	「明日の病院給食」			
③	「調理機器の適切な利用法と安全性について」	日本調理機(株) 常務取締役	高 木 貞 安	
(2)	7月10日(火)	日本栄養会館	38施設	68名
①	「調理師と衛生」	東京都文京区本郷保健所 衛生課長	熊 本 昌 司	
②	「病態調理師の心構え」	聖路加国際病院 栄養科長	宇 井 美 代 子	
(3)	2月5日(火)	(栄養管理研究会と合同)		
(4)	3月14日(木)	(株)伊勢丹プチモンド 新宿駅マイシティ店	23施設	39名
①	「西洋料理の基本」			

— 調理実習とテーブルマナー —

㈱伊勢丹プチモンド 取締役総料理長 栗山 八郎

② 試食会

14. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

(1) 第68回	4月28日(土)	聖路加国際病院	49 施設	65 名
(2) 第69回	7月14日(土)	都立広尾病院	20 施設	31 名
(3) 第70回	10月27日(土)	国立病院医療センター	19 施設	28 名
(4) 第71回	1月12日(土)	東京都済生会中央病院	51 施設	83 名

15. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 9月27日(木)	品川総合福祉センター	13 施設	13 名
	「センター見学、概況説明」	常務理事	赤松 俊夫
(2) 1月24日(木)	日病会議室	24 施設	32 名
① 「民間疾病保険の現状と展望」			
	明治生命保険相互会社 主計部主席アクチュアリー		福地 誠
② 「21世紀に向っての医療」		前厚生省医務局長	大谷 藤郎

16. 定例放射線研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 3月8日(金)	日病会議室	12 施設	13 名
	「米国のQCと日本のQC」		
	昭和大学医学部附属病院 放射線科技師長		神田 幸助

17. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- (1) 6月16日(土) 池袋サンシャイン・シティ・文化会館 223名
- ① 「外来患者迅速検査システム—その功罪」 佐賀医科大学 教授 只野 寿太郎
- ② 「外来患者迅速検査システムの実際」 佐賀医科大学 中検技師長 植田 寛
- ③ 「検査データ処理へのコンピュータ応用結果報告形式の改善」
本島病院 電算室室長 中野 隆 男
- ④ パネル・ディスカッション「変換期を迎えた臨床検査室の将来展望」
- (a) 「高度医療の中で臨床側は検査室に何を求めるか」
向島済生会病院 院長 北村 信一
- (b) 「臨床医の管理的立場からの院内検査と外注検査の対応」
国立第二病院 内科医長 高橋 隆一
- (c) 「病院事務長からみた院内・外注検査のメリット・デメリット」
虎の門病院 事務長 黒田 幸男
- (d) 「中検技師長は、院内・外注検査をどのように考えるか」
都立豊島病院 中検技師長 山田 勇
- (e) 「衛生検査所の立場からみた院内・外注検査の対応」
SRL 専務取締役 伏見 修
- (f) 「今後の臨床検査はどのように変わるか」
北里大学医学部 教授 斉藤 正行

18. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

(1) 5月30日(水) 日病会議室 32施設 48名

「病院のハウスキーピングを委託するには」

— 病院メンテナンスとビルメンテナンスとの相違点について —

① 総論(委託の形態) 国際医療管理専門学校 講師 近藤 英二

② 事例報告 ハウスキーピング研究会 委員

(2) 9月17日(月) 日病会議室 56施設 75名

「改定基準寝具類(厚生省通知)の洗濯等の取扱いについての解説を聞く研究会」

— 帳票類の整理及び記帳について —

東京都衛生局医務部医務課 指導係長 吉田 健治

東京都福祉局社会保険指導部 保険医療課 地方事務官 浅野 廉敏

(3) 1月18日(金) 日病会議室 16施設 18名

「業務委託業者に対する指導監督のマニュアルの作り方」

国際医療管理専門学校 講師 近藤英二

19. 内科臨床協議会

1. 開催回数 9回

(各グループ随時開催分を除く)

2. 開催概要

(1) 昭和59年5月31日(木)

3グループ・B班 都立府中病院 12名

検討症例

① 失神発作により緊急入院 (都立府中病院)

② 急性呼吸不全 (公立昭和病院)

(2) 昭和59年9月27日(木)

1グループ・C班 関東通信病院 36名

検討症例

① 大量飲酒後に急性腎不全を発症した33歳の男性 (北品川総合病院)

② 高度の頭痛により発症した50歳の男性 (厚生中央病院)

③ 浮腫、皮膚色素沈着および末梢神経障害を呈し、免疫グロブリン異常を
認めた76才の男性 (関東通信病院)

(3) 昭和59年10月4日(木)

2グループ・B班 関東中央病院 29名

検討症例

① 高LDH血症を呈した2例 (大蔵病院)

② 悪性関節リウマチの治療中における小腸窄孔 (自衛隊中央病院)

③ ほぼ正常の肝臓に生じたHxper Vascular Tumor (関東中央病院)

(4) 昭和59年11月8日(木)

2グループ・B班 都立豊島病院 21名

検討症例

① 診断困難であった腹部腫瘍 (都立豊島病院)

(国立病院医療センター)

(佼成病院)

(日赤医療センター)

- (5) 昭和59年11月27日(火)
1 グループ・E班 都立墨東病院 19名
検討症例
① 吸収不全症候群 (都立墨東病院)
② トリクロルエチレン取扱者にみられた Stevens Johnson 症候群 (国府台病院)
- (6) 昭和60年1月22日(火)
2 グループ・C班 河北総合病院 39名
検討症例
① 胸部の写真で、当初の予想に反する結果が得られた症例 (東京厚生年金病院)
(社保中央総合病院)
(河北総合病院)
- (7) 昭和60年1月30日(水)
2 グループ・C班 中野総合病院 15名
検討症例
① 急性糸球体腎炎の1例 (中野総合病院)
② クロウン氏病の1例 (東京医科歯科大学より特別参加)
- (8) 昭和60年2月19日(火)
1 グループ・B班 東京通信病院 23名
検討症例
① CPC 著明な皮膚転移を起こした腹部腫瘍の1例 (東京通信病院)
(東京警察病院)
(三井記念病院)
- (9) 昭和60年2月25日(月)
1 グループ・A班 三楽病院 21名
検討症例
① 低蛋白血症を伴ったSLEの1例 (聖路加国際病院)
② 興味ある早期胃癌の1例 (国立がんセンター)
③ 興味ある腹部腫瘍の1例 (三楽病院)

20. 健康保険法改正にともなう実務者講習会

1. 開催回数 3回
2. 開催月日 昭和59年 9月12日(水) 東京
9月15日(土) 神戸
9月22日(土) 東京
3. 開催地 東京 東医健保会館
神戸 西山記念会館
東京 番町共済会館
4. 参加者 東京(東医健保) 410名
神戸 558名
東京(番町共済) 228名 計 1,196名
5. 講師 厚生省保険局 企画課 和田 勝

21. 医療費改訂による説明会

1. 開催回数 2回
2. 開催月日 昭和60年 2月19日(火) 東京
2月22日(木) 神戸
3. 開催地 東京 北区公会堂
神戸 灘神戸生協生活文化センター
4. 参加者 東京会場 591名
神戸会場 491名 計 1,082名
5. 講師 厚生省保険局 医療課 今田 寛 睦

第7 全国研究会

1. 全国病院診療研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年9月13日(木)～14日(金)
3. 開催地 千葉県

- ① 国保松戸市立病院
- ② 千葉県救急医療センター
- ③ 自動車事故対策センター附属千葉療護センター

4. 参加者数 12施設 18名

5. 演題

(1) 講演

- ① 「当院の第二次救急医療センターとしての任務」

国保松戸市立病院 院長 遠藤博志

- ② 「当院の新生児医療センターの現状と役割」

国保松戸市立病院 新生児科部長 竹内豊

- ③ 「独立の救急センターの特徴と問題点について」

千葉県救急医療センター長 野口照義

(2) 施設見学

- ① 国保松戸市立病院
- ② 千葉県救急医療センター
- ③ 自動車事故対策センター附属千葉療護センター

6. 総評

- (1) 参観した三か所の施設は、何れもきわめて特徴ある医療を行っており、着々と成果をあげ、熱意に燃えている状況がうかがわれた。各演者の講演は、実際の豊富な経験にもとづいた充実した内容であった。参加者は今後の病院診療管理に多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。
- (2) テーマのP・Rが不十分であったのと開催地が都内から中途半端な距離のため、参加者が少なかったのは、内容に比べて遺憾であった。この点について、慎重に検討したい。

2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和59年10月26日(金)～27日(土)

3. 開催地 金沢市 石川県医師会館

4. 参加者数 63施設 87名

5. 演 題

(1) 「病院経営危機に対する弾力性の強化とソフト的対応」

日本病院管理研究協会 常務理事 石原 信 吾

(2) 「医療業務と専門資格」— 最近の事例から —

石川県厚生部衛生総務課 課長 小堀 喜久治

(3) 「経営改善事例」

① 事例Ⅰ 聖路加国際病院 事務長 上林 三 郎

② 事例Ⅱ 金沢赤十字病院 事務部長 義煎 平一郎

(4) 「看護業務量と人員配置」 横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓 作

(5) シンポジウムⅠ

「3月改訂と健保1割負担制度実施の影響とその対応」

恵寿総合病院 院長 神野 正 一

石川県立中央病院 管理局長 洲 卷 隆

虎の門病院 事務部長 黒田 幸 男

社保蒲田総合病院 事務長 安藤 秀 雄

横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓 作

(6) シンポジウムⅡ

「魅力ある病院とは」 芳珠記念病院 理事長 仲井 信 雄

国立金沢病院 看護副部長 島津 しずえ

聖路加国際病院 事務長 上林 三 郎

聖隷福祉事業団 常務理事 大塚 暢

6. 総 評

本年度の全国研究会は、近年の病院を取りまく、ますます厳しくなる環境の中で病院管理を担当するものはどのように対処したらよいかを追求するため、経営改善に即役立つ講演を選定し、シンポジウムも2題取り入れ、討論の中から解決の糸口をつかまうと企画した。その結果、各講師も実例を取り入れた講演となり従来のような総論でなく具体的なものとなったため、参加者全員の真剣さとシンポジウムにおける質疑応答時の熱心さが強く感じられ、主催者側としてもこの問題の深さをあらためて痛感した。

今後も地元からの講師を依頼し、特色のある、又事例を取り入れた講演を企画し、今後の経

宮改善の一助となるような研修会とすることを確認した。

また、今回の研修会を開催するにあたり、地元よりの講師選定から事前準備等、多大なるご尽力をいただいた石川県医師会並びに石川県病院協会役員、職員各位、また道下忠蔵先生に深く感謝するしだいである。

3. 全国医事研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催期日

(第1回) 昭和59年7月19日(木)～20日(金)

(第2回) 昭和59年11月21日(水)～22日(木)

3. 開催地

(第1回) 盛岡市 盛岡会館

(第2回) 松江市 松江赤十字病院

4. 参加者数

(第1回) 81施設 135名

(第2回) 56施設 98名

5. 演題

(第1回)

(1) 基礎医学講座(第26回)

「最近の脳血管障害に対する考え方とその対策」

岩手県立中央病院 第一内科科長 高橋 暁

(2) 「医療収入確保のために」

① 医療収入のとらえ方 東京警察病院 医事第一課課長補佐 日輝 勝郎

② 請求もれ防止対策 岩手県立中央病院 医事課長 荒木田 次郎

③ 医療収入確保に必要なチェック方法 本島病院 業務課長 中野 隆男

(3) 「積極的な査定減対策」 三井記念病院 医事課顧問 三上 晃

岩手県立宮古病院 医事課長 小野寺 康

北品川総合病院 事務部顧問 加藤 雄二

(4) グループ討議

(5) 事例解答例の説明

(6) 全体討議

(第2回)

(1) 基礎医学講座(第27回)

「消化管の構造と病態生理」 松江赤十字病院 副院長 池田 博

(2) 「健保法改正と医事業務」 三井記念病院 医事課顧問 三上 晃

(3) 「医事業務とコンピュータ」— 何が問題点か —

① 導入してみたの問題点 I 松江市立病院 医事課第二係長 三島 孝夫

② 導入してみたの問題点 II

杏林大学医学部付属病院 医事課長 徳永 貴士

(4) 「看護と医事の協調上の諸問題」— 特に請求もれ防止に関連して —

① 看護部門からみた医事業務 松江赤十字病院 看護婦長 板橋 和子

② 医事課が看護部に期待するもの

松江赤十字病院 医事第二課入院係長 安達 孝彦

③ 請求もれ防止対策としての看護と医事

三井記念病院 医事課顧問 三上 晃

(5) グループ討議

(6) 事例解答例の説明

(7) 全体討議

6. 総 評

毎回好評を得ている基礎医学講座、事例研究のほか、本年度は医事課職員が日頃抱えている諸問題として「医療収入確保のために」「積極的な査定減対策」「医事業務とコンピュータ」「看護と医事の協調上の諸問題」をテーマとして掲げ、延 137 施設 233 名の参加者を呼んだ。

テーマの選定にはその都度タイムリーな内容をもりこむことに配慮し、それを受けて事例研究のグループ討議や最終プログラムの全体討議では、単に医事業務についてのみならず、病院経営の観点からの質疑が交わされた。

病院内における医事課の責務を再認識し、今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1 回
2. 開催期日 昭和59年9月20日(木)～21日(金)
3. 開催地 新潟市 新潟県中小企業会館
4. 参加者数 64施設 123 名

5. 演 題

- (1) 「これからの病院はどうか」 水原郷病院 院長 寺 田 一 郎
- (2) 「病院が生き延びるための病院のイメージアップと職員の意識改革」
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 針 谷 達 志
- (3) パネルディスカッション
「休日・夜間の看護体制の問題点と対応策」 虎の門病院 総務課長 石 原 孝 憲
済生会新潟総合病院 総婦長 荒 木 陽 子
総合病院長岡赤十字病院 看護部長 金 子 ノ リ
東京衛生病院 人事課長 西 浦 捷 裕
- (4) 「防災について」 聖路加国際病院 総務課次長 石 山 稔
- (5) 「病院におけるTQCについて」 北里大学 教授 井 上 昌 彦

6. 総 評

この数年来取り組んでいる「病院を取り巻く新しい時代への対策」をふまえて、本年度は新たに「病院が生き延びるための病院のイメージアップと職員の意識改革」「病院におけるTQCについて」をとりあげたほか、地元の協力を得て、パネルディスカッション「休日・夜間の看護体制の問題点と対応策」を企画した。

参加者は、事務部門のほか病院長、看護部門からと多岐にわたり、終始熱のこもった質疑が交わされた。

また、本年度は庶務人事・労務両研究会委員が中心となって、関東甲信越ブロックを対象にして行ったアンケートをもとに、病院賃金実態調査資料集をまとめた。

賃金実務担当者には、画期的な資料であることを反映して、「非常に参考になった」との声が届いている。

5. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年3月8日(金)～9日(土)
3. 開催地 水戸市 水戸京成ホテル
4. 参加者数 49施設 63名
5. 演 題
 - (1) 「用度業務に関する調査」
 - (2) 「医薬品を除いた物品の価格調査」
 - (3) 「医薬品に関する調査」

用度研究会 委員 塩山 雅英 ・ 南雲 英俊 ・ 梅津 勝男
川田 国雄 ・ 手島 基行

(4) 「本院のあゆみと、めざすもの」

日本病院会常任理事 水戸済生会総合病院 院長 丹野 清喜

(5) 「水戸済生会総合病院の見学」

6. 総 評

本会常任理事・丹野清喜先生のご協力を得て茨城県・水戸市において研究会を開催した。
使用した資料は、関東地域を除いた全国の会員病院に対して行ったアンケートの集計表である。

各病院の用度業務を担当するスタッフにとって全国レベルの物品・医薬品等の価格状況を知る事は重要であり、メーカーとの対応の方法についても参加者間の情報交換の場となった。

また、水戸済生会総合病院の見学は、新たな情報を参加者に与えたようである。

今後も、引き続き改良を加えていきたいとの研究会委員の意見であった。

6. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和59年10月11日(木)～12日(金)

3. 開催地 名古屋市 愛知県医師会館

4. 参加者数 84施設 110名

5. 演 題

(1) 「アンケート集計結果の発表」 自治医科大学 事務局技監 倉持 一雄

(2) 「中小病院の設備トラブルについて」 中野総合病院 施設課長 秋元 陽一郎

(3) 「防災について」 癌研究会附属病院 施設管理課長 松岡 文男

(4) 「今日の病院建築に思うこと」 松山設計事務所 松山 雅雄

(5) 「建築について」 武蔵野赤十字病院 庶務係長 小峰 建二

(6) 「蒸気について」 東京都立豊島病院 主事 中西 照録

(7) グループ討議

(8) 「電気について」 北品川総合病院 施設課長 中島 昭二郎

(9) 「衛生について」 東京都済生会中央病院 施設課長 辺見 九十九

(10) 施設見学 名古屋掖済会病院

6. 総 評

昨年好評であった全国会員病院を対象とした病院施設管理調査の実施・集計発表および病院

施設見学のほか、施設担当者が抱える諸問題のうち、事前のアンケートで最も要望の強かった防災・建築・蒸気・電気・衛生・空調面を中心とした「病院内における設備トラブル」をテーマとして掲げ、問題解決の糸口が見つけられるようなプログラムを編成した。

施設担当者の果たす役割が再認識されてきていることを反映して、従来にない地元の協力を得て、予想以上の参加者を呼び、熱っぽい雰囲気の中で終始した。

7. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年11月15日(木)～16日(金)
3. 開催地 京都市 京都府医師会館
4. 参加者数 55施設 58名
5. 演 題
 - (1) 「アメリカの医療情勢について」 日本大学医学部 助教授 大 道 久
 - (2) 「最近の病院税制について」 有澤総合病院 院長 有 澤 源 蔵
 - (3) 「簡便な部門別原価計算について」 東京衛生病院 事務長 衣 川 輝 夫
 - (4) 「経営分析集計結果の発表」 河北総合病院 財団事務局常勤顧問 酒 泉 春 雄
 - (5) 「日本の中小病院の将来について」 岡本病院 理事長 岡 本 隆 一
 - (6) 施設見学 武田病院
6. 総 評

企画段階において、例年好評を得ている「最近の病院税制について」「経営分析集計結果の発表」に加え、予め地元関係者から希望テーマを募ったところ、特に、病院の経営危機という観点からのプログラム編成を希望する声が多く、「アメリカの医療情勢について」「簡便な部門別原価計算について」「日本の中小病院の将来について」を選定したほか、昨年実施したアンケート結果に留意して病院施設見学を再びもりこんだ。

実務面からの問題点の指摘が随所にあり、参加者が少なかつたにもかかわらず、講師と参加者との間で熱心に質疑応答が繰り返されていた。

8. 全国労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年10月3日(水)～4日(木)
3. 開催地 秋田市 秋田キャッスルホテル
4. 参加者数 73施設 219名
5. 演 題

- (1) 講演「これからの看護」 NHK解説委員 行 天 良 雄
- (2) 講演「看護過程を考える」
 - ① 看護情報の求め方(その1) 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子
 - ② 看護情報の求め方(その2) 駿河台日大病院 婦長 佐 藤 キ ク
練馬総合病院 総婦長 大久保 和 恵
武蔵野赤十字病院 婦長 中 原 久 江
- (3) シンポジウム「看護の変化と対応」
 - ① 医療場面の変化(その1) 関東通信病院 総婦長 大 関 マサ子
 - ② 医療場面の変化(その2) 前日本専売公社東京病院 看護部長 須 谷 照 子
 - ③ 求められる看護サービス 東京警察病院 総婦長 嶋 崎 佐智子
 - ④ 看護サービスの評価 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子

6. 総 評

秋田赤十字病院の方々の熱心なご協力があり、大変スムーズに行われた。看護情報の求め方においては、岐阜での研究会を反省し改善したのと、2回目の講演ということもあって目的が達せられたと思う。

10. 全国看護研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年7月5日(木)～6日(金)
3. 開催地 岐阜市 岐阜県美術館
4. 参加者数 78施設 225名
5. 演 題

- (1) 講演「看護過程を考える」
 - ① 看護過程 ―看護実践を考える― 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子
 - ② 看護情報の求め方 東京警察病院 総婦長 嶋 崎 佐智子
 - ③ 看護サマリーについて 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子

(2) 講演「カンファレンスの持ち方」

㈱経営問題研究会 代表取締役社長 二挺木 秀 雄

6. 総 評

看護情報の求め方においては各委員が演者となり、準備に労力を費やしたがまだまだ準備不足であったと思われる。委員自身が演者に立つ事は参加者にもまた委員にも良い刺激になったと思う。そして美術館という雰囲気が参加者をリラックスさせていたようである。

11. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和59年6月14日(木)～15日(金)

3. 開催地 大阪市 薬業年金会館

4. 参加者数 128施設 156名

5. 演 題

(1) 「病院経営と薬剤管理」 日本病院会顧問・南大阪病院 院長 内 藤 景 岳

(2) 「病院における薬剤管理等」 東大阪市立中央病院 薬局長 木 村 繁 之

聖路加国際病院 薬局長 片 山 孝 一

淀川キリスト教病院 薬局長 保 田 静 江

(3) 「薬価基準を考える」 厚生省保険局 医療課薬剤管理官 内 山 寿 紀

日本病院会 常任理事・岡本病院 理事長 岡 本 隆 一

日本薬剤師会 常務理事 岡 本 彰

日本製薬団体連合会 保険薬価研究会委員長 武 田 公 一
塩野義製薬株式会社 取締役

(4) 施設見学 淀川キリスト教病院

6. 総 評

厚生省をはじめとして、各団体・病院の各専門分野の方々から、タイムリーな問題点を分析していただいたとして、全国の病院薬剤師の大きな関心を得た。

12. 全国栄養管理研究会（調理研究会との合同研究会）

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和59年9月28日(金)～29日(土)

3. 開催地 仙台市 仙台赤十字病院

4. 参加者数 54施設 82名

5. 演 題

- | | | |
|-----------------------|-----------------|---------|
| (1) 講演「現代人の食生活と健康」 | 東北大学農学部 教授 | 木 村 修 一 |
| (2) 講演「新しい配膳システムの方向」 | 三井記念病院 栄養管理室長 | 田 辺 嘉 子 |
| (3) 講演「コンピュータによる栄養指導」 | 東京厚生年金病院 栄養部長 | 松 原 民 江 |
| (4) 分科会「科内勉強会について」 | 日本専売公社東京病院 調査役補 | 中 川 涉 男 |
| (5) 施設見学 | 仙台赤十字病院 | |

6. 総 評

演題については、地元関係者の要望による講演会と中央で関心を集めたテーマをえらんだ。また調理研究会と合同ということもあって、分科会「科内勉強会」を加えた。

内容的には木村東北大学教授の密度の濃い講演と目まぐるしい医療の進歩の中でのコンピュータ応用の栄養指導など充実したものであったにもかかわらず、参加者100名をこえることができなかったのは大へん残念だった。東北地方は殆ど未開拓の地で（約20年前、一度だけ盛岡で開催）度々開催地の候補にあげられながら、コンタクトが取りにくい理由で実現しなかった。今回始めて仙台で開催し、やはりガードの硬さが感じられたものの今回の開催を契機として日病の研究会の存在を知ってもらったことは、経済的に採算はとれなかったものの意義深いことと思う。

次の機会には是非大勢の人の参加を得ることを念じている。

13. 全国調理研究会

（本年度は、栄養管理研究会との合同開催として実施した。）

14. 全国病院管理総合研究会

- 開催回数 1回
- 開催期日 昭和59年7月13日(金)～14日(土)
- 開催地 和歌山市 和歌山県民文化会館
- 参加者数 83施設 292名
- 演 題

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------|
| (1) 「病院におけるQC活動」 | 森本病院 医事課長 | 前 川 良 則 |
| | アルメイダ病院 総務部長 | 瀬 川 藤 正 |
| (2) 「これからの中小病院のあり方」 | 岡本病院 理事長 | 岡 本 隆 一 |
| | 月山病院 院長 | 月 山 和 男 |
| | 大阪毎日新聞大阪本社 社会部長 | 古 野 喜 政 |

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------|
| | 和歌山県衛生部 部長 | 西 本 至 |
| | 北出胃腸病院 事務長 | 大 江 唯 之 |
| (3) 「病院税制問題」 | 有澤総合病院 院長 | 有 澤 源 蔵 |
| (4) 「老人看護を考える」 | 厚生省医務局看護課 課長 | 清 水 嘉 與 子 |
| | 和歌山県立医科大学附属病院 | 上 野 艶 枝 |
| | 和歌浦病院 看護婦長 | 宮 路 雅 子 |
| | 兵庫医科大学病院 | 田 中 治 美 |
| (5) 「老人病の予防と管理」 | | |
| | 東京都老人総合研究所疫学部第一研究室 室長 | 松 崎 俊 之 |
| (6) 「激動の医療経済と今後の病院管理」 | 自治医科大学 教授 | 一 条 勝 夫 |

6. 総 評

地元役員として遠藤香苗先生のご協力により、日病和歌山県支部、ならびに(社)和歌山県病院協会の後援を得て、日常病院人が直面している問題点を各専門分野の講師をお招きして研究の場を設けたことが多くの参加を得た原因であったと思える。

15. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年5月25日(金)～26日(土)
3. 開催地 広島市 みゆき会館
4. 参加者数 15施設 20名
5. 演 題
 - (1) 「放射線研究会のあゆみ」 東京医科大学霞ヶ浦病院 技師長補佐 藤 田 良 三
 - (2) 「医療人としての心得」 広島県病院協会 会長 河 村 虎 太 郎
河村病院 院長
 - (3) 「日常診療におけるパノラマ撮影の意義」
広島大学歯学部歯科放射線教室 教授 和 田 卓 郎
 - (4) 「高齢化に対する生と性」 栃木県保健衛生事業団 理事長 志 賀 信 雄
6. 総 評

放射線研究会のあゆみについて、藤田良三放射線研究会委員長より報告があった。

また、放射線技師の医療人としての心得と題して講演があり、専門技術の向上を併せ研究会が開かれた。

今後も、このような計画を立てより多くの参加者を募りたい。

16. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年9月28日(金)～29日(土)
3. 開催地 新潟市 新潟県自治会館
4. 参加者数 32施設 44名
5. 演題

(1) 「臨床医に期待される臨床検査室」

新潟大学医学部 検査診断学教授 尾形 稔

(2) パネル・ディスカッション「臨床検査管理者の経営意識——現状と対策——」

- ① 技師長の立場から
長岡赤十字病院 技師長 伊豆 一雄
県立吉田病院 技師長 黒岩 貞樹
 - ② 主任技師の立場から
社保都南総合病院 主任 福田 順一
 - ③ 事務長の立場から
新潟県厚生連中央総合病院 事務長 内山 政一
- (3) 「地域医療の中における臨床検査の役割」 新潟県医師会 理事 馬場 賢一

6. 総評

将来に向かっての臨床検査技師のあり方について各方面から研究を行った。今後も、更に多様化する医療のなかでの検査業務の領域について研究する。

17. 全国ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年3月7日(木)
3. 開催地 東京都 中野サンプラザ
4. 参加者数 40施設 48名
5. 演題

(1) 講演「最近の情勢変化による今後の病院ハウスキーピングの在り方」

日本病院管理研究協会 常務理事 石原 信吾

(2) シンポジウム「基準寝具の管理の諸問題」

- ① リースの仕様内容について 都立府中病院 家政係長 伊藤 ユキ子
- ② 補給(サプライの仕方)について 国際医療管理専門学校 講師 近藤 英二
- ③ 消毒について 郡山女子大学 家政学部講師 柏谷 良
- ④ 帳票について 東京医科大学病院 厚生係長 長部 肇

6. 総 評

シンポジウムにおいては各委員が演者となった。準備に労力を費やしたがまだまだ準備不足であったと思われる。委員自身が演者に立つ事は参加者にもまた委員にもよい刺激になったようである。

石原先生の講演は、内容が盛りだくさんであり、時間が少なかったので、時間的配分を考慮する必要がある。

18. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年9月7日(金)～8日(土)
3. 開催地 大阪市 大阪電信電話会館
4. 参加者数 60施設 66名
5. 演 題

(1) 「図書室運営のための基礎資料——その種類と作成方法——」

京都南病院 司書 山 室 真知子

(2) シンポジウム「図書委員会の現状と課題」

大阪赤十字病院 第二検査部長 佐々木 正 道

星ヶ丘厚生年金病院 神経科部長 田 伏 薫

京都市立病院 司書 重 富 久 代

北野病院 臨床検査部長 植 手 鉄 男

聖路加国際病院 司書 足 立 純 子

(3) 「図書室の広報活動」

① 事例Ⅰ「オリエンテーションの実際」

川崎製鉄健保組合千葉病院 司書 奥 出 麻 里

② 事例Ⅱ「館報・速報の発行について」

西淀病院 司書 安 達 貴美子

(4) 「各種図書館の機能とその利用方法」

① 国立国会図書館

国立国会図書館 連絡部長 田 辺 由太郎

② 大阪府立夕陽ヶ丘図書館

大阪府立夕陽ヶ丘図書館 閲覧第一係長 鈴 木 永 二

③ 大阪大学附属図書館中之島分館

大阪大学附属図書館中之島分館 医学情報課長 石 川 亮

④ J I C S T

J I C S T大阪支所 主事 村 上 秀 憲

6. 総 評

近畿病院図書室協議会との共催で、「病院図書室の管理と運営」をメインテーマに、「図書室運営のための基礎資料 — その種類と作成方法 —」「図書委員会の現状と課題」「図書室の広報活動」「各種図書館の機能とその利用方法」の各サブテーマについて、シンポジウム・事例発表を中心とした研究会を開催した。現場からの生の意見を聞くことができたこともあって、演者と参加者との間で質疑応答が熱心に行われた。

第1日目終了後の懇親会では、異口同音に病院図書室の理想像について語り合う光景が見られ、今後もこれらの声に応えられるよう、一層、本研究会を充実させていきたい。

なお、59年10月に「病院図書室研究会」と合同で、実態調査を行った。ご協力いただいた病院に深謝するとともに、その結果は後日、日本病院学会などで発表していきたい。

第 8 第一線リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

第1回（5日間コース）

開催期日 昭和59年6月18日（月）～ 22日（金）

開催地 神奈川県湯河原町 ちとせ荘

参加者数 16施設 19名

演 題 (1) 「私の見た米国の医療事情」

神奈川県病院協会 会長 小 野 肇

京浜総合病院 理事長 矢 作 忠 政

(2) 監督者の職務

(3) 仕事の管理

(4) 事例研究

(5) 仕事の改善

(6) 部下の育成

(7) リーダーシップ

J S T有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長 緒 方 廣 市

聖路加国際病院 ハウスキーピング課長 内 藤 均

東京医科大学病院 栄養課係長 平 井 千 枝

(8) 「病院監督者の役割遂行のために」

日本人事管理協会 理事 酒 井 暢

第2回（3日間コース）

開催期日 昭和59年11月20日（火）～ 22日（木）

開催地 東京都 日本病院会会議室

参加者数 16施設 24名

演 題 (1) 「職場リーダーのポジションと役割」

(2) 「職場運営のポイント」

(3) 「要求される創意工夫」

(4) 「職場研修のねらい」

(5) 「ケース・スタディ」

(6) 「リーダーシップと相互理解」

J S T有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長	緒方 廣市
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長	内藤 均
東京医科大学病院 栄養課係長	平井 千枝

第3回（3日間コース）

開催期日 昭和60年2月21日（木）～ 23日（土）

開催地 京都市 タワーホテル

参加者数 15施設 24名

演 題 第2回と同じ

京都府病院協会 副会長	宇山 理雄
(社)京都私立病院協会 会長	中野 進
日本人事管理協会 理事	酒井 暢

J S T有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長	緒方 廣市
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長	内藤 均
東京医科大学病院 栄養課係長	平井 千枝

第9 第24回病院視察研究会

1. 開催地 茨城県・福島県
2. 開催期日 昭和59年7月11日(水)～14日(土)
3. 視察病院 (1) 茨城県・新治郡(国)筑波大学附属病院(12日)
(2) 茨城県・水戸市(厚生連)水戸協同病院(12日)
(3) 福島県・いわき市(市町村)いわき市立総合磐城共立病院(13日)
(4) 福島県・郡山市(公益法人)太田総合病院附属太田西ノ内病院(13日)
(5) 福島県・郡山市(公益法人)太田総合病院附属熱海総合病院(13日)
(6) 福島県・会津若松市(公益法人)財団法人竹田総合病院(14日)
4. 宿泊所 (1) 11日・土浦京成ホテル(兼集合場所)
(2) 12日・常盤ハワイアンセンター
(3) 13日・会津グランドホテル大川荘
5. 参加者数 12施設 22名
6. 総 評

今回の病院視察研究会は、昨年の九州シリーズから東方のフリダシにもどし、社団法人福島県病院協会の協賛を得て茨城・福島県下の6病院の見学として催行した。施設の見学については、各病院とも懇切な案内と状況の説明があり、参加会員は十分な刺激を受け、満足の表情を示した。

視察先の受入れに関して、事前の折衝で応諾の回答に手間どったケースもあり、開催の案内が遅れたことが指摘されたが、一面、会員の経営環境の悪化等も加わり、参加の意欲が今一つの観があった。

このような状況の中でも、病院の基本的な運営、院内の連携を勉強させることを目的として多数の職員を派遣した北品川総合病院をはじめ、病院の増築、改築を検討中の会員の参加が依然として目についた。医療費の改訂も実施され、地域医療の中に占める病院の位置がクローズ・アップされてくる状況の推移の中で、中核病院の実像を研究する場として更に充実した会としていきたい。

なお、地元役員として、茨城県下では戸川潔監事、福島県下で竹内正也理事がそれぞれ特別参加をされ、討議を盛上げていただいた。

第10 診療録管理通信教育

1. 入学状況

- 第25期入学
 - 1) 開講月日 昭和59年7月1日
 - 2) 入学者数 73名(但し2名、2年次編入含む)
 - 3) 受講料 60,000円
- 第26期入学
 - 1) 開講月日 昭和60年1月1日
 - 2) 入学者数 96名(但し37名、2年次編入含む)
 - 3) 受講料 60,000円

2. 卒業状況

- 第21期卒業
 - 1) 卒業生数 69名(男11名、女58名)
 - 2) 卒業式典 昭和59年10月10日
 - 3) 同会場 新宿住友ビル(東京都新宿区)
- 第22期卒業
 - 1) 卒業生数 51名(男10名、女41名)
 - 2) 卒業式典 昭和60年3月23日
 - 3) 同会場 ふくおか会館(東京都千代田区)

3. 受講生員数状況(60年3月20日現在)

- 入学者総数 2,244名
 - 男 529名
 - 女 1,715名
- 卒業生総数 924名
 - 男 191名
 - 女 733名
- 受講生総数 448名
 - 内 訳 23期生 193名
 - 24期生 82名

25 期生 77 名

26 期生 96 名

4. 集中スクーリング実施状況

○昭和59年8月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第 24・25 期 生			第 21 期 生 第 23 期 生	第 22・23 期 生 第24・25期生の内 2 年 次 編 入 生		
23 日 (木)	24 日 (金)	25 日 (土)	26 日 (日)	27 日 (月)	28 日 (火)	29 日 (水)

地 区	会 場	延出席者数
東京地区	東京文化学園	375 名
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	297 名
福岡地区	福岡大学医学部	114 名

○昭和60年2月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第 25・26 期 生			第 22 期 生 第 24 期 生	第 23・24 期 生 第25・26期生の内 2 年 次 編 入 生		
21 日 (木)	22 日 (金)	23 日 (土)	24 日 (日)	25 日 (月)	26 日 (火)	27 日 (水)

地 区	会 場	延出席者数
東京地区	早稲田速記学校	369 名
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	288 名
福岡地区	福岡大学医学部	111 名

5. 医学セミナー

4月14日	生理学	番町共済会館	6名
4月21日	医学用語学	早稲田速記	29名
5月12日	医学用語学	日病会議室	31名
5月26日	生理学	早稲田速記	6名
6月16日	品質管理	日病会議室	21名
6月23日	産科学	早稲田速記	6名
7月7日	品質管理	日病会議室	14名
7月28日	産科学	早稲田速記	4名
9月22日	小児科学	同	3名
9月29日	統計学	日病会議室	9名
10月13日	統計学	同	6名
10月20日	小児科学	同	6名
11月10日	統計学	同	8名
11月17日	内科学	同	4名
12月1日	医学用語学	同	7名
12月15日	内科学	同	7名
1月19日	情報管理	同	10名
1月26日	内科学	同	15名
3月2日	情報管理	同	3名
3月16日	内科学	同	11名

第11 メディカルクラーク通信教育

1. 第8回認定証授与式

昭和59年10月20日(土) 17:00～20:00

会 場 : 東京 番町グリーンパレス

認 定 者 : 33 名

追加認定者 : 5 名 (60. 3. 15)

2. 試 験

1) 第8期生後期試験(8月23日)

東京会場 : 19 名

京都会場 : 18 名

合 格 者 : 35 名

不合格者 : 2 名

2) 第9期生前期及び延長生の再追試(2月14日)

東京会場 : 21 名 (前期 18 名、後期 3 名)

京都会場 : 17 名 (前期のみ)

合 格 者 : 36 名 (前期 33 名、後期 3 名)

不合格者 : 2 名 (前期のみ)

3. スクーリング(第9期生)

1) 前 期(8月20日～26日)

8/20	21	22	24	25	26
(月)	(火)	(水)	(金)	(土)	(日)
東京:早稲田速記学校			京都:ビル 葆光		
82 名			61 名		

2) 後 期 (2月11日~17日)

2/11	12	13	15	16	17
(月)	(火)	(水)	(金)	(土)	(日)
京都：ビル葆光			東京：早稲田速記学校		
48名			65名		

4. 医学セミナー

診療録管理通信教育と合同して実施

第12 事務長養成課程通信教育

1. 第5回認定証授与式

昭和59年7月21日(土) 17:00～19:30

会場：東京半蔵門 ふくおか会館

認定者：6名

2. 試 験

1) 第5回生 2年後期(6月23日(土))

会 場 大阪 共済会館 新大阪

受験者 6名、合格者 6名

2) 第6回生 1年後期(7月15日(日))

会 場 東京 聖路加国際病院第2記念館

受験者 5名、合格者 5名

3) 第6回生 2年前期(1月17日(木))

受験者 6名、合格者 5名

4) 第7回生 1年前期(1月10日(木))

受験者 10名、合格者 10名

3. スクーリング

1) 前期(7月9日～7月21日)

	9	10	11	12	13	14	16	17	18	19	20	21
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
期 別	第7回生 第1年次						第6回生 第2年次					
延 数	91名						36名					
会 場	聖路加国際病院第2記念館											

2) 後期（1月11日～1月23日）

	11	12	13	14	15	16	18	19	20	21	22	23
	金	土	日	月	火	水	金	土	日	月	火	水
期 別	第 7 回 生 1 年 次						第 6 回 生 2 年 次					
延 数	5 8 名						3 6 名					
会 場	聖 路 加 国 際 病 院 第 2 記 念 館											

4. 第 3 回 卒 後 研 修 会

昭和59年6月23日(土) 13:00～17:00

会 場 : 大 阪 淀 川 キ リ ス ト 教 病 院

テ ー マ : 「ホスピスの働き — 生命を支えるケア—」

講 師 : 淀川キリスト教病院副院長・ホスピス長 柏木 哲夫

東京文化学園理事 落合勝一郎

杏林大学医学部教授 高橋 政祺

自治医科大学教授 一条 勝夫

参加者 : 30名

第13 セミナー

1. 病院長・幹部職員セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年8月4日(土) 13:00～18:30、5日(日) 9:30～17:00
3. 開催地 東京都 ダイアモンドホテル
4. 参加者数 155施設 203名
5. 演題 第1日(8月4日)

- (1) 講演「これからの日本の医療」 日本医師会 会長 羽田 春 免
司会 日本病院会 会長 諸橋 芳 夫
- (2) 講演「これからの医療行政」 厚生省健康政策局長 吉崎 正義
司会 日本病院会 副会長 若月 俊一
- (3) シンポジウム「医療費抑制と私の対応」
日本病院会理事・総合会津中央病院 院長 星 源之助
日本病院会常任理事・高山整形外科病院 院長 高山 瑩
日本病院会代議員会副議長・河井病院 院長 河井 博
日本病院会理事・藤掛第一病院 院長 藤掛 敏
日本病院会代議員・総合大雄会病院 院長 伊藤 研
日本病院会常任理事・岡本病院 理事長 岡本 隆一
日本病院会理事・総合加納病院 院長 加納 繁美
司会 日本病院会 副会長 河野 稔

第2日(8月5日)

- (4) シンポジウム「病院の現状と問題点」
(国) 日本病院会常任理事・国立津病院 院長 岡崎 通
(自治体) 日本病院会監事・茨城県立中央病院 院長 戸川 潔
(日赤) 日本病院会常任理事・大阪赤十字病院 院長 二本杉 皎
(済生会) 日本病院会理事・済生会大阪府中津病院 院長 豊島 正忠
(厚生連) 日本病院会理事・白河厚生総合病院 院長 遠藤 良一
(公益法人) 日本病院会理事・聖路加国際病院 院長 野辺地 篤郎
(医療法人) 医療法人財団青秀会・岩井総合病院 院長 岩井 宏方
(個人) 日本病院会理事・優生病院 院長 北村 行彦
司会 日本病院会常任理事・総合病院聖隷浜松病院 院長 中山 耕作

(5) 講演「これからの日本の経済と医療」

総合政策研究会理事長・中東経済研究所理事長 土屋 清
司会 日本病院会 会長 諸橋 芳夫

(6) シンポジウム「私の病院管理運営」

日本病院会常任理事・土浦協同病院 院長 登内 真
日本病院会代議員会議長・長浜赤十字病院 院長 財津 晃
日本病院会顧問・前会長・総合病院南大阪病院 院長 内藤 景岳
日本病院会常任理事・大道病院 院長 大道 学
日本病院会常任理事・済生会福岡総合病院 院長 土屋 呂武
司会 日本病院会 副会長 有澤 源蔵

6. 総 評

医療費改訂、薬価基準の改訂を控え、今回は更に諸橋会長を主軸に“これからの医療”を中心テーマとして企画がすすめられた。

病院医療費が実質的には7年間も据置きという状況の中で、いかに破綻なく病院運営をしていくか、公的・私的とも強い関心を呼び、昨年同様200名を越す会員が参集した。

講演は“これからの…”医療について羽田日医会長、行政について吉崎健康政策局長、経済について土屋総合政策研究会理事長と斯界の権威からそれぞれ解説が行われ、認識を新たにした。

シンポジウムは3題で、①「医療費抑制と私の対応」で、有力な私的病院長7氏による実体験が、②「病院の現状と問題点」で、経営主体別の代表的病院長8氏に実情と対策を、③「私の病院管理運営」で、公・私病院長5氏からそれぞれ力を入れる管理のポイントが述べられた。

シンポジウムでは一部演者の制限時間オーバーなどがあり、後半の演者に時間的制約が生じる場面もあって、運営上の問題を後日に残したのも出たが、時間一杯を使って熱心な討議がくりひろげられた。報道関係者はじめ国会議員秘書なども取材に加わり、病院医療についての関心の度が深まったといえる。

2. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年8月23日(木)～24日(金)
3. 開催地 東京都 コクヨホール
4. 参加者数 83施設 141名
5. 演 題 (1) 講演「ある体験から」

日本テレビアナウンス室 チーフアナウンサー 小林 完吾

(2) 講演「これからの社会情勢と看護」

NHK解説委員 行 天 良 雄

(3) 講演「平安貴族の病気と苦悩」

独協大学 教授 河 北 騰

(4) 講演「看護よ、医療技術の進歩に負けるな」

朝日新聞東京本社出版局
「フットワーク」編集長 長 倉 功

(5) 講演「看護とカウンセリング」

千葉大学 看護学部長 見 藤 隆 子

6. 総 評

盛りだくさんの演題であったが、各々興味を持って聞いていただいたようである。直接看護にかかわらない演題も看護婦にとって必要であるとの意見が多く、河北先生のシリーズ物を楽しみにしている方も多かった。医療者でない方の医療をうけた体験談は現場の看護婦には非常に興味あるものだったようで大いに感銘をうけたようである。

3. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和60年1月25日(金)～26日(土)

3. 開催地 東京都 食糧会館大会議室

4. 参加者数 87施設 107名

5. 演 題 (1) 特別講演「医療費問題からみた病院経営」

京都大学経済学部 助教授 西 村 周 三

(2) 『徹底した経営改善・経費節減の具体策』

○「効率的な施設の運用と改善のポイント」

自治医科大学 事務局技監 倉 持 一 雄

○「医療材料・消耗品節減の実例」

聖路加国際病院 用度課長 塩 山 雅 英

○「効率的な人員配置」

順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安 田 尚 之

(3) 総合討論

「経営改善実施上の問題点と今後の方向」

司会 日本病院管理研究協会 常務理事 石 原 信 吾

自治医科大学 事務局技監 倉 持 一 雄

聖路加国際病院 用度課長 塩 山 雅 英
 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安 田 尚 之
 聖路加国際病院 事務長 上 林 三 郎

(4) 「委託外注の実情と今後の方向」

虎の門病院 事務部長 黒 田 幸 男

(5) 「魅力ある病院とは」

— 金沢での全国研究会研修結果をふまえて —

聖路加国際病院 事務長 上 林 三 郎

(6) 「経営改善への収益確保対策」

社保蒲田総合病院 事務長 安 藤 秀 雄

6. 総 評

本年度の事務長セミナーは、昨年度実施したセミナー「病院経営危機の乗り切り策はなにか」の続編として、「徹底した経営改善・経費節減の具体策」と題し、“人”“物”“金”“施設”の経費節減、合理化について探求しようと企画した。医療費抑制下でいかに増収を図ったらよいかを模索している病院にとってはまたとない企画であったと思われ、近年にない100名を越える参加者となり、例年だとかなり余裕のある会場も大変狭く感じられるほどの盛況であった。主催者側としては、具体的な内容のテーマがいかに各参加者から求められているかを再認識する結果となった。

今後も病院運営の苦境克服策についての統一テーマで、この問題を追求していかなければならないと痛感した。

なお、参加者へのアンケートの結果、「参加者間の意見交換の場を設けてほしい」「事務長セミナーは是非年2回実施してほしい」との希望が多く、これらについても今後の検討課題とした。

4. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年10月25日(木)～27日(土)
3. 開催地 熱海市 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 20施設 25名
5. 演 題 (1) 「放射線研究会のあゆみ」

都立府中病院 放射線科技師長 妹 尾 昭 一

(2) 「院長から望むこと」 土浦協同病院 院長 登 内 真

(3) 「現代科学の解説“光通信”」

横須賀電気通信研究所基幹電送研究部光電送研究室 室長 小山 正 樹

(4) 「管理思想の変遷」 佼成病院健康管理相談室 室長 西 田 義 夫

(5) 「Best Job」

富士メディカル・システム(株)東京支店 支店長代理 松 尾 良 三

(6) 「改善の手法」

富士写真フイルム(株) 経営効率推進本部課長 小 川 周 夫

6. 総 評

放射線研究会のあゆみについて妹尾昭一委員より発表されたあと、急速に進歩する科学についての講演が企業の専門家より行われた。

5. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和60年2月8日(金)～9日(土)

3. 開催地 熱海市 湯河原厚生年金会館

4. 参加者数 19施設 22名

5. 演 題 (1) 「医療費抑制下の病院運営」

① 順天堂大学医学部附属順天堂医院 副院長 川 北 祐 幸

② 事務長の立場から 東京都済生会中央病院 事務長 植 垣 惣 次

③ 技師長の立場から

板橋中央総合病院 臨床検査科次長 成 田 周 市

(2) 「これからどうなる日本の医療」 NHK解説委員 行 天 良 雄

6. 総 評

順天堂医院・川北祐幸副院長より医療費抑制下の病院運営についてご講演をいただいたあと、NHK行天良雄解説委員から、科学の急速な進歩に伴う今後の医療のあり方について講演をいただいた。

日常、専門業務に携わっている参加者達にとって、マクロの観点より医療のあり方、および病院運営について見つめられたようである。

今後も、このような機会を持ちたいとの声があった。

6. 医療紛争防止のためのセミナー

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 昭和59年6月14日(木)～15日(金) (東京・新宿)
昭和59年10月28日(日) (福島・郡山)
3. 開催地 東京 新宿NSビル
福島 県郡山農協会館
4. 参加者数 東京 45施設 63名
福島 81施設 219名
5. 演 題 (1) 医療事故の諸問題
(2) 医療紛争と医療事故
(3) 薬害の諸問題
(4) 老人医療の特質
(5) 医療事故の解決と予防策
(6) 看護事故事例の研究
(7) 医療事故における法律上の考え方
(8) 看護管理と医療事故

6. 総 評

従来年1回であったセミナーは、本年度福島県より看護を中心としたセミナー開催の要望があり郡山市で開催した。

7. 病院防災セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年9月21日(金)～22日(土)
3. 開催地 東京都 大東京火災海上保険(株)中央研修所
4. 参加者数 69施設 74名
5. 演 題 (1) 病院建物における防災安全対策のチェックポイント
(2) 患者に対する安全対策は万全か
(3) 防火管理制度に関する検討結果について
(4) 災害時における各部門の安全対策を考える
(5) 病院の防災体制の標準化を考える
(6) 医療施設における防火・防災に関する通知の解説

- (7) 防災活動に必要な機器・設備・用具等の知識
- (8) 大規模地震時における地域社会との協力体制

6. 総 評

前年度同様、大東京火災海上保険㈱中央研修所を会場とし、参加者74名で活発なセミナーとなった。

第14 病院幹部医会

1. 総 会

3月10日(日) 大東京火災海上保険㈱中央研修所(東京都)

- 1) 昭和60年度事業計画(案)に関する件
- 2) 昭和60年度収支予算(案)に関する件

2. 常任幹事会

10月4日(木) 日本病院会会議室

1月28日(月) 番町グリーンパレス

- 1) 高知医科大学見学について
- 2) 病院幹部医セミナーについて
- 3) 昭和60年度事業計画(案)、収支予算(案)について
- 4) その他

3. 病院幹部医セミナー

- 1) 開催回数 2回
- 2) 開催月日 ①12月25日(土)
②3月9日(土)・10日(日)
- 3) 開催地 ①東京都 番町グリーンパレス
②東京都 大東京火災海上保険㈱中央研修所
- 4) 参加者数 44施設 53名
- 5) 演 題 ①医師と事務部門の連携
②医療をめぐる諸問題
③医師と検査部門の連携
④アメリカの医療費問題
⑤世界の医療情勢
⑥医師急増時代とその対応策

第15 海外視察研究会

1. 北欧病院視察研究会

1984年8月25日～9月7日 14日間

ストックホルム～ヘルシンキ

コーディネーター・高橋 勝三（武蔵野赤十字病院、外科医長） 団員10名

2. 米国医療調査団

1984年10月9日～10月20日 12日間

シカゴ～ワシントン～ニューヨーク

コーディネーター・三宅 浩之（関東通信病院、部長） 団員19名

第16 調 査 室

本年度は、全国公私病院連盟との定例合同調査「病院運営実態分析調査」の他に3年に一度の調査である「病院部門別原価計算調査」およびそのための講習会を二回実施した。

その他前年度から引続きの合同調査、「診療報酬、薬価基準改定影響率調査」がまとまり公表した。

また、2月には例年どおり「病院概況調査報告書」を発刊した。

◎ 病院部門別原価計算講習会（第1回目）

1. 開催期日 昭和59年9月14日(金) 10:00～16:30
2. 会 場 コクヨホール
3. 参加者 269名
4. テーマ講師
 - 病院部門別原価計算調査の概要
尾 口 平 吉
 - 病院部門の設定と収益原価の把握
吉 崎 芳 雄
 - 診療科目別原価計算
長 沢 一 男
 - 病院部門別原価計算を実施した体験例
黒 田 幸 夫

◎ 病院部門別原価計算講習会（第2回目）

1. 開催期日 昭和59年11月16日(金) 10:00～16:30
2. 会 場 東医健保会館
3. 参加者 65名
4. テーマ講師
 - 調査票の記入要領(1)
吉 崎 芳 雄
 - 調査票の記入要領(2)
長 沢 一 男
 - 調査票の審査と診療科目別原価計算
森 福 省 一
 - 質疑応答
尾 口 平 吉

◎ 昭和59年 病院概況調査報告書

☆病院概況（病院数・病床数・専用病床保有状況等）

☆患者状況（入院 — 外来、救急、比率等）

☆設備状況（ICU、CCU、未熟児、人間ドック、医療機器、コンピュータ等）

☆職員数（職種、病床規模、1病院当り — 100床当り、開設者・常勤 — 非常勤別）

☆部門別業務量（診療・薬剤・放射線・検査・給食・事務）

☆外注委託状況（寝具・清掃・給食・検査等）

☆その他（基準看護、救急告示、手術件数、冷暖房、敷地 — 建物面積、剖検率・病床利用率・平均在院日数等）

以 上 700部発行

第17 医療費対策および病院大会

1. 病院診療報酬適正化推進会議

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 26名
3. 協議事項 (1) 健保法改正案衆議院通過に伴う対策について
(2) 診療報酬改定対策について
(3) 病院経営危機突破全国大会開催の伴う決議の実行運動について
(4) その他

2. 四病院団体連絡協議会

- | | | |
|----------|------------------------------|-----|
| 4月11日(水) | 総合部会 | 7名 |
| | 1. 看護体制に関する要望について | |
| | 2. 手取額による源泉徴収税額早見表について | |
| | 3. 日医新執行部について | |
| 4月19日(木) | 医療経済委員会 | 12名 |
| | 1. パート医師の給与額について | |
| | 2. 診療報酬薬価基準改定結果および意見書等について | |
| 5月23日(水) | 医療経済委員会 | 8名 |
| | 1. 診療報酬薬価基準改定結果および意見書等について | |
| 5月23日(水) | 税制委員会 | 6名 |
| | 1. 60年度税制改正要望事項について | |
| | 2. 勤務医師、給与調査について | |
| 6月7日(木) | 総合部会 | 9名 |
| | 1. 59年3月医療費改定に関するの声明書(案)について | |
| | 2. 四病院団体連絡協議会規約について | |
| | 3. 特定医療法人に係る承認基準等について | |
| 6月7日(木) | 税制委員会 | 7名 |
| | 1. 昭和60年度税制改正要望書(案)について | |
| | 2. 勤務医(非常勤医師)の給与実態調査について | |
| 6月7日(木) | 医療法委員会 | 11名 |
| | 1. 医療法施行規則について | |

6月28日(木)	総合部会	6名
	1. 59年3月医療費改定に関するの声明書(案)について	
	2. 四病院団体連絡協議会規約について	
6月28日(木)	税制委員会	6名
	1. 60年度税制改正要望(案)について	
7月13日(金)	医療経済委員会	12名
	1. 診療報酬改定の要望について	
7月14日(土)	総合・医療法合同	6名
	1. 自民党医療基本問題調査会地域医療計画小委員会に対する要望事項について	
7月19日(木)	総合部会	8名
	1. 健康保険法一部改正(案)に対する要望事項について	
	2. 四病院団体連絡協議会規約(案)について	
7月19日(木)	医療法委員会	7名
	1. 医療法施行規則の改正要望について	
8月22日(水)	総合部会	6名
	1. 厚生省三局長、健康政策局通達に対する反論について	
	2. パート医師の給与標準額について	
8月22日(水)	医療法・総合合同	13名
	1. 医療法施行規則の一部改正について	
	2. 医療法施行規則改正(案)について	
9月12日(水)	医療経済委員会	12名
	1. 診療報酬改定要求書(案)について	
10月18日(木)	総合部会	9名
	1. 診療報酬改定要求書(案)について	
	2. 事業税について	
	3. パート医師の給与実態調査について	
11月12日(月)	総合・医療法合同	16名
	1. 地域医療計画について	
	2. 家庭医について	
	3. 中間施設について	
12月3日(月)	医療法委員会	12名
	1. 医療法改正問題における日本医療会の経過説明とその対応	

12月 6日(木)	医療法委員会	8名
	1. 地域医療計画について	
12月 7日(金)	総合部会	6名
	1. 事業税について	
12月20日(木)	総合部会	8名
	1. 病院医療の評価について	
	2. 将来の医師需給に関する検討会中間意見	
	3. 医療法改正について	
	4. 中間施設について	
	5. 家庭医について	
	6. 事業税について	
1月16日(水)	医療法委員会	9名
	1. 医療法一部改正案に対する意見について	
1月18日(金)	総合・医療法・医療経済合同	46名
	1. 医療法の一部改正法案に対する要望意見について	
	2. 診療報酬改定に対する要望書について	
	3. 厚生省、日医との新年懇親会	
2月 6日(水)	医療法委員会	10名
	1. 医療法一部改正について	
	2. 病床算定方式について	
2月27日(水)	医療法委員会	14名
	1. 病床算定方式について(厚生省)	
	2. 病床算定方式について(民間学者)	
3月26日(火)	総合・医療経済合同	15名
	1. 3月医療費改訂の影響および次回改訂について	
	2. 医療法一部改正について	

3. 病 院 大 会

1. 名 称 病院経営危機突破全国大会
2. 日 時 昭和59年11月22日(木) 13:00～15:30
3. 会 場 砂防会館ホール(東京・平河町)
4. 主 催 病院診療報酬適正化推進会議
5. 来 賓 日本医師会・日本薬剤師会・国会議員等 109名
6. 参加人員 1,137名

7. 大会スローガン

- (1) われわれの要求する診療報酬の適正化・合理化を直ちに実施せよ。
- (2) 医師技術料と医療技術者の技術料を適正に評価せよ。
- (3) 各種社会保険の統合により改定財源を確保せよ。
- (4) 病院の事業税非課税措置を存続させよ。
- (5) 中医協に病院団体の推薦する委員を参加させよ。
- (6) 国民医療の荒廃を阻止するため全国の病院は大同団結せよ。

8. 総 評 昨年に引き続き病院診療報酬適正化推進会議主催のもと「病院経営危機突破全国大会」を開催、(1)診療報酬の適正化・合理化、(2)技術料の適正評価、(3)診療報酬改定財源の確保、(4)病院の事業税非課税措置の存続、(5)中医協への病院団体から委員参加、(6)病院の大同団結等を大会スローガンとした。

第18 第34回日本病院学会

1. 学 会 長 近藤 慶二（高知県立中央病院院長）

2. テ ー マ 激動下における明日の病院

3. 開催期日 昭和59年11月8日（木）～9日（金）

4. 開催地 高知県 高知市

5. 会 場 (1) 高知県民文化ホール

(2) 高知県医師会館

6. 演 題 (1) 学会長講演 1題

「激動化における明日の病院」

高知県立中央病院 院長 近藤 慶二

(2) 特別講演 2題

「これからの病院と人的資源」

筑波大学社会医学系 教授 紀伊國 献三

「花神、胡蝶の夢をめぐる」

作家 司馬 遼太郎

(3) パネルディスカッション 3題

「医療法改正と病院経営」

座長 NHK解説委員 行天 良雄

演者 厚生省健康政策局長 吉崎 正義

日本医師会 常任理事 瀬尾 攝

医療法人大道病院 院長 大道 学

医療法人有澤総合病院 院長 有澤 源蔵

「これからどうあるべきか日本の病院」

座長 医療法人高山整形外科病院 院長 高山 瑩

演者 医療法人中野小児病院 院長 中野 博光

医療法人府中病院 院長 岸口 繁

高知市立市民病院 院長 山本 彰芳

健康保険鞍馬口病院 副院長 川上 登

筑波大学臨床医学系 教授 堀 原一

「老人保健法と老人医療の将来像」

座長 日本病院管理研究協会 常務理事 石原 信吾

演者 厚生省保健医療局 老人保健部長 水田 努

高知市医師会 副会長 町田 隆夫

社会福祉法人信愛病院 院長 桑 名 忠 夫

五木田病院 青 木 信 雄

(4) シンポジウム 1 題

「今後の看護体制への多角的検討」

座長 公益法人北品川総合病院 院長 河 野 稔

演者 蕨市立病院 院長 池 谷 亘

医療法人日比谷病院 院長 深 瀬 邦 雄

聖路加看護大学 教授 南 裕 子

医療法人近森病院 事務長 野 村 好 直

自治医科大学病院管理学 教授 一 条 勝 夫

(5) 一般演題 190 題

7. 医療人の集い（城西館）
8. 併設ホスピタルショー（高知県民体育館）
9. 参 加 者 延べ 6,000 名
10. プログラム （別掲）

第34回日本病院学会プログラム

テーマ：「激動下における明日の病院」

時間		8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
期日	会場														
第一日 (十一月八日)	第1会場 (オレンジホール)	受付	開会式	学会長講演	特別講演 これからの病院と人的資源 紀伊国 敏三		総会	パネルディスカッション 医療法改正と病院経営		パネルディスカッション これからどうあるべきか日本の病院		医療人の集い 国際観光旅館 城西館			
	第2会場 (グリーンホール)				一般演題 看護の諸問題(I) 1-13	一般演題 老人医療 14-17			一般演題 その他 18-20	一般演題 施設設計・安全・環境 21-33	一般演題 栄養・給食 34-48				
	第3会場 (医師会館3階ホール)				一般演題 薬 剤 49-59	一般演題 医 学 60-66			一般演題 看護の諸問題(II) 67-82	一般演題 放射線・R I 83-94					
	展示会場 (県民体育館)	ホスピタルショウ (高知県民体育館)													
第二日 (十一月九日)	第1会場 (オレンジホール)	受付	シンポジウム 今後の看護体制への多角的検討					パネルディスカッション 老人保健法と 老人医療の将来像		特別講演 花神、胡蝶の夢をめぐって 司馬 遼太郎		閉会式			
	第2会場 (グリーンホール)	一般演題 病院経営管理 95-116			一般演題 リハビリ 117-120				一般演題 看護の諸問題(III) 121-135						
	第3会場 (医師会館3階ホール)	一般演題 院内教育研修 136-146		一般演題 臨床検査 147-162					一般演題 情報管理・コンピュータ利用・診療録管理・診療報酬 163-175		一般演題 地域医療・救急医療 176-190				
	展示会場 (県民体育館)	ホスピタルショウ (高知県民体育館)													
第三日	展示会場 (県民体育館)	ホスピタルショウ (高知県民体育館)													

第19 第25回日本人間ドック学会

1. 学 会 長 岡山 義雄 (岡山病院院長)
2. 開催期日 昭和59年 8月24日(金)～25日(土)
3. 開催地 愛知県 名古屋市
4. 会 場 愛知県産業貿易館西館大会議場
5. 演 題
 - (1) 特別講演 1題
 「人間ドックと糖代謝異常」
 — どうして糖尿病を発見しなければならないか —
 名古屋大学第三内科 教授 坂 本 信 夫
 - (2) 25周年記念講演 2題
 「人間ドック25年のあゆみ」
 医療法人喜峰会岡山病院 院長
 第25回日本人間ドック学会長 岡 山 義 雄
 「人間ドックの将来への展望」
 名古屋大学医学部予防医学教室 教授 青 木 國 雄
 - (3) シンポジウム 2題
 「人間ドックにおける消化器疾患のスクリーニング」
 司会 牧田総合病院 副院長 笹 森 典 雄
 ① 食 道 東海大学 講師 幕 内 博 康
 ② 胃・十二指腸 愛知県総合保健センター 室長 川 口 新 平
 ③ 小 腸 大垣市民病院 院長 蜂須賀 喜多男
 ④ 大腸・直腸 福岡大学 教授 井 上 幹 夫
 ⑤ 肝臓・胆嚢 名古屋大学 講師 各 務 伸 一
 ⑥ 膵臓 名古屋大学 講師 早 川 哲 夫
 ⑦ 特別発言 東京警察病院 内科部長 鈴 木 豊 明
 「人間ドックと運動指導」
 — 各領域における運動指導のコツ —
 司会 東京慈恵会医科大学第三内科 助教授 池 田 義 雄
 ① 運動と生理 名古屋大学 教授 宮 村 実 晴
 ② 運動不足病 東京都済生会中央病院 内科医長 田 中 剛 二
 ③ 高血圧・心臓病の運動指導
 大阪住友病院 内科部長 宇佐見 暢 久

④ 糖尿病・肥満の運動指導 名古屋大学 助教授 佐藤 祐造

⑤ 特別発言 愛知県総合保健センター 所長 岩塚 徹

(4) 一般演題 56題

6. 参加者 550名(登録実参加)

7. 併設「健康特別講演会」(一般市民を対象として学会前日(8月23日)に実施)

会場 愛知県医師会館大講堂

テーマ 健やかな暮らしのために

8. プログラム (別掲)

第25回日本人間ドック学会日程表

第1日 8月24日(金)	第2日 8月25日(土)
<p>8:40</p> <p>開場・登録受付</p>	<p>8:40</p>
<p>9:00</p> <p>開会の辞</p> <p>一般演題 1～6 安藤 幸夫 (聖路加国際病院)</p>	<p>9:00</p> <p>一般演題 31～35 鈴木 豊明 (東京警察病院)</p>
<p>9:45</p> <p>一般演題 7～11 金沢 鉄男 (青森県立中央病院)</p>	<p>9:35</p> <p>一般演題 36～42 藤間 弘行 (藤間病院)</p>
<p>10:20</p> <p>一般演題 12～15 丹野 三男 (仙台市立病院)</p>	<p>10:24</p> <p>一般演題 43～48 大川日出夫 (日本鋼管病院)</p>
<p>10:48</p> <p>一般演題 16～19 清瀬 関 (三井記念病院)</p>	<p>11:06</p> <p>一般演題 49～52 小関 忠尚 (京都第二赤十字病院)</p>
<p>11:15</p> <p>一般演題 20～24 寺田由紀夫 (大阪赤十字病院)</p>	<p>11:35</p>
<p>12:00</p> <p>(評議員会)</p>	<p>11:45</p> <p>25周年記念講演 2) 青木 國雄 教授 司会 栗山 康介</p>
<p>13:30</p> <p>総 会</p>	<p>12:25</p>
<p>14:00</p> <p>一般演題 25～30 田中 剛二 (東京都済生会中央病院)</p>	<p>13:20</p> <p>一般演題 53～56 宇津 典彦 (久留米大学 医学部)</p>
<p>14:45</p>	<p>13:50</p>
<p>14:55</p> <p>特別講演 坂本 信夫 教授 司会 岩塚 徹</p>	<p>14:00</p> <p>シンポジウム I 「人間ドックにおける 消化器疾患のスクリーニング」 司会 笹森 典雄</p>
<p>15:35</p> <p>25周年記念講演 1) 岡山 義雄 司会 阿久津 慎</p>	<p>15:50</p>
<p>16:00</p>	<p>16:00</p> <p>閉会の辞</p>
<p>16:10</p> <p>シンポジウム II 「人間ドックと運動指導 —各領域における運動指導のコツ」 司会 池田 義雄</p>	
<p>17:40</p>	

第20 第10回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 高橋 政祺 (杏林大学医学部教授)
2. 期 日 昭和59年10月11日(木)~12日(金)
3. 会 場 杏林大学松田進勇記念館
4. 演 題

(1) シンポジウム 1 題

「学会創立十年のまとめと将来展望」

司会 高橋 政 祺

① 日本の診療録管理士教育とその認定への提言

日本診療録管理士協会会長 京都市立病院 病歴係長 酒 井 隆 子

② リフレッシャー・コースのあり方

関東通信病院医学資料課 診療録管理士 戸 川 登美子

③ 診療録管理士の位置づけとその待遇 京都通信病院 健康管理部長

榊 田 博

④ 医療保険制度と診療録管理 新潟市民病院 消化器科医長

木 村 明

⑤ 情報化社会と六つの理念 大阪府立病院 精神神経科部長

亀 田 英 明

⑥ 医療チームとしての患者のヘルスレコードの作成

川崎医科大学公衆衛生学 助教授 中 島 行 正

⑦ 診療録管理のOA化について 東邦大学医学部 病院管理学講師

小 野 丞 二

(2) 特別講演 1 題

「米国の大学（4年制）における病歴管理士養成課程のカリキュラムについて」

ロマリンダ大学医療関連学部 医療情報管理学科長

マーガレット・ジャクソン女史

通訳 日本病院会診療録管理通信教育部 講師 大 町 文 子

(3) 一般演題 41 題

5. 展 示 会
6. 参 加 者 800 名
7. プログラム (別掲)

第10回 日本診療録管理学会日程表

第1日 10月11日(木)		第2日 10月12日(金)	
8:30	開場・登録受付	8:30	開場
9:00	開会式	9:00	一般演題7～10(診療録の整理保管Ⅰ)
9:15	シンポジウム 「学会創立十年のまとめと将来展望」 司会 高橋 政祺		一般演題11～13(診療録の整理保管Ⅱ)
			一般演題14～16(診療録の利用)
			一般演題17～19(受診動向)
			一般演題20～22(診療統計Ⅰ)
12:00	昼食・休憩	12:00	昼食・休憩
13:00	総会	13:00	一般演題23～26(診療統計Ⅱ)
13:30	特別講演 「米国の大学(4年制)における病歴管理士養成課程のカリキュラムについて」 ロマリンド大学 医療情報管理学科長 マーガレット・ジャクソン		一般演題27～29(病歴情報システム)
			一般演題30～34(パソコン利用)
15:30	一般演題1～3(医療秘書の教育)		一般演題35～38(データ管理)
	一般演題4～6(診療録の記載)		一般演題39～41(コンピュータ利用の諸問題)
17:00		16:50	
		17:00	閉会式
19:00	懇親会		

第21 '84国際モダンホスピタルショウ

テーマ：よりよい医療を求めて
～医療における質の改善と実践～

<開催概要>

- 会期：昭和59年6月15日(金)～17日(日)
午前10時～午後6時(最終日のみ午後4時終了)
- 会場：東京・池袋サンシャインシティ文化会館・2階・3階・4階
- 主催：社団法人 日本病院会
社団法人 日本経営協会
- 後援：厚生省 外務省 通商産業省 消防庁 東京都 日本貿易振興会 (社)日本医師会
(社)日本看護協会 (財)製品輸入促進協会 U.S.トレード・センター
スウェーデン大使館
- 開会挨拶 来賓祝辞 (順不同・敬称略)
厚生省医務局 局長 吉崎正義
社団法人日本病院会 常任理事 丸山正義
スウェーデン大使館 大使 グンナール・ロネウス
主催者挨拶
社団法人日本病院会 会長 諸橋芳夫
'84国際モダンホスピタルショウ 担当理事 河野稔
'84国際モダンホスピタルショウ 実行委員長 竹本吉夫
'84国際モダンホスピタルショウ 企画委員長 三宅浩之
- テープカット：日本光電工業株式会社 代表取締役 荻野義夫
社団法人 日本病院会 会長 諸橋芳夫
社団法人 日本経営協会 理事長 高橋松三郎
'84国際モダンホスピタルショウ 担当理事 河野稔
- 特別企画事業：1. 放射線研究会コーナー
2. ハウスキーピング研究会コーナー
3. 栄養管理・調理研究会コーナー
4. 臨床検査管理研究会コーナー
5. 改善製品の展示コーナー
6. 病院における日本語WP・パソコン

ソフトウェア展示コーナー

7. 人材教育関係コーナー

- 特別研究会：
- | | | |
|-------------------------------|-----|------|
| 1. 「医療における質の改善と実践」実例発表討論会 | 参加者 | 264名 |
| 2. 全国看護師研修会 | 参加者 | 361名 |
| 3. 臨床検査管理研究会 | 参加者 | 173名 |
| 4. 病院における効果的なコンピュータの使い方討論セミナー | 参加者 | 150名 |

<開催結果概要>

1. 展示規模

154社／7,700 m² — 過去最大規模で開催

海外からスウェーデン、アメリカが出展

'84	154社／7,700 m ² (展示面積 2,000 m ²)	輸入品展示 10社
'83	90社／4,500 m ² (展示面積 1,300 m ²)	—

2. 来場者数

総来場者数は 26,560 名 (昨年度 16,770 名)

前年比 58%増

	'84		'83	
第1日	6月15日(金)	8,350	6月17日(金)	5,210
第2日	6月16日(土)	10,940	6月18日(土)	6,990
第3日	6月17日(日)	7,270	6月19日(日)	4,570
	合計	26,560	合計	16,770

*団体見学(医療専門学校) 33校 2,443名

第22 創立33周年記念行事

本会が昭和26年6月24日に設立され、10周年、20周年の節目には、記念式典を挙げていたが、この度、33周年を記念して式典の開催、年史の発行ならびに“信頼される我が病院づくり”の発刊を実施した。

式典は、多年にわたり本会において病院事業の発展向上に寄与された30名に対して渡部厚生大臣表彰があり、又本会の役員、委員、事務職員として多年にわたり、わが国病院の向上発展と医療福祉の増進に寄与された127名に対して、諸橋会長表彰が授与された。

30年史は、即、戦後のわが国の病院のあゆみを示すものとして、又“信頼される我が病院づくり”では適正な医療供給体制の担い手としての病院の実践記録を紹介するものとして企画した。

I 記念式典

1. 日 時 昭和59年5月29日(火)
2. 会 場 帝国ホテル 本館2階
3. 式典次第 (午後4時30分～5時15分 孔雀西の間)

(司会) 平野 一 彌

開式の辞		若月俊一
式 辞		諸橋芳夫
厚生大臣祝辞	厚生大臣	渡部恒三
厚生大臣表彰		
受彰者代表謝辞	名鉄病院長	阿久津 慎
会長表彰		
受彰者代表謝辞	北里大学教授	井上昌彦
閉式の辞		河野 稔

記念パーティー次第 (午後5時30分～7時 孔雀東の間)

(司会) 平野 一 彌

開会宣示		有澤源蔵
開会挨拶		諸橋芳夫
来賓祝辞	厚生大臣	渡部恒三
乾 盃		内藤景岳
祝 宴		
閉会挨拶		竹本吉夫

4. 出席者数 616名

5. 厚生大臣表彰被表彰者 30名

阿久津 慎	愛知県	名鉄病院長
有澤 源 蔵	大阪府	有澤総合病院長
岩永 光 治	長崎県	(前)十善会病院長
遠藤 香 苗	和歌山県	和歌浦中央病院長
大野 松 次	神奈川県	(前)京浜総合病院長
大道 学	大阪府	大道病院長
岡山 義 雄	愛知県	岡山病院長
小原 知次郎	兵庫県	小原病院長
河井 博	東京都	河井病院長
河野 稔	東京都	北品川総合病院長
西能 正一郎	富山県	西能病院長
財津 晃	滋賀県	長浜赤十字病院長
島津 寿 秀	山梨県	甲州中央温泉病院長
高山 瑩	東京都	高山整形外科病院長
竹本 吉 夫	秋田県	秋田赤十字病院長
多胡 楯 祐	兵庫県	城南多胡病院長
丹野 清 喜	茨城県	水戸済生会総合病院長
土屋 定 敏	愛媛県	松山赤十字病院長
中村 了 生	和歌山県	中村病院長
中山 耕 作	静岡県	聖隷浜松病院長
野村 秋 守	東京都	野村病院長
菱山 博 文	福岡県	福岡城南病院長
平野 一 彌	神奈川県	港北耳鼻咽喉科病院長
藤掛 敏	岐阜県	藤掛第一病院長
星 源之助	福島県	総合会津中央病院長
堀内 光	東京都	東京都済生会中央病院長
牧田 中	東京都	牧田総合病院長
宮本 祥 郎	岡山県	(前)津山中央病院長
守屋 博	東京都	(前)順天堂医院副院長
吉岡 観 八	大阪府	新千里病院長

6. 会長表彰被表彰者 127名

秋山 都美	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	落合勝一郎	東京都	東京文化学園
浅見 信子	東京都	社保蒲田総合病院	小野田敏郎	東京都	(前) 佼成病院
東 義晴	東京都	武蔵野赤十字病院	笠木 茂伸	東京都	北品川総合病院
荒木 威	東京都	武蔵野赤十字病院	笠原亀次郎	東京都	(前)日本病院会事務局
安藤 秀雄	東京都	社保蒲田総合病院	粕谷 良	東京都	(前)虎の門病院
安藤 幸夫	東京都	聖路加国際病院	金澤 鉄男	青森県	青森県立中央病院
飯塚 治	高知県	飯塚産婦人科病院	加納 繁美	大阪府	総合加納病院
石川 幸雄	東京都	都立府中病院	鎌田 利雄	東京都	北品川総合病院
石原 信吾	東京都	病院管理研究協会	川北 祐幸	東京都	順天堂医院
飯田 晶	東京都	東芝中央病院	上林 三郎	東京都	聖路加国際病院
一条 勝夫	栃木県	自治医科大学	紀伊國献三	茨城県	筑波大学
井手 一郎	福岡県	聖マリアンナ病院	木村千枝子	東京都	東京日立病院
稲垣 武	東京都	(前)済生会向島病院	清瀬 闊	東京都	三井記念病院
井上 昌彦	神奈川県	北里大学	倉持 一雄	栃木県	自治医科大学
岩瀬 英二	東京都	織本病院	栗田 静枝	東京都	(前)聖路加国際病院
岩塚 徹	愛知県	愛知県総合保健センター	栗田 道雄	東京都	関東通信病院
宇井美代子	東京都	聖路加国際病院	黒田 幸男	東京都	虎の門病院
内田 卿子	東京都	聖路加国際病院	後藤 直昭	千葉県	社保船橋中央病院
宇津 典彦	福岡県	久留米大学病院	斉藤 達郎	栃木県	大田原赤十字病院
大内 周信	東京都	聖路加国際病院	三枝 勇雄	山梨県	山梨療養所
大城 三郎	東京都	日本病院共済会	酒井 隆子	京都府	京都市立病院
太田 孝哉	富山県	(前)富山県立中央病院	榊原 聡彦	東京都	日大板橋病院
大高 紹世	東京都	日本病院共済会	笹森 典雄	東京都	牧田総合病院
大谷 英尚	東京都	東京女子医科大学病院	佐藤 和身	東京都	駿河台日大病院
大町 文子	京都府	(前)日本バプテスト病院	佐藤 キク	東京都	駿河台日大病院
緒方 廣市	東京都	武蔵野赤十字病院	佐藤 泰司	東京都	杏林大学医学部
岡野 博	東京都	佼成病院	澤田 光正	東京都	佼成病院
荻原 淳	神奈川県	北里大学病院	塩山 雅英	東京都	聖路加国際病院
小関 忠尚	京都府	京都第二赤十字病院	嶋崎佐智子	東京都	東京警察病院
小田 博夫	東京都	和泉クリニック	嶋田 和正	東京都	都立広尾病院
小田桐信子	東京都	慶応大学病院	篠塚 輝治	東京都	佼成病院

鈴木 豊明	東京都	東京警察病院	二宮 鶴吉	東京都	(前)日本病院会事務局
瀬川 篤宏	東京都	河北総合病院	野辺地篤郎	東京都	聖路加国際病院
関 武矩	東京都	聖路加国際病院	橋本レツ子	東京都	虎の門病院
妹尾 昭一	東京都	都立府中病院	長谷川秀子	東京都	関東通信病院
千田 通	東京都	全国社会保険協会連合会	浜田 博之	東京都	(前)関東通信病院
高橋 春雄	愛知県	愛知県総合保健センター	平沢 政人	東京都	昭和大学病院
高橋 政祺	東京都	杏林大学医学部	平野 榮次	東京都	(前)日大板橋病院
滝沢 喜七	新潟県	小千谷総合病院	広瀬 朝次	東京都	順天堂医院
竹内 春彦	東京都	(前)都立荏原病院	福井 順	長崎県	福井病院
竹村 喬	大阪府	大阪府立 母子保健総合医療センター	福村 安治	東京都	順天堂医院
立川 清	東京都	(前)昭和医科大学	藤沢 武吉	東京都	順天堂医院
橋 敏也	東京都	聖路加国際病院	船橋 哲哉	東京都	都立墨東病院
田中 栄一	東京都	日大板橋病院	古川 正	東京都	東京警察やよい薬局
田中 剛二	東京都	東京都済生会中央病院	牧野 永城	東京都	聖路加国際病院
田中 敏行	大阪府	大阪通信病院	松岡 研	大阪府	P L 病院
丹野 三男	宮城県	仙台市立病院	真鍋 真之	東京都	東京白十字病院
土屋 章	神奈川県	横浜総合保健センター	三浦 秀夫	東京都	倭成病院
都築小次郎	大阪府	(前)日本病院会事務局	三上 晃	東京都	和泉クリニック
寺田由紀夫	大阪府	大阪赤十字病院	三木 徹	兵庫県	丸山病院
藤間 弘行	埼玉県	藤間病院	水野 謹爾	東京都	(前)新宿赤十字産院
戸川登美子	東京都	関東通信病院	水野 近	東京都	(前)三井健康保険組合
土橋 明次	千葉県	柏戸病院	三竹年世子	東京都	杏林大学医学部附属病院
豊田賀寿子	東京都	(前)日本病院会事務局	村田寿太郎	山口県	村田博愛病院
虎渡 勇二	東京都	同愛記念病院	山口 禅之	佐賀県	至誠会病院
内藤 均	東京都	聖路加国際病院	山本 修	東京都	(前)都立大塚病院
中島 克三	東京都	(前)関東中央病院	山本麻喜子	東京都	東京衛生病院
中島昭二郎	東京都	北品川総合病院	横山 達治	東京都	聖路加国際病院
中西 照録	東京都	都立豊島病院	依藤 省三	兵庫県	済生会兵庫県病院
中野 進	京都府	京都四条病院	鷲野 昌夫	愛知県	(前)名鉄病院
西川 正光	島根県	松江市立病院	和田 秀夫	大分県	大分総合健診センター
錦織ハナ子	東京都	北品川総合病院	渡邊 進	東京都	日本病院共済会
西田 義夫	東京都	倭成病院	渡邊 茂夫	静岡県	(前)国立熱海病院
西山 君枝	東京都	(前)日本病院会事務局			

表彰状

殿

あなたは多年にわたり社団法人
日本病院会において病院事業の
発展向上に寄与されその功績は
誠に顕著なものとあります
よつてここに表彰します

昭和五十九年五月二十九日

厚生大臣 渡部恒三

表彰状

殿

あなたは社団法人日本病院会の
役員として多年にわたりわが国病院の
向上発展と医療福祉の増進に寄与され
その功績は誠に顕著であります
よつて本会創立33周年記念式典を
挙行するにあたりここに表彰します

昭和五十九年五月二十九日

社団法人日本病院会
会長 諸橋芳夫

II 日本病院会三十年史

創設準備時代の昭和24年から昭和55年12月までの30年の歩みを総説、各説、年表の3部で構成した。

第Ⅰ部の総論は、①創設時代（昭24～30）、②橋本会長時代（昭31～44）、③神崎会長時代（昭45～48）、④日本病院会時代（昭49～55）で、戦後の混乱からの脱却を目指した設立の経緯から時代の流れの中で正しい医療を貫こうとして苦斗した先人の対応、医療制度の研究をはじめ地域社会の中における病院の機能向上へと目を向け、各種の研究部会を設置した状況を描いている。

第Ⅱの各説は、①定款、②人事、③経済、④研究部会、⑤臨床予防医学活動、⑥通信教育、⑦研究旅行、⑧学会、⑨国際関係、⑩広報、⑪日本病院会政治連盟、⑫日本病院共済会、⑬事務局を設置の経過および記録としてまとめている。

第Ⅲ部は、年表とグラフ（三十年をみる）で、年表は26年4月の日本病院協会設立準備会から昭和55年12月の「病院倫理綱領」の制定に至る病院会事項に併記して社会のトピックスをまとめた。グラフは初代会長上條秀介氏から歴代の会長の顔写真、事務所の変遷、日本病院学会1～30回学会長、病院学会、研究会、通信教育などを収載している。

小野田敏郎編集委員長のもと、昭和58年1月に着手してから（編集第1回会議は58年2月）59年4月の完成まで1年4カ月を費やしたが、日本病院会としてはじめての年史であり、各項目の執筆者と事務局あげての対応で仕上げたものである。

体裁はB5判、本文783頁、グラフ16頁の上製本仕立てで箱付き。創立33周年記念式出席者への土産とし、また全会員に送付した。

III 信頼される我が病院づくり

昭和58年8月の常任理事会に33周年記念事業の一環として、諸橋会長から提案され、学術委員会（岡崎通委員長）が担当することになった。「三十年史」と対をなす出版であり、全会員に寄稿を依頼した。最終的に142の投稿をまとめたが、文字通り北海道から沖縄まで47都道府県を網羅している。142の設立母体別は、国立2、三公社1、都府県13、市町村24、日赤17、済生会6、厚生連5、健保組合及連合2、共済及連合1、公益法人17、医療法人35、学校法人2、その他法人12、個人5で、公私の比率が71づつと等しくなったことで、公私の別なくあらゆる設立母体の病院を対象とした当初の企画が生かされた。

巻頭に諸橋会長の序文と渡部厚生大臣の「推薦のことば」を得て本書の意義を明らかにしているが、病院の全景写真にそれぞれ独自のタイトルをつけ、病院の歴史、組織（機構、職員数）、病床数、診療科目、診療圏、地域医療との関係、将来構想等を盛り込んだ内容は、多くの会員から活用されている。

体裁はB5判、表紙はビニール加工にした。本文495頁。59年5月刊行で、33周年記念式への土産とし、また全会員に配布した。

謹啓

貴台 益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昭和36年、国民皆保険制度の実施と共に、貴台を始め医療関係者の努力により、諸外国に比し、比較的少ない医療費で我が国民の健康水準は世界最高のレベルに達しました。

今回政府は国の財政再建の方策と称し、健康保険法の改正を行い五十年以上もつづいた健保本人10割給付を病気の早期受診、早期発見に支障はあっても九割給付とし、患者負担を増額しようとしています。

政府の今年度の予算では、国民所得の伸び6.4%に比し、医療費の伸びを2.5%に抑え、強引に医療費を節減しようとしています。然もこの改革については一度も我々病院団体の意見を聴取しておらないのは甚だ遺憾に存じます。

十四兆円余といわれる医療費の中の薬品費は28.2%（約四兆円）を占め、医薬品業界は、年々高利潤をあげています。

一方、病院はこの数年間医療費の改訂はあつても実質的にマイナス改訂で、この間、物価、人件費は30%近くも上昇し、破産する病院が続出しています。

病院診療報酬については原価割れ料金（診察料、手術料、入院時医学管理料等の技術料及び看護料、入院料）の是正なくしては、良心的な質のよい医療を提供する病院は崩壊せざるを得ません。

去る三月一日の薬価の引き下げ、医療費のマイナス改訂等により、今年度の医療費の伸びは前年度の半分程度と激減する様相を呈しております。

そもそも健康保険制度は生涯を通じて、一貫した体系が望ましく、そのため各種保険制度の統合こそ、先に行うべきであります。

更に退職者医療制度、特定承認保険医療機関等についても、今後の我が国民の医療保障、病院医療に与える影響が極めて大きい現在、政府は拙速をとらずに充分に関係団体の意見を聞いて国会で慎重に審議され、人生八十年型社会、二十一世紀にも通ずる立派な案を出されるように切に要望するものであります。

終りに諸先生方の一層の御健康をお祈りします。

敬具

昭和五十九年六月五日

社団法人 日本病院会

会長 諸橋 芳夫（千葉県）

副会長 若月 俊一（長野県）

” 河野 稔（東京都）

” 有澤 源藏（大阪府）

” 竹本 吉夫（秋田県）

（以下次頁へ続く）

国会議員各位

常任理事		理事	
登内 真(茨城県)	許山 詔(山梨県)	丹野 清喜(茨城県)	小口 源一郎(長野県)
池谷 亘(埼玉県)	高橋 善弥太(岐阜県)	鈴木 憲輔(千葉県)	藤掛 敏(岐阜県)
高山 瑩(東京都)	細川 一郎(静岡県)	平野 一弥(神奈川県)	三好 秋馬(静岡県)
西能 正一郎(富山県)	寺田 守(愛知県)	中山 耕作(静岡県)	岡山 義雄(愛知県)
岡崎 通(三重県)	太田 元次(愛知県)	岡本 隆一(京都府)	豊島 正忠(大阪府)
二本杉 岐(大阪府)	吉岡 観八(大阪府)	大道 学(大阪府)	加納 繁美(大阪府)
近藤 慶二(高知県)	安東 三郎(兵庫県)	土屋 呂武(福岡県)	平野 明(兵庫県)
菱山 博文(福岡県)	北村 行彦(兵庫県)	水上 勝太郎(北海道)	小原 知次郎(兵庫県)
金子 保彦(岩手県)	南 溢(奈良県)	安藤 静男(山形県)	中村 了生(和歌山県)
竹内 正也(福島県)	遠藤 香苗(和歌山県)	遠藤 良一(福島県)	石倉 愧(島根県)
星 源之助(福島県)	榊原 宏(岡山県)	井坂 重長(埼玉県)	吉富 正一(山口県)
野辺地 篤郎(東京都)	岡村 一雄(高知県)	織本 正慶(東京都)	欽塚 登喜郎(福岡県)
深瀬 邦雄(東京都)	岩永 光治(長崎県)	石井 昭郎(神奈川県)	三浦 義一(熊本県)
小野 肇(神奈川県)	財津 晃(滋賀県)	篠崎 功(神奈川県)	河井 博(東京都)
石田 礼二(富山県)	副議長		
	代議員会		
	議長		

理事

殿

社団法人 全日本病院協会

昭和 5 9 年 3 月診療報酬改定は、積年の借金政策のツケを、医療担当者におしつける財政主導型である。一貫した医療政策不在の中、政府支出抑制額を予め定め、マスコミ論調を利用した薬価引下げと名目的診療費の引き上げとにより、トータルとして大巾な削減を行なったものである。

社団法人 日本医療法人協会

地域住民にとって必要な医療を如何に確保し、それらを効率的・安定的に提供してゆく為の経済的裏付としての診療報酬のあり方を模索する姿が全く欠除している。医療技術評価・効率的運用・近代的経営・継続性といった要素をベースにすべきであるのに、その時々々の情勢に辻褄を合せた改定の繰返して矛盾は拡大する一方である。

社団法人 日本精神病院協会

現在すでに国民医療の崩壊のきざしが現われており、このまま推移すれば、良心的な多くの医療機関の維持がますます困難になることは明らかであり、ここに国民医療を守るために早急な診療報酬の改定をすべきである。

社団法人 日本病院会

上記のとおり声明する。

昭和59年7月

殿

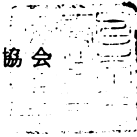
社団法人

全日本病院協会



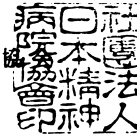
社団法人

日本医療法人協会



社団法人

日本精神病院協会



社団法人

日本病院



医療業は、業務の基本的性格から高い公益性を要請されており、また、われわれ医療従事者もこれを自覚し、その社会的使命の達成に努力しております。

医療の原点とも言うべき救急医療又は措置医療に関しても、これに積極的に取組みその責務を果しているのは、民間医療機関であります。

しかしながら、税制面におきましては、一般産業と比較して、その公益的側面に対する配慮が殆どされてなく、また公的医療機関と比較しても、その業務の同質性からみて著しく均衡に欠けるものがあります。

医療業の公益的側面に見合った税制の確立のため、別紙の通り、昭和60年度の税制改正要望事項の実現について格別のご配慮の程要望申し上げます。

昭和60年度税制改正要望事項

国 税 関 係

I 所得税、法人税関係

1 剰余金の配当の禁止と業務範囲が制限されている医療法人について、協同組合等と同様の法人税率を適用すること。

(法人税法第66条第3項)

また、特定の医療法人は非課税法人とされたい。

(措法67条の2)

(理 由)

(1) 医療法人は、その法人組織、運営のすべてに亘り、民法第34条の公益法人のそれを準用している。しかも、剰余金の配当禁止と業務上附帯業務についての制限等があり、医療事業の公益的性格と併せて、協同組合等と比較し、その位置づけに即応した同率の26%の税率を適用されたい。

(2) また特定の医療法人は、その組織運営及び最終財産の帰属が、社会福祉法人又は厚生連医療機関と同一の条件にある以上、税制上も同様な非課税法人とされたい。

2 病院用建物および建物附属設備について、法定耐用年数を短縮すること。(耐年省令別表第1)

(理 由)

病院の施設基準は患者等の収容に適した環境条件を要求している。老朽化した設備については、耐用年数未滿でも改善命令による更新が義務づけられ、国際登録ホテル等と比較しても、その耐用年数はより短縮されるべきである。

建物鉄筋コンクリート造36年、建物附属設備12年等登録ホテル業等の耐用年数と同等以下の年数に短縮されたい。

3 医療用機器の特別償却制度の特例措置を継続されたい。

(措法第45条の2⑤)

(理 由)

医療用機器の特別償却制度の適用期限を、昭和60年4月1日以降も引き続き延長し、医療設備の近代化と、その整備充実の促進をはかられるよう要望する。

4 病院、診療所等医療機関の耐火構造を有する建物、構築物及び防災施設に対する割増償却制度を設けること。

(理由)

- (1) 火災による災害の多発から、消防・防災査察は一段と強化され、殊に人体の安全、保護を至上命令とする医療施設については、建築基準法及び医療法に規定する安全確保のための諸設備の実施、履行の徹底が期せられている。
 - (2) 規定される諸設備の完全実施はもとより制度の趣旨を生かし、耐火及び防災施設の改善、促進をはかるためにも、特例措置が必要である。
 - (3) 耐火建築物等、耐火及び防災施設を取得し、事業の用に供した場合は、以後5年以内の日を含む事業年度について普通償却限度額の100%の割増償却を認めること。
- (昭和49年3月31日限り廃止された措置法48条の耐火建築物の割増償却の復活)

5 救急医療用等の補助金および謝金による救急用の固定資産を取得した場合は、その取得価格までを限度に補助金および謝金相当額の圧縮記帳による損金算入を認めることとされたい。

(理由)

法人税法第42条ノ項及び施行令79条に規定する国庫補助金等で取得した固定資産等の圧縮記帳は、交付の目的を明示した固定資産の取得に限定されているが、救急医療用等の補助金により、救急用の固定資産等を任意に取得した場合にも、圧縮記帳の適用を認め、助成目的を幅広く活用できるよう要望する。

6 非常勤医師の給与所得源泉徴収額は所得税法第204条の適用を可能にすること。(所得税法第204条第1項)

(理由)

現在は、乙欄適用による高度の累進税率適用になっているため、雇用者の負担は極めて高いものとなっている。必要な法令通達の改正により、報酬又は料金の10%税率適用を可能にされたい。

7 休日、夜間診療又は予防接種法による予防接種等に協力した場合の謝金については、特別控除の特例を設けること。

(理由)

救急医療、並びに予防接種の公益性にかんがみ、協力謝金に対する特例措置を講ずることにより、救急医療体制の推進と予防接種の円滑な実施など、地域医療の確保を図る必要がある。

II 相続税

/ 特定の医療法人に対する財産の贈与又は遺贈があつた場合において、措置法第40条の承認を受け、譲渡が無かつたものとされた財産提供については、特定医療法人成立後も受入れ法人に対する法人税を非課税とされたい。

(理由)

法人設立後の財産の贈与又は遺贈は、基本財産組入れを指定されたもので、これに組入れられたものであつても益金として法人税の課税対象となるのは、提供の趣旨にてらしても不合理である。

地方税関係

/ 医療機関に対する事業税の特例措置、即ち

- (1) 医療法人に対する事業税の軽減措置
(地方税法第72条の22)
- (2) 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置
(同法第72条の14及び第72条の17)

を現行どおり存続されたい。

(理由)

従来から医療機関に対する事業税の見なおし論議がありますが

- (1) 公的医療機関に比較し、税負担という差別を余儀なくされている私的医療機関に、更に税負担の加重を強いることは、経営の悪化を招き、医療事業の健全性を損ねることは明らかである。
- (2) 社会保険制度の制限診療の特質や、診療報酬支払基金の性格からみて、これに事業税を課することは妥当でない。
- (3) 収支の悪化から経営危機が叫ばれている私的医療機関の実情無視は、その存在否定にもつながり医療の混乱が懸念される。

2 医療法人が経営する病院、診療所及び看護学校等パラメディカル養成施設において、直接その用に供する固定資産又は不動産について、固定資産税又は、不動産取得税を非課税とされたい。

(4) その他の医療法人についても、社会保険診療機関及び救急医療機関の整備にからめて、全国一律に軽減措置を適用されますよう要望する。

(理由)

- (1) 現在、公的医療機関の経営する病院、診療所において直接その用に供する固定資産又は不動産については、固定資産税又は不動産取得税は非課税となっており、また、特定医療法人についても、その設置する医療関係者の養成所において、直接教育の用に供する固定資産又は不動産については、固定資産税又は不動産取得税は非課税とされている。(地方税法第73条の4第1項3号及び同法第348条第2項9号)
- (2) 殊に、特定医療法人は、特に強い公益性を義務づけられた医療法人であり、その要件からみて、公的医療機関と何等変わることはない取り扱いをされてしかるべきものである。
- (3) 税制上協同組合等に位置づけられている特定医療法人においては、協同組合経営の病院・診療所の不動産取得税及び固定資産税は非課税となっておりますので、これと同様の措置をとられるよう要望する。(地方税法第73条の4第1項8号及び同法第348条第2項11号の3)

みなし法人課税を個人病院に適用する場合には医療法人と同様の取扱を適用すること。

具体的には、みなし法人課税の個人医療機関への適用を医療業の実態に即した特例制度とすること。(措置法第25条の2)

(理由)

(1) 我国の所得税は、超過累進税となっており、最高税率は、70%に及んでいる。これに対し医療法人は、4.3³%の定率課税となつている。

公益性の高い医療業を維持・存続してゆくには、個人病院についても、医療法人と同様の税制下に置くことが望まれる。

(2) 個人事業を法人事業とみなし、法人に類似した課税を行なう制度として、「みなし法人課税」制度があるが、現行の当該制度は、医療業を営む個人病院の実態には、適合しえないものとなつている。

なぜならば、現行「みなし法人課税」制度は、みなし法人所得からこれに対するみなし法人税を控除した残額を事業主に対する配当としているが、医療法人は剰余金の配当が禁止されており、当該制度の適用は不合理となつている。

従つて、個人病院に対する「みなし法人課税」制度にあつては事業所得の内部留保を認めるよう強く要望する。

昭和59年7月16日

要 望 書

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

1. 要望の主旨

健康保険法一部改正案の審議にあたり、日医は参議院に対し再修正について猛運動を展開されたい。

1. 理 由

健康保険法一部改正案は、日医との話し合いが成立したとの経緯を以て、衆議院で可決参議院に送付された。

しかし当該法案は外来診療報酬の低額部分を3段階別に定額化したのみで入院診療報酬の患者1割負担の修正には触れていない。

長期に亘り療養し高額の治療費の一部負担を強制される入院患者にとっては、極めて苛酷且つ不公平な修正である。同時にまた今回の修正は、病院事務をいたずらに複雑化するのみで、窓口様々なトラブルを惹起する危険が多い。

かかる修正案は病院四団体の到底容認し難い処である。このまま推移すれば病院の経営はますます困難となる。この際日医は病院経営の危機の実態を理解して、再度参議院に働きかけ診療報酬の引上げを要求するとともに、健康保険法一部改正案の再修正をめざして猛運動を展開されたい。

高額医療費についての要請書

現在審議中の健康保険法改正案について、特に著しく患者の負担増が強いられる高額医療費を、左記のとおり取り扱われるよう要請します。

記

- 一・高額医療費(低所得者の場合も含み)を家族一体として扱い、五一、〇〇〇円(入院三〇、〇〇〇円・外来三九、〇〇〇円)とすること。
- 二・高額医療費は月を超えても、実一ヶ月以内の場合、一疾病として扱い、五一、〇〇〇円(入院三〇、〇〇〇円・外来三九、〇〇〇円)とすること。
- 三・外来診療費及び入院診療費を一体として扱い、高額医療費を五一、〇〇〇円(入院三〇、〇〇〇円・外来三九、〇〇〇円)とすること。
- 四・診療の一貫として、二つ以上の医療機関にまたがる場合も、一体として扱い、高額医療費を五一、〇〇〇円(入院三〇、〇〇〇円・外来三九、〇〇〇円)とすること。

昭和五十九年七月十九日

病院診療報酬適正化推進会議

代表委員

全国公私病院連盟

会長 五十嵐正治

代表委員

(社)日本病院会

会長 諸橋芳夫

昭和 5 9 年 7 月 2 4 日

要 望 書

健康保険法の一部改正案に対し、参議院で下記のとおり修正を要望いたします。

殿

記

1. 入院部門に対する定額方式の導入

	入 院 請 求 額	自 己 負 担 額
社 団 法 人 全 日 本 病 院 協 会	1 円 ~ 1 0 0 0 0 円 まで	5 0 0 円
	1 0 0 0 1 円 ~ 1 5 0 0 0 円 まで	1 0 0 0 円
	1 5 0 0 1 円 ~ 2 0 0 0 0 円 まで	1 5 0 0 円
社 団 法 人 日 本 医 療 法 人 協 会	2 0 0 0 1 円 ~ 2 5 0 0 0 円 まで	2 0 0 0 円
	2 5 0 0 1 円 ~ 3 0 0 0 0 円 まで	2 5 0 0 円

2. 高額療養費の改正

- (1) 高額療養費（低所得者の場合も含む）を家族一体として捉え
社 団 法 人 日 本 精 神 病 院 協 会 5 1 0 0 0 円（3 0 0 0 0 円）とすること。
- (2) 高額療養費は診療が月を超えても一疾病として捉え
5 1 0 0 0 円（3 0 0 0 0 円）とすること。
- (3) 外来診療費及び入院診療費を一体として捉え、高額医療費を
社 団 法 人 日 本 病 院 会 5 1 0 0 0 円（3 0 0 0 0 円）とすること。

3. 特定承認保険医療機関制度案の廃止

今回の一部改正案では、高度先端の医療技術を大学病院等の特定の医療機関で受療できる制度を導入しているが、このことは高度医療を目指す病院を制度上締め出す結果となる。このように診療報酬のランクづけで病院を類別することは現行の社会保険制度の根幹をゆるがす大きな問題であり、この制度の導入に反対である。

厚生省保険局長

吉村 仁 殿



昭和59年8月18日

社団法人 日本病院会

会長 諸橋 芳夫

要 望 書

健康保険法等の一部改正にともなう診療報酬請求業務の取扱いについて、医療事務の複雑化による事務経費の増大、医療機関窓口における事務処理の混乱等を回避するため、次の通り要望いたします。

記

1. 一部負担金処理方式の簡素化について

今回の改正により、医療機関窓口においては被保険者の一部負担金の即時計算による徴収処理が必要となり、医療事務業務量の急増が予想されている。また、診療報酬請求明細書の作成処理においても、端数処理まで考慮した処理を行うと、膨大な医療事務処理の負担増加が予想される。したがって、保険の請求・支払等の業務手続の実務的業務簡素化のため、以下のように取扱うこととしたい。

- (1) 一部負担金の十円以下の端数の四捨五入は医療機関の窓口事務処理の簡素化上望ましいが、これが実務上の後処理に影響を与えて事務処理の煩雑化をもたらすことのないよう、単なる窓口の端数処理に止めることとする。
- (2) 一部負担金の窓口での十円以下の端数の四捨五入処理ないし届出による定額制（1500円以下＝100円、1500円超2500円以下＝200円、2500円超3500円以下＝300円）の採用による一部負担金は、保険請求上は定率負担を徴収したもものとして処理し、現在の保険家族（30%定率）と同様に、診療報酬請求明細書上への一部負担金額の記載はおこなわないこととする。

上記提案の理由として、四捨五入による差異は最大で5円、定額制による差異も最大で50円であり、窓口での請求毎の差異は相殺されて1か月合計では定率計算との差は僅かなものと推定される。これを診療報酬請求明細書に窓口の請求単位に集計して記載し、請求・支払金額の計算上考慮することは、医療機関のみならず、審査・支払機関、保険組合を含めたすべての医療事務業務を徒らに煩雑化し、無用の事務経費を費すに過ぎず、定率でも同等の効果の処理が可能と考えられるためである。

2. 医療費計算および請求処理の詳細を早急に公示されたい。

医療事務処理の複雑化に対応して医療料金計算請求業務をコンピュータにより処理している医療機関はたいへん多数に達しており、当会昭和58年6月調査では日本病院会の会員病院の100床以上の規模の病院での利用率は60%以上に達している。これらの医療機関では、今回の健康保険法等の改

正にともなう医療事務の混乱を回避するためには、医療費の計算方式変更実施以前にまえもって料金計算プログラムの改造、診療報酬請求明細書の方式に合せたデータ・ファイルの設計変更等の準備ならびに十分な試行が必要である。しかも、現在医療機関で使用されている医療事務用コンピュータの種類は多く、処理プログラムは機種毎、都道府県別、病院毎に対応が異なるのが現状であるから、それらのプログラム変更の経費も手数も膨大となる。

これらの現状に照して、少くとも改正施行1か月前までに計算方式、診療報酬請求明細書の書式形式等の処理明細を、都道府県別に細部にわたっても相違を生じないよう、全国統一のとれた形で公示されなければ、円滑な事務業務の移行は困難である。

これらの事前の準備期間なしに改正施行された際に発生する医療事務処理上の混乱による異常事態については、医療機関側の努力の限界を超えるものであり、すべて貴局の責任により処理されることとされたい。

以上

昭和 59 年 8 月 日

殿

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



貴台には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、医療費抑制の進むなかで、病院経営上深刻な問題となっている人件費、特に常勤医・パート医の給与について四病院団体医療経済委員会は、それぞれの団体の資料をもとにして検討してまいりました。

自由経済社会において医師給与の標準額を設定するのは、時期尚早であり、将来医師が過剰になったとき当然給与は落ち着くとの意見もありましたが、現在の緊迫した医療経済と大学医局員の甘えの構造を是正するためにも、一応の妥当線を出すことは有意義であるとの考えから、別紙のような標準額を算出しお知らせすることといたしました。

各県では、それぞれの事情に応じて県内病院または大学関係者と懇談され、病院及び勤務医が共存できるようにご配慮下されれば幸いに存じます。

第1表 パート医師給与標準額（税込み）

パート医師給与標準額取り扱いについての委員会の見解

1. 標準額を大学や業界誌に発表することの是非について検討したが、各県の事情が違うのでかえって混乱を来すおそれがあるということになり、各県病院団体または各団体役員に別記のような標準額をお知らせし、各県に応じた処理方法を考えて頂くことにした。
2. 給与額は上限、下限をつくり巾をもたせた。一定額にした場合、公的病院など現在の支給額より標準額が高くなることもあって、今回の抑制しようという趣旨に反することになるからである。（第1表）
3. 毎年標準額を改正して上限、下限の巾を縮め、将来一定額にするのが好ましいと思われる。
4. 一定額採用の県のために別に一定標準額を掲載した。（第1表-B）
5. 常勤医の年額または月額を定めてほしいとの要望もあったので標準年額及び某公的病院、某医師会病院の月額を例示して参考とした。（第2表）

将来は公務員給与に準じたものにすることが望ましいと思われるが、現在の私的病院の給与は公務員に比し、非常に高額であるので、公務員給与水準では現実性がない。そのため常勤医標準額は民間給与調査、または公務員給与等を参考として算定した。

卒 後 年	枠をもった額 (A)		一 定 額 (B)
	下 限	上 限	
0			
1	19,000	22,000	21,000
2	20,000	23,000	22,000
3	21,000	24,000	23,000
4	22,000	25,000	24,000
5	22,000	26,000	25,200
6	23,000	28,000	26,400
7	23,500	30,000	27,600
8	24,000	32,000	29,000
9	24,500	34,000	30,400
10	25,000	36,000	31,800
11	26,000	37,500	
12	27,000	39,000	
13	28,000	40,000	
15	30,000	45,000	
20	32,000	47,000	

賞与が含まれる

第2表 常勤医給与額

卒後年	標準額		某医師会病院		某公的病院	
	月額	年額	月額	年額	月額	年額
0	—	—	—	—	—	—
1	416,600	5,000,000	426,200	5,115,000	229,100	2,749,700
2	458,300	5,500,000	440,500	5,286,500	326,600	3,920,200
3	500,000	6,000,000	454,800	5,458,000	485,300	5,824,400
4	583,300	7,000,000	468,900	5,627,800	501,000	6,012,400
5	666,600	8,000,000	482,900	5,795,900	516,700	6,200,000
6	750,000	9,000,000	496,800	5,962,300	532,200	6,386,600
7	791,600	9,500,000	510,400	6,125,300	547,500	6,570,900
8	833,300	10,000,000	521,900	6,262,900	562,700	6,733,500
9	875,000	10,500,000	532,900	6,395,300	577,500	6,930,500
10	916,600	11,000,000	543,800	6,526,100	590,100	7,082,000
13	1,000,000	12,000,000	620,700	7,448,700	627,700	7,532,800
15	1,083,300	13,000,000	649,500	7,795,100	659,300	7,912,500
20	1,166,600	14,000,000	708,300	8,499,700	726,700	8,721,000

決って支給
 (本給) + 調整 + 扶養 + 賞与
 時間外等は別

勤務条件による支給額

1. 半日勤務、麻酔医、手術手当、当直、日直手当等については1日バート給与を参考にして各県で算出されたい。
2. 夏、冬、期末賞与を取り込んで給与額を算出しているので賞与は別個に支給しない。
3. 給与額は全て税込みである。今後手取りの悪習をなくすよう努力されたい。
4. 契約時間に遅刻または早退した場合は相当額を支給額から控除する。
5. 学会参加のため勤務しなかった場合は手当不支給とする。
6. 勤務日が祝祭日に当たって勤務しない時も手当不支給とする。
7. 乙欄適用のため、現金支給額が少なくなるが確定申告により調整される。
8. 大学医局より高額の研究費を強制されることが多い。しかも研究費は事実上、寄付・謝金と見なされ損金にならないことが多い。一方的な研究費のあり方については検討すべきである。

病院診療報酬改訂要求書

昭和59年9月

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

病院の安定経営と地域医療の質の確保のため早急な診療報酬の改訂を要求する。

区 分	点数	備 考
1. 診察料		
初診料	30%アップ	標榜科目の専門医師が診療した場合は各科毎に請求できること
再診料	50%アップ	在宅療養重視の意味
往診料	50%アップ	救急医療重視の意味
時間外加算	50%アップ	
2. 投薬料(病院)		
調剤基本料	1ヶ月25点	病院において専門薬剤師のいる場合、調剤料は保険薬局のみ
調剤料	1回 10点	
処方料	1回 20点	
薬品管理料	1日 25点	新設・薬品の安全管理保管のため(薬歴管理を含む)
3. 入院時医学管理料	30%アップ	
4. 入院時経営管理料	1日 25点	新設・経営管理に伴う費用 サービス・教育費用 診療報酬支払い遅延に伴う金利等
5. 室料	100%アップ	
6. 看護料(基準看護料を含む)	75%アップ	
7. 給食料	25%アップ	
基準給食加算	25%アップ	
栄養食事指導料	50%アップ	栄養士による特定疾患の患者に対する指導
医療食加算	2点アップ	
8. 基準寝具加算	2点アップ	
9. 救急医療加算	50点アップ	対象範囲の拡大 現場の救急病院への評価
10. 医療事務管理料		新設
入院	60点	レセプト一枚あたり
外来	40点	〃

解 説

1 診療報酬の基本的考え方

昭和47年1月斉藤厚生大臣が言明したように皆保険下における診療報酬は国民医療の経営基盤である。

元来診療報酬は「医療原価+付加価値+労働の対価」から構成されるべきであり医療原価と労働の対価は物価、人件費の変動に対応するスライド制を導入すべきである。

2 診療報酬改訂要求の趣旨

病院、診療所の診療報酬は昭和53年2月以降今日まで6年有余の間4回アップし、上昇率の総計は23.2%である。その間薬価の切り下げは4回に及び計45.8%切り下げ等で実質的には据え置きの状態といえる。しかも本年8月10日人事院は国家公務員の給与(定昇を除く)の6.44%上げを勧告している。

医療機関特に病院は経営の効率化及び合理化等の各種の努力を払い、納税の義務も果たして来たが、諸般の経営指標はすでに限界に達し赤信号を示している。このまま推移すれば私的の病院は経済的崩壊に類する事は必至である。このように昨今の余りにも短絡的な財政対策の結果は医療の進歩を阻害し、地域医療体制を混乱におとし入れ、国民医療そのものを崩壊させようとしている。

因に昭和53年より昭和59年3月に至る間の物価の上昇は22.3% (物価レポート84年経済企画庁物価局編) であり、国家公務員の給与の上昇も約47%を越えている。このことが統制経済下における病院の安定経営を甚だしく圧迫している所以であり緊急に診療報酬改訂を要求せねばならない理由である。

従って、改訂のポイントは(1)医療の質の確保のための技術料のアップと(2)病院の経営の安定をはかるための病院特有部門のアップの二つであるべきだ。

3 新規要求項目

既設点数項目のアップの他特に診療報酬の合理化として要求する項目は下記のとおり

- (1) 病院における各科専門医による初診、再診については各々総合病院であるか否とにかかわらず初診料、再診料を認める。

現在は総合病院においてのみ認められているが技術の重視とともに病院間の不平等による不合理は是正されるべきである。

- (2) 病院における薬局は薬剤師の配置、設備其他調剤薬局と全く異なるところがない。病院における薬剤に関する技術料は調剤薬局と同額にすべきである。

- (3) 薬品管理料の新設

病院においては購入された薬剤は安全に管理され保管されている。そのための薬歴管理を含む管理費用は当然請求されなければならない。

- (4) 経営管理料

病院は組織的医療サービスを行う有機的機関である。従来の診療報酬体系は個人としての医師の診療を中心としたものである。組織的医療サービスとは医師を主体として多くのパラメディカルスタッフによる組織的医学管理を含む総合的共同体によって、はじめて遂行される。したがって患者に対する入院時医学管理料は高く評価されるべきであり、その大幅アップは当然なべきである。と同時に経営管理料を新設し審査による診療報酬支払の遅延に伴う金利をはじめ経営管理にともなう費用、病院における医療サービスに対する勤務員その他のサービス教育、その他の管理費用等を保障すべきである。このため経営管理料の新設を要求する。

- (5) 医療事務管理料の新設

保険に関する事務費は無料とされているが、複雑膨

大化した診療費請求等の医療事務にかかる経費をいつまでも他の部門から捻出する形で放置することは、経営の安定、健全化を著しく阻害し病院の近代化と良質な医療の確保への圧迫となっている。このため医療事務管理科の新設を要求する。

4. その他の緊急要求

(1) 開放型病院の規制及び協同指導料の拡大と紹介料の設定

各種の規制を緩和して公的病院・医師会病院のみならず、一般私的病院にも門戸を開く事が病診連繋の引き金となり、相互に紹介する場合の紹介料を点数化する事により責任あるスムーズな患者の流通が期待できる。

(2) 長期投薬の拡大

現在1カ月まで長期投薬が認められるのは、特定の疾病に特定の薬品を投与する場合に限られているが病状が安定固定したと認められる場合、特に疾病等による制限を設けずこれを認められたい。

(3) 基準看護における比率等の改正。

現行基準看護制度は将来抜本的改革若しくは廃止すべきものであるがその間の緊急対策として次のように改める。

1. 病院内に於ける適切且つ効率的看護体制

即ち少数精鋭のリーダーの下適當数の有資格者および補助者（助手）を配置した医療看護チームを編成する。

即ち我が、国に於ける現在の看護婦・准看護婦の稼働率等を勘案して、現行の看護婦・准看護婦・看護助手の比率 4:4:2を2:5:3に改める。

2. 基準看護を病棟単位とする。

以上

昭和 59 年 10 月

私的医療機関に対する事業税の

特例措置の存続について

殿

標記については、かねてから四病院団体連名でこの制度が維持存続されるよう関係方面へ強く要望しているところであり、米年度の地方税の見直しにからめて、これを改悪しようとする動きがあります。

現在は事業税にかかる医療法人の扱いは、地方税法第 72 条の 22 により特別法人とされ、所得金額が 350 万円以下が 6%、それを超える分は 8% と一般法人より軽減された税率となっております。

ところが医療法人が特別法人からはずされ、一般法人並に扱われることになると、その税率は所得のうち、350 万円以下が 6%、350 万円を超え 700 万円までの分については 9%、700 万円を超える分は 12% ということのでかなりの増税を強いられることになります。

また、医療法人は「地方税法第 72 条の 14」、個人については「地方税法第 72 条の 17」によって現行は社会保険診療報酬による所得は非課税となっております。

この非課税措置が撤廃され、かつ医療法人が一般法人並みに扱われることになると、社会保険診療分の所得を含む医療法人の総所得金額（法人税課税所得金額）について 6%～12% の税率による事業税が課税されることになりかなりの税負担を強いられる

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

こととなります。

因みに医療機関に対する事業税が改悪された場合、納税額の面で新・旧比較してどのような結果になるかを別紙により例示し参考に供することいたします。

ついては貴医療機関においても、58年度の法人税課税所得金額を基準に別紙計算例にならって特例廃止後の増税額を試算され、廃止された場合の増税額をご確認のうえ対策を検討される必要があると思います。

社会保険診療報酬引上が長期にわたって据置かれている現段階では事業税の増税は、その分だけ利益の巾の縮小となり、経営の悪化につながりますので課税阻止運動は、当面強力に展開しなければならぬ緊急課題と存じます。（事業税の特例措置の存続理由は別添理由書参照）

(別紙)

医療法人に対する事業税の特例措置が廃止された場合の事業税納税額の対比表

(計算の条件)

1. 特例が廃止とは医療法人の事業税における特別法人扱い(地方税法第72条の22)及び社会保険診療報酬に対する非課税措置(同法第72条の14)がすべて廃止された場合をいう。
2. 税率は標準税率で計算した。

	収入の内容		所得金額 (法人税課税所得)	現行の事業税計算額 (A)	特例が廃止された場合の事業税計算額 (B)	差引増税額 (B)-(A)
A 医療法人	社保診療収入	1,009,030千円	42,267千円	非課税 833千円 × $\frac{6}{100}$ = 49,980円	$3,500千円 \times \frac{6}{100} = 210,000円$	4,807,020円
	社保以外の診療収入	17,203千円	833千円		$3,500千円 \times \frac{9}{100} = 315,000円$	
	その他附随収入	2,427千円			$36,100千円 \times \frac{12}{100} = 4,332,000円$	
	計	1,028,660千円	計 43,100千円	計 833千円 49,980円	計 43,100千円 4,857,000円	
B 医療法人	社保診療収入	2,027,015千円	280,085千円	非課税 $3,500千円 \times \frac{6}{100} = 210,000円$ $75,071千円 \times \frac{8}{100} = 6,005,680円$	$3,500千円 \times \frac{6}{100} = 210,000円$	3,650,804円
	社保以外の診療収入	80,259千円	78,571千円		$3,500千円 \times \frac{9}{100} = 315,000円$	
	その他附随収入	93,726千円			$35,165.6千円 \times \frac{12}{100} = 4,219,872円$	
	計	2,201,000千円	計 358,656千円	計 78,571千円 6,215,680円	計 358,656千円 4,272,372円	
C 医療法人	社保診療収入	450,570千円	44,355千円	非課税 $3,500千円 \times \frac{6}{100} = 210,000円$ $2,245千円 \times \frac{8}{100} = 179,600円$	$3,500千円 \times \frac{6}{100} = 210,000円$	5,307,400円
	社保以外の診療収入	46,385千円	5,745千円		$3,500千円 \times \frac{9}{100} = 315,000円$	
	その他附随収入	4,045千円			$43,100千円 \times \frac{12}{100} = 5,172,000円$	
	計	501,000千円	計 50,100千円	計 5,745千円 389,600円	計 50,100千円 5,697,000円	

3. 貴法人の計算欄(上記計算例にならって試算して下さい。)

社保診療収入	千円	千円	非課税	千円 × $\frac{6}{100} =$ 円	
社保以外の診療収入	千円	千円	千円 × $\frac{6}{100} =$ 円	千円 × $\frac{9}{100} =$ 円	
その他附随収入	千円		千円 × $\frac{8}{100} =$ 円	千円 × $\frac{12}{100} =$ 円	
計	千円	計 千円	計 千円 円	計 千円 円	円

(別添)

理 由 書

社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置
(同法第72条の14及び第72条の17)

の廃止が提起されております。

社会保険診療制度のあり方にてらしても、これに事業税を課税することは、制度の趣旨にもそぐわないものと考えます。

又、現行税制のもとにおいて、公的医療機関に比較し、私的医療機関は税負担という差別を余儀なくされており、更にこれ以上の税負担の加重を強いられることは、私的医療機関に課せられた社会的責務をも、果せない結果になることを懸念するものです。

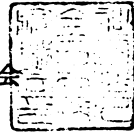
よって医療の公共性、公益的使命と、その中における私的医療機関の果たす役割りを自覚し、誠心努力しているわれわれ医療機関の実態を卒直に認め、従来 of 制度が維持存続されるよう、期待します。

昭和 59 年 月 日

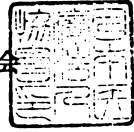
昭和 60 年度の税制改正項目について、病院四団体の総意により
下記事項について要望いたします。

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



昭和 60 年度税制改正検討項目

項 目	ページ
<p>☆医療用機器の特別償却</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用期限の延長 (健保法改正等で、近年、医療機関の経営は厳しくなっている。本制度の廃止や縮減は、それをさらに悪化させることになる。) ・取得およびリースの場合における税額控除を認めること。 (中小企業では、電子機器利用設備について、取得またはリースの場合にぜいがく控除が認められている。医療用機器についても、その並びで認めるべき。) 	46
<p>☆非常勤医師の給与(乙欄適用分)に対する源泉徴収税率の引下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> (病院の非常勤医師の給与については、源泉徴収税率が高かすぎ、申告時に多額の還付が生ずることとなり、不合理。) 	51
<p>☆社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続</p> <ul style="list-style-type: none"> (近年、医療機関の経営は苦しい。特に、健保法改正を行ったばかりであり、この時期に事業税課税は不适当。また、健保法改正の際の党と三師会の覚書でも、医療機関の経営の安定化に触れている。) 	88

病院診療報酬適正化に関する要請書

社会保険診療報酬は、昭和五十三年二月改定以後、第二臨調の医療費抑制策のもとに、昭和五十六年六月および五十九年三月改定が行われたが、いずれも同時に薬価基準の大幅な引下げが実施されマイナス改定となり、加えてこの間六年有半人件費や物価は三〇%以上の上昇により実質的に切下げられ、病院経営は長期に亘って逼迫の度を増している。

厚生大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会では、去る十二月六日から診療報酬の合理化および適正化問題の審議を開始したが、昭和六十年政府予算の編成を目前にしているので、これが早急な結論を得て、一日も早く改定の実現をみるよう強く要請する。

本年十月の健保法改正についての、われわれの調査によれば、政管健保本人の受診率は低下し、件数において七・九%減、金額においては九・六%の減となっており、病院経営はさらに圧迫されている。しかも、政管健保は一・〇〇億円以上、組合健保においても二・三・〇〇億円の大幅な黒字が予想されるなどの状況にあるので改定財源の確保に工夫を図り、病院の経営を安定させ良質な医療が提供できるよう、左記事項の実現を重ねて要請する。

記

- 一・政府は、病院経営基盤の健全化を図るため、われわれの要求する七・三二%の診療報酬改定を直ちに実施すること。

昭和五十九年十二月十五日

病院診療報酬適正化推進会議

代表委員 全国公私病院連盟会長 五十嵐正治

代表委員 (社) 日本病院会会長 諸橋 芳夫

中医協に望む診療報酬改訂の要点

殿

社団法人 日本病院会
会長 諸 橋 芳 夫

診療報酬は昭和53年 6月以降実質的に据え置かれ、この間の物価、人件費の上昇により病院経営は長期に亘り、逼迫の度を増している状況であります。

ここに病院の経営を安定させ、良質な医療が提供できるよう、次の要点の改訂について、格段のご配慮をお願いします。

1. 入院時医学管理料のアップ。

2. 看護料

- 1) 看護料及び特に基準看護加算のアップ。
- 2) 基準看護承認基準を病棟単位（一般、老人、小児、精神、結核の5区分）毎に区分し適用する。
- 3) 現行の看護婦、准看護婦、助手の比率を 4 : 4 : 2 の他に新たな基準例えば 2 : 3 : 5 を新設する。
- 4) より高い看護密度が要求される一部の病棟については 2 : 1 の看護基準（特Ⅲ）を新設する。
- 5) 重症加算病室は固定しないこと。
%で抑えること。結核、精神病棟についても適用する。

3. 初診料、再診料のアップ。

4. 手術料、処置料のアップ。

行為の難易度、所要時間、従事する医師数等を助察して改訂する。
処置料についても同様。

著しく不合理な手術料の例示

区分	診療行為	現行点数 甲表・乙表	是正要求点数 甲表・乙表	理 由 説 明
202	人工呼吸時の 気管内挿管術	60	挿管手技料 加算 100	呼吸困難のときに、心臓・肺の機能を維持させるために、気管内にカテーテルを挿入し、酸素を供給する治療法である。 手技的に困難な場合が多く、現行の人工呼吸60点に挿管手技料100点を加算できるよう望みたい。
212	術後の創傷 処置	12 12 24 48	甲、乙 同一点数	手術料が甲、乙同一点数の運用であることから、術後の創傷処置の算定が甲は、乙よりも著しく制限されている。 甲、乙両方表を同一の運用に是正されたい。
377	先天性食道 閉鎖症手術	2,500	14,000	新生児を対象とする食道閉鎖症は、気管と食道が瘻状になっていて、挿物摂取が不能のため、形成手術が必要となる。手技的に困難な場合が多く、食道癌摘出術（2）、胸部のもの（14,000点）程度に、手技料を是正されたい。
212	皮膚科処置	なし 12	なし 内科再 診料の 算定	乙表の場合、処置範囲が小さいとき、処置（12点）を算定すると、内科再診料（35点）が算定できなくなり不合理である。 是正されたい。
375	食道癌摘出術 （首部のもの）	10,000	15,000	胸部のもの（14,000点）腹部のもの（13,000点）と比して困難な場合が多く、著しく均衡を失っている。是正されたい。

5. 放射線治療料のアップ。

6. 救急医療にて、時間外のX線造影検査についての時間外加算の新設。

7. 調剤関係料金

1) 薬剤師の技術料を明確に評価すること。

2) 入院時薬歴管理料の新設。

3) 調剤技術料基本料及び調剤料の適正化 ----- 保険調剤薬局の料金との均衡を計る。

8. 特定治療材料及び特定材料・器材について保険給付の拡大を図る。

特にHIV抗原陽性者等の感染予防のためディスポーザブル器材を使用した場合の保険点数化が必要。

9. 基準寝具（病衣）の点数引上げ（現行4点）

10. 医療用食品加算点数の引上げ（現行14点）

昭和60年1月18日

日本医師会

会長 羽田 春兔 殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

このような物価、人件費の上昇に対し、組織医療を行う病院としては、当然それに見合う診療報酬の引上げが必要であり、医療の質の低下を防ぐためにも、我々四病院団体は全員の統一見解として59年9月17.0%の引き上げを要求した。

然るに59年12月決定した引上げ幅は医科3.5%であり、これは我々の要求を殆ど無視したものととってもよい。

聞くところによれば3月実施予定の診療報酬の具体的内容は、1月中に決定されるとのことである。限られた上げ幅の中での改訂とはいえ、地域における医療の確保のため重点的、効率的な配慮につき唯一の窓口としての貴会の賢明な対処を期待すると共に、地域に密着した病院の窮状と病院医療の特性を御賢察の上、点数配分につき再考されることを重ねてお願いする次第である。

診療報酬の改訂に関する要望書

診療報酬は昭和53年2月以降6年有余、実質的に据え置かれている実態は何人もこれを否定することはできない。その間物価の上昇は22.3%、国家公務員の給与の上昇もまた約47%に及んでいる。

展覧

記

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会
(五十音順)

医療法の一部改正法案に
対する要望意見

標記についてわれわれ四病院団体は、かねてより数次にわたり病院の立場から意見具申を行ってきたところでありますが、今般改正法案の各条項について改めて四病院団体連絡協議会を開催し検討した結果、下記のとおり

I 地域医療計画について

1. 第30条の3 関係

(1) 地域医療計画において定める事項として、同条第2項及び第3項に列記されているが、医療を行う機関は病院と診療所であるので、診療所とりわけ有床診療所について地域医療の実績に基づく明確な位置付けを行うよう改められたい。

(2) 第3項第1号において「一般医療を提供する病院、高度又は特殊な医療を提供する病院及びその他の病院」とに病院を3つのグループに分け、それぞれの整備の目標を定めることとなっているが、医療の実情に照らし適切でないと考えられるので機能面に着目した整備とされるよう次のとおり修正されたい。

(修正案)

前項第2号の厚生省令で定める高度又は特殊な医療を提供する病院の病床及びその他の病院の病床に関して、その機能を勘案しての整備の目標に関する事項

(3) 第4項において「区域の設定並びに必要な病床数に関する標準は厚生省令で定める」とあるが、地域事情によるものであり弾力的運用が図られるよう「指導又は助言」に改められたい。

(4) 第9項において「診療又は調剤に関する学識経験者の団体の意見を聴く」とあるが、地域医療計画における病院の役割に鑑み、是非とも病院の団体の意見が反映できるよう本項を次のとおり修正されたい。

(修正案)

都道府県は、医療に関する専門的科学的知見に基づいて医療計画の案を作成するため、病院・診療所又は薬局に関する学識経験者の団体の意見を聴くものとする。

(5) 第10項の都道府県医療審議会の委員構成については、前項と同様の趣旨により政・省令等において公、私、医療法人病院の団体を代表する者を明確に位置付けるよう措置されたい。

2. 第30条の4 関係

国は医療計画の作成の手法その他重要な技術的事項については、厚生大臣の諮問機関である医療審議会の意見を聴いて都道府県に対し必要な助言をすることができることとなっているが、ここにいる医療審議会についても公、私、医療法人病院の団体を代表する者を委員構成に位置付けるよう措置を講ぜられたい。

3. 第30条の7 関係

本条において都道府県知事は、医療計画達成のため必要がある場合には、病院の開設者若しくは管理者に対し必要な事項に関し勧告することができる旨定めているが、病院運営の安定化と医療の混乱を

防止するため、ここにいる勧告は少なくとも既存病院に対しては、増床の場合に限るよう次のとおり修正されたい。

(修正案)

都道府県知事は、医療計画の達成の推進のため特に必要がある場合には、病院を開設しようとする者又は増床しようとする病院の開設者若しくは管理者に対し、都道府県医療審議会の意見を聴いて病院の開設、増床に関し必要な事項を勧告することができる。

II 医療法人にかかる規定について

1. 今回の改正法案において医療法人の役員の定数及び欠格事由（第46条の2）、理事長は原則として医師又は歯科医師であること、理事長は医療法人を代表すること（第46条の3）等が新たに規定されているが、既存の医療法人についてはこれにかかわらず従前の例によることができる旨規定されたい。

なお、現行医療法人制度については昭和61年度をめどに抜本的見直しを行い、医業関連税制、公的補助、公的融資等の制度を改善又は創設し経営の安定と事業の永続性を保障するよう国会審議の場における附帯決議等の具体的措置を講ぜられたい。

2. 1人法人制度の法制化に当たっては、既存の医療法人のおかれている条件との均衡を失しないよう慎重に取り扱われたい。

III その他

今回の修正案のほか、現行医療法規定のうち早急に改正すべき事項と

して、次の点について所要の措置を講ぜられるよう併せて要望する。

1. 病院と診療所(法第1条)について現行の病床数による区分は適当でないので、医療体制における機能面に主眼をおいて再検討されたい。
2. 総合病院(法第4条)については、抜本の見直しをされたい。
3. 医業に関する広告制限(法第69条)については、医療事情の変化並びに情報化時代に即し、受診者並びに医療機関相互の連携の立場からこれを緩和し、その適正化を図られたい。
4. 診療科名(法第70条)については、医学医術の進歩、医療の専門化、細分化並びに拡大化に伴いこれに即応した診療体制が求められている現状に鑑み、新たな観点にたって検討されるべきものとする。

顧問・参与

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電
顧問	神崎 三益	日本赤十字社常任理事 武蔵野赤十字病院 名誉院長	1 8 1	東京都三鷹市井口 372 (自宅)	0422-31-43
〃	東 陽 一	中伊豆リハビリテーションセンター 顧問	4 1 2	静岡県御殿場市東田中 1705-1 (自宅)	0550-2-18
〃	阿久津 慎	名鉄病院 院長	4 5 1 4 5 7	愛知県名古屋市西区松前町 3-45 〃 南区霞町 78 (自宅)	052-551-63 052-811-40
〃	左奈田 幸夫	病院システム開発研究所	1 0 7 1 5 5	東京都港区北青山 2-5-8 ハザマビルディング内 〃 世田谷区代田 4-10-16 (自宅)	03-470-69 03-328-08
〃	小野田 敏郎	佼成病院 名誉院長	1 7 6	東京都練馬区中村南 3-24 (自宅)	03-990-99
〃	内藤 景岳	総合病院南大阪病院 院長	5 5 9 5 5 8	大阪府大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18 〃 住吉区帝塚山中 1-8-9 (自宅)	06-685-02 06-673-43
〃	野村 秋守	野村病院 院長	1 8 1 1 6 7	東京都三鷹市下連雀 8-3-6 〃 杉並区善福寺 2-21-13 (自宅)	0422-47-48 03-397-20
〃	遠山 豪	遠山病院 院長	5 1 4 〃	三重県津市南新町 17-22 〃 新町 1-2-36 (自宅)	0592-27-63 0592-28-52
〃	羽田 春晃	(社) 日本医師会 会長	1 0 1	東京都千代田区神田駿河台 2-5	03-291-23
〃	大浜 方栄	参議院 議員	1 0 0	東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 733 号室	03-581-3 内 5
参与	佐分利 輝彦	厚生省病院管理研究所 所長	1 6 2 1 5 4	東京都新宿区戸山町 1 〃 世田谷区下馬 6-41-7 (自宅)	03-203-53 03-418-58
〃	行天 良雄	N H K 解説委員	1 5 0 2 4 0	東京都渋谷区神南 2-2-1 神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘 188 (自宅)	03-465-11 045-331-29
〃	内田 卿子	(財) 聖路加国際病院 総婦長	1 0 4 1 7 4	東京都中央区明石町 10-1 〃 板橋区志村 1-34-7-1004 (自宅)	03-541-51 03-969-79
〃	大森 文子	(社) 日本看護協会 会長	1 5 0	東京都渋谷区神宮前 5-8-2	03-400-83
〃	平岡 栄一	(社) 日本病院薬剤師会 会長	1 5 0	東京都渋谷区渋谷 2-12-15 薬学会館	03-406-04

員

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
長	千葉県	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	市町村 自宅 東京宅	289-25 289-25 153	旭市イの1326 旭市イの1863 東京都目黒区中目黒1-1-17 恵比寿苑211	04796-3-8111 04796-2-0368 03-711-6604
会長	長野県	若月 俊一	佐久総合病院	厚生連 自宅	384-03 384-03	南佐久郡臼田町大字臼田197 南佐久郡臼田町大字臼田2,211-2	02678-2-3131 02678-2-2045
〃	東京都	河野 稔	北品川総合病院	公益法人 自宅	140 150	品川区北品川1-23-19 渋谷区南平台4-8 アジアマンション207	03-474-0023 03-463-2455
〃	大阪府	有澤 源蔵	有澤総合病院	医療法人 自宅	573 573	枚方市中宮東之町12-14 枚方市大垣内町1-3-37	0720-47-2606 0720-43-8360
〃	秋田県	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010 010	秋田市中通1-4-36 秋田市高陽青柳町14-2	0188-34-3361 0188-24-4484
任理事	茨城県	登内 真	土浦協同病院	厚生連 自宅	300 161	土浦市真鍋新町11-7 東京都新宿区中落合3-29-6	0298-23-3111 03-951-1982
〃	茨城県	丹野 清喜	水戸済生会病院	済生会 自宅	310 310	水戸市双葉台3-3 水戸市見和2-25-10	0292-54-5151 0292-53-0666
〃	埼玉県	池谷 亘	蕨市立病院	市町村 自宅	335 167	蕨市北町2-12-18 東京都杉並区南荻窪1-7-11	0484-32-2277 03-332-0112
〃	千葉県	鈴木 憲輔	八千代中央病院	医療法人 自宅	276 276	八千代市八千代台北6-7 八千代市八千代台北11-20-3	0474-83-1555 0474-82-4732
〃	東京都	高山 瑩	高山整形外科病院	医療法人 自宅	125 271	東京都葛飾区金町3-4-5 千葉県松戸市中矢切488-28	03-607-3260 0473-62-0655
〃	神奈川県	平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個人 自宅	222 222	横浜市港北区菊名7-1-11 横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8944 045-421-8946
〃	富山県	西能 正一郎	西能病院	医療法人 自宅	930 930	富山市五福1130 富山市五福2576-8	0764-41-2481 0764-32-3207
〃	静岡県	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人 自宅	430 433	浜松市住吉2-12-12 浜松市和合町154	0534-74-2222 0534-73-8737
〃	三重県	岡崎 通	国立津病院	国 自宅	514-11 514	久居市新町1022 津市浜見町770-35	05925-5-3120 0592-25-4030
〃	京都府	岡本 隆一	岡本病院	医療法人 自宅	612 612	京都市伏見区京町9-50 京都市伏見区京町9-36	075-611-1114 075-611-9181
〃	大阪府	二本杉 皎	大阪赤十字病院	日赤 自宅	543 558	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53 大阪市住吉区帝塚山中2-8-15	06-771-5131 06-671-2306
〃	大阪府	大道 学	大道病院	医療法人 自宅	536 659	大阪府城東区東中浜1-3-17 兵庫県芦屋市三条町23-5	06-967-7111 0797-34-0126
〃	高知県	近藤 慶二	高知県立中央病院	都府県 自宅	780 780	高知市桜井町2-7-33 高知市愛宕山南町4-37	0888-82-1211 0888-75-4220
〃	福岡県	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	済生会 自宅	810 810	福岡市中央区天神1-3-46 福岡市博多区中洲5-1-19	092-771-8151 092-291-1253
〃	福岡県	菱山 博文	福岡城南病院	個人 自宅	810 810	福岡市中央区薬院4-6-9 福岡市中央区薬院4-5-9	092-531-7031 092-531-5775

理事

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
理事	北海道	水上 勝太郎	旭川赤十字病院	日赤 自宅	070 070	旭川市曙1条1丁目 旭川市神居4条4丁目	0166-22-8 0166-62-6
〃	岩手県	金子 保彦	岩手県立中央病院	都府県 自宅	020 020	盛岡市本町通1-1-1 盛岡市天神町13-20	0196-53-11 0196-24-4
〃	山形県	安藤 静男	山形市立病院 済生館	市町村 自宅	990 990	山形市七日町1-3-26 山形市あこや町2-14-1	0236-22-5 0236-31-2
〃	福島県	竹内 正也	いわき市立常磐病院	市町村 自宅	972 972	いわき市常磐上湯長谷町上ノ台2 いわき市常磐湯本町栄田71	0246-43-4 0246-42-2
〃	福島県	遠藤 良一	白河厚生総合病院	厚生連 自宅	961 961	白河市横町114 白河市昭和町249-3	02482-2-2 02482-2-1
〃	福島県	星 源之助	総合会津中央病院	公益法人 自宅	965 965	会津若松市一箕町大字鶴賀字 船ヶ森東181-1 会津若松市日新町6-17	0242-25-1 0242-27-9
〃	埼玉県	井坂 重長	小川赤十字病院	日赤 自宅	355-03 355	比企郡小川町小川1525 東松山市大字高坂1391-1	0493-72-2 0493-34-5
〃	東京都	野辺地 篤郎	聖路加国際病院	公益法人 自宅	104 114	中央区明石町10-1 北区田端5-5-2	03-541-5 03-821-6
〃	東京都	織本 正慶	織本病院	医療法人 自宅	204 177	清瀬市旭が丘1-261 練馬区東大泉3-38-10	0424-91-2 03-922-12
〃	東京都	深瀬 邦雄	日比谷病院	医療法人 自宅	100 153	千代田区内幸町1-3-2 目黒区上目黒3-31-5	03-502-7 03-713-2
〃	神奈川県	石井 昭郎	相模原協同病院	厚生連 自宅	229 229	相模原市橋本2-8-18 相模原市相武台2-2-18	0427-72-4 0462-51-6
〃	神奈川県	小野 肇	大口東総合病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区入江2-19-1 横浜市中区石川町2-78	045-401-2 045-641-4
〃	神奈川県	篠崎 功	篠崎病院	個人 自宅	240 240	横浜市保土ヶ谷区上星川町391 横浜市保土ヶ谷区上星川町391	045-401-0 045-371-0
〃	富山県	石田 礼二	富山市立富山市民病院	市町村 自宅	930-11 930-11	富山市今泉292 富山市高屋敷855-4	0764-22-1 0764-21-0
〃	山梨県	許山 隆	許山胃腸病院	医療法人 自宅	400 400	甲府市中央1-12-6 甲府市中央1-12-6	0552-33-5 0552-33-5
〃	長野県	小口 源一郎	昭和伊南総合病院	市町村 自宅	399-41 399-41	駒ヶ根市赤穂3230 駒ヶ根市赤穂4145	02658-2-2 02658-3-8
〃	岐阜県	高橋 善彌太	岐阜県立岐阜病院	都府県 自宅	500 500	岐阜市野一色4-6-1 岐阜市光明町3-3-2 松本アイリス414号	0582-45-3 0582-53-6
〃	岐阜県	藤掛 敏	藤掛第一病院	個人 自宅	500 500	岐阜市一番町1 岐阜市一番町1	0582-65-5 0582-65-5
〃	静岡県	細川 一郎	静岡赤十字病院	日赤 自宅	420 420	静岡市追手町8-2 静岡市大岩本町5-17	0542-54-4 0542-45-3
〃	静岡県	三好 秋馬	静岡県立総合病院	都府県 自宅	420 420	静岡市北安東4-27-1 静岡市緑町8-4	0542-47-6 0542-45-4
〃	愛知県	寺田 守	公立陶生病院	市町村 自宅	489 489	瀬戸市西追分町160 瀬戸市南山町3-38	0561-82-5 0561-82-7
〃	愛知県	岡山 義雄	岡山病院	医療法人 自宅	460 461	名古屋市中区栄1-30-1 名古屋市東区泉1-17-3 第2オレンジビル 8F-A	052-221-1 052-951-2

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
事	愛知県	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人 自宅	454 454	名古屋市中川区松年町4-66 名古屋市昭和区御器所3-3-12	052-652-7711 052-881-0306
	大阪府	豊島正忠	済生会大阪府中津病院	済生会 自宅	530 565	大阪市北区芝田2-10-39 吹田市古江台1-20-10	06-372-0333 06-872-0810
	大阪府	吉岡観八	新千里病院	公益法人 自宅	565 545	吹田市津雲台1-1-D6 大阪市阿倍野区北畠3-9-11	06-871-0121 06-661-3877
	大阪府	加納繁美	加納病院	医療法人 自宅	531 662	大阪市大淀区天神橋7-5-26 西宮市霞町4-17	06-351-5381 0798-36-6000
	兵庫県	安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村 自宅	653 658	神戸市長田区一番町2-4 神戸市東灘区本山北町 4-7-59-1306	078-576-5251 078-452-7963
	兵庫県	平野明	共立会病院	医療法人 自宅	675 675	加古川市米田町平津596 加古川市米田町平津629	0794-31-0234 0794-32-3549
	兵庫県	北村行彦	優生病院	個人 自宅	660 664	尼崎市杭瀬大崩1 伊丹市鈴原町7-49-2	06-488-1851 0727-81-1785
	兵庫県	小原知次郎	小原病院	医療法人 自宅	652 652	神戸市兵庫区荒田町1-9-19 神戸市兵庫区荒田町1-11-1	078-521-1222 078-531-3849
	奈良県	南溢	秋津鴻池病院	医療法人 自宅	639-22 639-22	御所市池之内1064 御所市大字柏原1604	07456-2-2058 07456-2-2765
	和歌山県	中村了生	中村病院	医療法人 自宅	640 640	和歌山市友田町2-28 和歌山市新内217	0734-31-0351 0734-22-5138
	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	医療法人 自宅	641 642	和歌山市塩屋6-2-70 海南市日方1188	0734-44-1600 07348-2-8035
	島根県	石倉愧	松江赤十字病院	日赤 自宅	690 690	松江市母衣町200 松江市灘町40-1	0852-24-2111 0852-21-3250
	岡山県	榊原宏	心臓病センター榊原病院	医療法人 自宅	700 700	岡山市丸の内2-1-10 岡山市北方3-7-41-1	0862-25-1921 0862-22-2084
	山口県	吉富正一	総合病院山口赤十字病院	日赤 自宅	753 753	山口市八幡馬場53-1 山口市後河原33	0839-23-0111 0839-22-0270
	高知県	岡村一雄	岡村病院	医療法人 自宅	780 780	高知市入明町1-5 高知市大川筋2-7-3	0888-22-5155 0888-25-2626
	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤 自宅	815 815	福岡市南区大楠3-1-1 福岡市南区筑紫丘2-18-26	092-521-1211 092-541-4401
	長崎県	岩永光治	十善会病院	その他法人 自宅	850 852	長崎市籠町7-18 長崎市平野町21-9	0958-21-1214 0958-44-1984
	熊本県	三浦義一	済生会熊本病院	済生会 自宅	860 862	熊本市段山本町4-38 熊本市水前寺公園27-1	0963-54-9163 0963-84-0192
	事	神奈川県	太田清一	太田総合病院	医療法人 自宅	210 249	川崎市川崎区駅前本町3-1 逗子市小坪4-845-15 清風庵
茨城県		戸川潔	茨城県立中央病院	都道府県 自宅	309-17 311-41	西茨城郡友部町鯉淵6528 水戸市河和田東原149-1	02967-7-1121 0292-52-6865
滋賀県		財津晃	長浜赤十字病院	日赤 自宅	526 526	長浜市宮前町14-7 長浜市八幡東町大字下牛丸540	07496-3-2111 07496-2-2224
議員 会長	東京都	河井博	河井病院	個人 自宅	161 170	新宿区西落合1-27-10 豊島区駒込1-13-16	03-951-9116 03-945-6068

代 議 員

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電 話
代議員	北海道	嘉戸達也	総合病院浦河赤十字病院	日赤	057	浦河郡浦河町東町230	01462-2-51
〃	北海道	野田潔	白石中央病院	医療法人	062	札幌市白石区平和通3丁目北2-3	011-861-81
〃	青森県	末武保政	十和田市立中央病院	市町村	034	十和田市西12番町14-8	01762-3-51
〃	青森県	中村登喜雄	中村外科病院	個人	037	五所川原市字一ツ谷160	0173-34-33
〃	岩手県	倉光宏	北上済生会病院	済生会	024	北上市花園町1-6-8	0197-64-77
〃	岩手県	栃内巖	栃内整形外科病院	医療法人	020	盛岡市肴町2-28	0196-23-13
〃	宮城県	丹野三男	仙台市立病院	市町村	980	仙台市清水小路3-1	0222-66-71
〃	宮城県	女川浩	仙台赤十字病院	日赤	982	仙台市八木山本町2-43-3	0222-43-11
〃	秋田県	峯木照夫	秋田組合総合病院	厚生連	011	秋田市土崎港中央4-5-14	0188-45-01
〃	秋田県	瀬戸泰士	中通病院	医療法人	010	秋田市南通みその町3-15	0188-33-11
〃	山形県	高橋浩一	長井市立総合病院	市町村	993	長井市宮378	02388-4-21
〃	山形県	篠田秀男	篠田総合病院	医療法人	990	山形市桜町2-68	0236-23-17
〃	福島県	本宿尚	公立藤田総合病院	市町村	969	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14	024585-21
〃	福島県	渡辺正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	960	福島市北町1-40	0245-22-91
〃	茨城県	三宅和夫	県西総合病院	市町村	309	西茨城県岩瀬町大字鎌田604	02967-5-31
〃	茨城県	林茂樹	水戸協同病院	厚生連	310	水戸市宮町3-2-7	0292-31-23
〃	茨城県	会沢孝	大洗海岸病院	医療法人	311	東茨城県大洗町大貫町915	02926-7-21
〃	栃木県	斉藤達郎	大田原赤十字病院	日赤	324	大田原市住吉町2-7-3	02872-3-11
〃	栃木県	松本清一	自治医科大学附属病院	学校法人	329	河内郡南河内町大字薬師寺3311-1	0285-44-21
〃	群馬県	長洋	前橋赤十字病院	日赤	371	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-45
〃	群馬県	山崎学	慈光会病院	医療法人	370	高崎市上佐野町786-7	0273-47-11
〃	埼玉県	高木紹夫	深谷赤十字病院	日赤	366	深谷市大字上野台856-1	0485-71-15
〃	埼玉県	井上寿一	上福岡中央病院	個人	356	上福岡市上福岡1-14-7	0492-62-31
〃	千葉県	小林愿之	小見川中央病院	市町村	289	香取郡小見川町南原地新田438	04788-2-31
〃	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人	280	千葉市長州2-21-8	0472-27-83
〃	東京都	丹羽直久	武蔵野赤十字病院	日赤	180	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-31
〃	東京都	川瀬貞臣	社保都南病院	全社連	140	品川区東大井5-8-12	03-474-27
〃	東京都	中川三与三	九段坂病院	共済及連合	102	千代田区九段南2-1-39	03-262-91
〃	東京都	河井博	河井病院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-91
〃	東京都	野村益朗	第一病院	医療法人	125	葛飾区東金町4-2-10	03-607-00
〃	東京都	金地嘉夫	金地病院	個人	114	北区中里1-5-6	03-821-64
〃	東京都	長崎太郎	救世軍ブース記念病院	その他法人	166	杉並区和田1-40-5	03-381-72
〃	神奈川県	藤森一平	川崎市立川崎病院	市町村	210	川崎市川崎区新川通12-1	044-233-55
〃	神奈川県	土屋章	淵野辺病院	医療法人	229	相模原市淵野辺3-2-8	0427-54-22
〃	神奈川県	山本敬	衣笠病院	その他法人	238	横須賀市小矢部2-23-1	0468-52-11
〃	神奈川県	熊田正春	日吉病院	個人	223	横浜市港北区日吉本町1966	044-63-73
〃	新潟県	寺田一郎	水原郷病院	市町村	959	北蒲原郡水原町岡山町13-23	02506-2-27
〃	新潟県	青池卓	信楽園病院	その他法人	950	新潟市西有明町1-27	0252-67-12
〃	富山県	吉崎亨	富山県立中央病院	都府県	930	富山市西長江220	0764-24-15
〃	富山県	高木弘	高木病院	個人	939	高岡市戸手町3-15-11	0766-63-11

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
議員	石川県	道下忠蔵	石川県立高松病院	都府県	929	河北郡高松町字内高松ヤ36	0762-81-1125
〃	石川県	神野正一	恵寿総合病院	医療法人	926	七尾市富岡町94	07675-2-3211
〃	福井県	向野栄	福井赤十字病院	日赤	910	福井市月見2-4-1	0776-36-3630
〃	福井県	藤沢正清	福井県済生会病院	済生会	910	福井市中央2-8-6	0776-23-1111
〃	山梨県	飯田文良	山梨県立中央病院	都府県	400	甲府市富士見1-1-1	0522-53-7111
〃	山梨県	安田宏	大月市立中央病院	市町村	401	大月市大月町花咲1225	05542-2-1251
〃	山梨県	小野良蔵	小野病院	医療法人	400	甲府市若松町4-7	0552-33-4174
〃	長野県	永田丕	厚生連北信総合病院	厚生連	383	中野市西1-5-63	02692-2-2151
〃	長野県	関守	城西病院	医療法人	390	松本市城西1-5-16	0263-33-6400
〃	岐阜県	井戸豊彦	岐阜赤十字病院	日赤	502	岐阜市若岩町3-36	0582-31-2266
〃	岐阜県	木沢彰	木沢病院	医療法人	505	美濃加茂市古井町下古井2565	05742-5-2181
〃	静岡県	野木村昭平	静岡市立静岡病院	市町村	420	静岡市追手町10-93	0542-53-3125
〃	静岡県	菊池貞徳	順天堂伊豆長岡病院	学校法人	410	田方郡伊豆長岡町長岡1129	05594-8-3111
〃	愛知県	富永健二	名古屋第二赤十字病院	日赤	466	名古屋市昭和区妙見町2-9	052-832-1121
〃	愛知県	吉田孝夫	半田市立半田病院	市町村	475	半田市東洋町2-29	0569-22-9881
〃	愛知県	伊藤研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜1-9-9	0586-72-1211
〃	愛知県	加藤健	三九朗病院	〃	471	豊田市小坂町7-80	0565-32-0282
〃	三重県	小山士郎	松阪市民病院	市町村	515	松阪市殿町1550	0598-23-1515
〃	三重県	田中矩夫	田中病院	個人	519	亀山市西丸町539	05958-2-1335
〃	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
〃	滋賀県	加藤明	琵琶湖病院	医療法人	520	大津市坂本本町660	0775-78-2023
〃	京都府	塩津徳晃	公立南丹病院	市町村	629-01	船井郡八木町大字八木小字上野25	07714-2-2510
〃	京都府	中野進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区四条堀川下ル	075-361-5471
〃	大阪府	武田惇	大阪府済生会泉尾病院	済生会	551	大阪市大正区泉尾4-13-20	06-552-0091
〃	大阪府	西田茂樹	済生会野江病院	済生会	536	大阪市城東区今福東2-2-33	06-932-0401
〃	大阪府	中野博光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森4-13-17	06-952-4771
〃	大阪府	牧安孝	牧病院	〃	535	大阪市旭区清水3-28-17	06-953-0120
〃	大阪府	岸口繁	府中病院	〃	594	和泉市肥子町1-10-17	0725-41-1646
〃	兵庫県	岡田康男	姫路赤十字病院	日赤	670	姫路市龍野町5-30-1	0792-94-2251
〃	兵庫県	依藤省三	済生会兵庫県病院	済生会	651	神戸市中央区日暮通5-5-17	078-251-8558
〃	兵庫県	安田俊吉	広野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台3-1-1	078-994-1155
〃	兵庫県	元原利武	明舞中央病院	〃	673	明石市松が丘4-1-32	078-917-2020
〃	兵庫県	多胡柊祐	城南多胡病院	〃	670	姫路市本町15	0792-25-2211
〃	奈良県	久米道雄	済生会奈良病院	済生会	630	奈良市杉ヶ町24	0742-22-6881
〃	奈良県	沢井陽一	沢井病院	公益法人	630	奈良市船橋町8	0742-23-3086
〃	和歌山県	内藤行雄	和歌山赤十字病院	日赤	640	和歌山市小松原通り4-1	0734-22-4171
〃	和歌山県	瀬藤光仁	瀬藤病院	医療法人	640	和歌山市岡山丁9	0734-24-3181
〃	和歌山県	月山和男	月山病院	個人	640	和歌山市小松原通り1-3	0734-23-2300

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電
代議員	鳥取県	岩宮 緑	鳥取県立中央病院	都府県	680	鳥取市江津730	0857-26-2
〃	鳥取県	野島 鉄之助	野島病院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	08582-2-6
〃	島根県	杉浦 純彦	島根県立中央病院	都府県	693	出雲市今市町116	0853-22-5
〃	島根県	森本 正紀	森本産婦人科病院	個人	690	松江市雑賀本町82	0852-25-2
〃	岡山県	秋本 若二	岡山赤十字病院	日赤	700	岡山市丸の内1-6-20	0862-22-8
〃	岡山県	宮本 祥郎	津山中央病院	公益法人	708	津山市二階町67	08682-2-6
〃	岡山県	木田 恵三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	08677-2-2
〃	広島県	佐々木 甲子郎	社保広島市民病院	市町村	730	広島市中区基町7-33	082-221-2
〃	広島県	岡田 泰二	岡田病院	個人	734	広島市南区宇品町26-19	0822-55-3
〃	山口県	西村 静一	社保下関厚生病院	全社連	750	下関市上新地町3-3-8	0832-31-5
〃	山口県	村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市三田尻1-1-24	0835-22-2
〃	徳島県	中西 修	中西病院	〃	770	徳島市中通町1-29	0886-26-3
〃	香川県	妹尾 利夫	高松病院	共済及連合	760	高松市天神前4-18	0878-61-3
〃	香川県	藤原 憲和	総合病院回生病院	医療法人	762	坂出市室町3-5-28	08774-6-1
〃	愛媛県	土屋 定敏	松山赤十字病院	日赤	790	松山市文京町1	0899-24-1
〃	愛媛県	宮田 信熙	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43-1
〃	高知県	山本 彰芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸ノ内1-7-45	0888-22-6
〃	高知県	田中 稔正	田中整形外科病院	医療法人	780	高知市上町3-2-6	0888-22-7
〃	福岡県	兵働 貞夫	浜の町病院	共済及連合	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27	092-721-0
〃	福岡県	原 安彦	香椎原病院	医療法人	813	福岡市東区香椎3-3-1	092-662-1
〃	福岡県	井手 一郎	聖マリア病院	〃	830	久留米市津福本町422	0942-35-3
〃	福岡県	吉川 東陽	吉川病院	個人	810	福岡市中央区平尾2-13-24	092-521-0
〃	佐賀県	鶴丸 廣長	佐賀県立病院好生館	都府県	840	佐賀市水ヶ江1-12-9	0952-24-2
〃	佐賀県	山口 弾之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24-5
〃	長崎県	藤田 長利	日本赤十字社長崎原爆病院	日赤	852	長崎市茂里町3-15	0958-26-4
〃	長崎県	福井 順	福井病院	医療法人	851	長崎市深堀町1-11-54	0958-71-1
〃	熊本県	松金 秀暢	熊本赤十字病院	日赤	862	熊本市長嶺町2255-209	0963-84-2
〃	熊本県	金澤 幸一	青磁野病院	医療法人	860	熊本市島崎2-22-15	0963-54-1
〃	大分県	岡村 幹雄	大分赤十字病院	日赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32-6
〃	宮崎県	船渡 護	宮崎県立延岡病院	都府県	882	延岡市新小路2-1-10	0982-32-6
〃	鹿児島県	上高原 勝美	鹿児島市立病院	市町村	892	鹿児島市加治屋町20-17	0992-24-2
〃	沖縄県	比嘉 實	沖縄赤十字病院	日赤	900	那覇市古波蔵113	0988-53-3

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

1. 医療制度委員会

丹野清喜	委員長	水戸済生会病院	茨城県	0292-54-5151
小野肇	副委員長	大口東総合病院	神奈川県	045-401-2411
小西宏	副委員長	済生会神奈川県支部	神奈川県	045-662-4721
左奈田幸夫	委員	病院システム開発研究所	東京都	03-328-0830
井上昌彦	委員	北里大学	東京都	03-444-6161
尾崎恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
大野松次	委員	京浜総合病院	東京都	044-777-3251
佐分利輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
紀伊国献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03-465-1111
荒井蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
大森文子	委員	日本看護協会	東京都	03-400-8331
原俊夫	委員	公立昭和病院	東京都	0424-61-0052

2. 病院管理運営委員会

若月俊一	委員長	佐久総合病院	長野県	02678-2-3131
岡本隆一	副委員長	岡本病院	京都府	075-611-1114
大道学	委員	大道病院	大阪府	06-962-9621
土屋呂武	委員	済生会福岡総合病院	福岡県	092-771-8151
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
寺田一郎	委員	水原郷病院	新潟県	02506-2-2780
野辺地篤郎	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

①統計調査部会

大道学	部会長	大道病院	大阪府	06-962-9621
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537

牧 安 孝 委 員	牧 病 院	大 阪 府	06 - 953-0120
関 田 康 慶 委 員	東 北 大 学	宮 城 県	0222-74-1111
遠 藤 香 苗 委 員	和 歌 浦 中 央 病 院	和 歌 山 県	0734-44-1600
飯 田 信 吾 委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861

②医療事故対策部会

菱 山 博 文 部 会 長	福 岡 城 南 病 院	福 岡 県	092-531-7031
藤 森 暢 路 委 員	藤 森 病 院	兵 庫 県	0792-24-1357
勝 守 昭 雄 委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861
遠 藤 良 一 委 員	白 河 厚 生 総 合 病 院	福 島 県	02482-2-2211
細 田 健 二 委 員	関 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 803-5151
前 田 マスヨ 委 員	東 海 大 学 病 院	神 奈 川 県	0463-93-1121

③防 災 对 策 部 会

小 原 知 次 郎 部 会 長	小 原 病 院	兵 庫 県	078-521-1222
上 林 三 郎 委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
倉 持 一 雄 委 員	自 治 医 科 大 学	栃 木 県	02854-4-2111
松 井 永 二 委 員	大 垣 市 民 病 院	岐 阜 県	0584-81-3341
入 山 和 太 次 委 員	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	東 京 都	0422-32-3111
渊 沢 み さ え 委 員	牧 田 総 合 病 院	東 京 都	03 - 762-4671
植 田 義 雄 (協 力 委 員)	恵 寿 総 合 病 院	石 川 県	07675-2-3211

④労務・福利厚生・物品部会

岡 本 隆 一 部 会 長	岡 本 病 院	京 都 府	075-611-1114
加 納 繁 美 副 部 会 長	総 合 加 納 病 院	大 阪 府	06 - 351-5381
中 野 進 委 員	京 都 四 条 病 院	京 都 府	075-361-5471
本 宿 尚 委 員	公 立 藤 田 総 合 病 院	福 島 県	024585 - 2121
星 源 之 助 委 員	総 合 会 津 中 央 病 院	福 島 県	0242-25-1515
石 橋 秀 雄 委 員	目 蒲 病 院	東 京 都	03 - 759-8885

石山 稔	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
緒方 廣市	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111

3. 勤務医対策部会

土屋 呂武	部会長	済生会福岡総合病院	福岡県	092-771-8151
野辺地 篤郎	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
安東 三郎	委員	神戸市立西市民病院	兵庫県	078-576-5251
榊原 宏	委員	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
石井 昭郎	委員	相模原協同病院	神奈川県	0427-72-4291
鍬塚 登喜郎	委員	福岡赤十字病院	福岡県	092-521-1211
牧野 永城	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

4. 教育委員会

竹本 吉夫	委員長	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
登内 真	副委員長	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
三宅 史郎	委員	日本大学	東京都	03-972-8111
川北 祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03-813-3111
石橋 秀雄	委員	目蒲病院	東京都	03-759-8885
太田 元次	委員	名古屋掖済会病院	愛知県	052-652-7711
中村 了生	委員	中村病院	和歌山県	0734 31-0351
三宅 浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03-448-6537
井上 幸子	委員	日本看護協会	東京都	03-400-8331
内田 卿子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
米田 啓二	委員	全国自治体病院協議会	東京都	03-261-8555
黒田 幸男	委員	虎の門病院	東京都	03-583-6871

5. 通 信 教 育 委 員 会

高橋政禎	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
竹村 喬	副委員長	大阪府立 母子保健総合医療センター	大阪府	0725-56-1220
犬塚貞光	委員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町文子	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-701-8016
落合勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03-381-0196
笠井良一	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-451-7035
栗田静枝	委員	元聖路加国際病院	東京都	(自宅) 03-402-5613
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

退院時疾病統計の書式標準化検討委員会

高橋政禎	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
石塚隆男	委員	医療情報システム 開発センター	東京都	03-586-6321
小野丞二	委員	東邦大学医学部	東京都	03-762-4151
財津 晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
仲村英一	委員	厚生省統計情報部	東京都	03-260-3181

6. 医 療 経 済 委 員 会

有澤源蔵	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
鈴木憲輔	副委員長	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
岩井宏方	委員	岩井総合病院	東京都	03-658-2111
余語栄三	委員	余語病院	愛知県	052-851-6255

酒 泉 春 雄	委 員	河 北 総 合 病 院	東 京 都	03 - 339-2121
藺 部 雅 一	委 員	兵 庫 医 科 大 学	兵 庫 県	0798-45-6500
伊 藤 寛	委 員	伊 藤 会 計 事 務 所	愛 知 県	052-541-0166
石 井 孝 宜	委 員	森 会 計 共 同 事 務 所	東 京 都	03 - 230-3808

7. 国 際 委 員 会 ○=日中友好部会 □=倫理部会

□吉 岡 観 八	委 員 長	新 千 里 病 院	大 阪 府	06 - 871-0121
□紀伊国 献 三	副 委 員 長	筑 波 大 学	茨 城 県	0298-53-2111
□高 橋 勝 三	委 員	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	東 京 都	0422-32-3111
関 武 矩	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
久 保 文 苗	委 員	日 本 医 薬 情 報 セ ン タ ー	東 京 都	03 - 406-1811
三 宅 浩 之	委 員	関 東 通 信 病 院	東 京 都	03 - 448-6537
高 橋 政 祺	委 員	杏 林 大 学	東 京 都	0422-47-5511
□波多野 誠	委 員	九 段 坂 病 院	東 京 都	03 - 262-9191
国 重 信 彦	委 員	佼 成 病 院	東 京 都	03 - 383-1281
□左奈田 幸 夫	委 員	病 院 シ ス テ ム 開 発 研 究 所	東 京 都	03-328-0830
遠 山 豪	委 員	遠 山 病 院	三 重 県	0592-27-6171
長 澤 泰	委 員	厚 生 省 病 院 管 理 研 究 所	東 京 都	03-203-5327
○有 澤 源 蔵	委 員	有 澤 総 合 病 院	大 阪 府	0720-47-2606
○太 田 元 次	委 員	名 古 屋 掖 済 会 病 院	愛 知 県	052-652-7711
○熊 田 正 春	委 員	日 吉 病 院	神 奈 川 県	044-63-7373

8. 臨 床 予 防 医 学 委 員 会

二 本 杉 皎	委 員 長	大 阪 赤 十 字 病 院	大 阪 府	06 - 771-5131
鈴 木 豊 明	副 委 員 長	東 京 警 察 病 院	東 京 都	03 - 263-1371
藤 間 弘 行	副 委 員 長	藤 間 病 院	埼 玉 県	0485-22-0600
安 藤 幸 夫	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151

飯田 晶	委員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
宇津典彦	委員	国立久留米病院	福岡県	0942-21-4571
大川日出夫	委員	日本鋼管病院	神奈川県	044-333-5591
小関忠尚	委員	京都第二赤十字病院	京都府	075-231-5171
金澤鉄男	委員	青森県立中央病院	青森県	0177-26-8302
清瀬 闊	委員	三井記念病院	東京都	03-862-9111
笹森典雄	委員	牧田総合病院	東京都	03-762-4671
高橋春雄	委員	愛知県総合保健センター	愛知県	052-962-5371
田中剛二	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
丹野三男	委員	仙台市立病院	宮城県	0222-66-7111
寺田由紀夫	委員	大阪赤十字病院	大阪府	06-771-5131
日野原重明	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
松岡 研	委員	P L 病院	大阪府	07212-4-3100
三木 徹	委員	丸山病院	兵庫県	078-642-1031

9. 社会保険委員会

北村行彦	委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
近藤慶二	副委員長	高知県立中央病院	高知県	0888-82-1211
篠崎 功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
元原利武	委員	明舞中央病院	兵庫県	078-917-2020
牧 安孝	委員	牧 病院	大阪府	06-953-0120
高橋政夫	委員	日本赤十字社	東京都	03-438-1311
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
中橋彌光	委員	西陣病院	京都府	075-461-8800
三上 晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03-866-8432

10. 組 織 委 員 会

岡 山 義 雄	委 員 長	岡 山 病 院	愛 知 県	052-221-1851
池 谷 亘	委 員	蕨 市 立 病 院	埼 玉 県	0484-32-2277
財 津 晃	委 員	長 浜 赤 十 字 病 院	滋 賀 県	07496-3-2111
小 野 肇	委 員	大 口 東 総 合 病 院	神 奈 川 県	045-401-3861
加 納 繁 美	委 員	総 合 加 納 病 院	大 阪 府	06 - 351-5381
榊 原 宏	委 員	心 臓 病 セ ン タ ー 榊 原 病 院	岡 山 県	0862-25-1921
岩 永 光 治	委 員	十 善 会 病 院	長 崎 県	0958-21-1214
深 瀬 邦 雄	委 員	日 比 谷 病 院	東 京 都	03 - 502-7231
北 村 行 彦	委 員	優 生 病 院	兵 庫 県	06 - 488-1851
星 源 之 助	委 員	総 合 会 津 中 央 病 院	福 島 県	0242-25-1515
高 山 瑩	委 員	高 山 整 形 外 科 病 院	東 京 都	03 - 607-3260
篠 崎 功	委 員	篠 崎 病 院	神 奈 川 県	045-371-0038
平 野 明	委 員	共 立 会 病 院	兵 庫 県	0794-31-0234

11. 学 術 委 員 会

岡 崎 通	委 員 長	国 立 津 病 院	三 重 県	05925-5-3120
中 山 耕 作	副 委 員 長	聖 隷 浜 松 病 院	静 岡 県	0534-74-2222
北 原 哲 夫	委 員	元 東 京 通 信 病 院	東 京 都	(自宅) 03 - 328-5610
一 条 勝 夫	委 員	自 治 医 科 大 学	栃 木 県	02854-4-2111
高 橋 政 祺	委 員	杏 林 大 学	東 京 都	0422-47-5511
三 宅 史 郎	委 員	日 本 大 学	東 京 都	03 - 972-8111
三 宅 浩 之	委 員	関 東 通 信 病 院	東 京 都	03 - 448-6537
山 本 修	委 員	都 立 看 護 専 門 学 校	東 京 都	(自宅) 03 - 941-9321
鎌 田 利 雄	委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-7730
渡 辺 進	相 談 役	成 田 赤 十 字 病 院	千 葉 県	0476-22-2311

①学術図書企画委員会

中山耕作	委員長	聖隷浜松病院	静岡県	0534-74-2222
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

②雑誌編集委員会

北原哲夫	委員長	元東京通信病院	東京都	(自宅) 03-328-5610
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

12. 広報委員会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
西能正一郎	副委員長	西能病院	富山県	0764-41-2481
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
平野井直英	委員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03-738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
木村千枝子	委員	東京日立病院	東京都	03-831-2181
後藤清	委員	駿河台日本大学病院	東京都	03-293-1711
平和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
三上晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03-866-8432
三竹年世子	委員	杏林大学医学部附属病院	東京都	0422-47-5511
行天良雄	参与	日本放送協会	東京都	03-465-1111

13. 諸規定検討委員会

池谷亘	委員長	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道学	副委員長	大道病院	大阪府	06-962-9621
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
高山瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260

登内 真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
寺田 守	委員	公立陶生病院	愛知県	0561-82-5101
河井 博	委員	河井病院	東京都	03-951-9116
高橋 彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター運営委員会

三宅 浩之	委員長	関東通信病院	東京都	03-448-6537
青木 禧和	委員	南大阪病院	大阪府	06-685-0221
飯田 信吾	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
池田 博	委員	前慈恵医大付属病院	東京都	0427-34-4898
一条 勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田 行雄	委員	日本通信協力(株)	東京都	03-468-6331
里村 洋一	委員	千葉大付属病院	千葉県	0472-22-7171
土井 義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
日西 義之	委員	大阪回生病院	大阪府	06-371-6234

2. 国際モダンホスピタルショウ

河野 稔	担当副会長	北品川総合病院	東京都	03-474-5861
竹本 吉夫	実行委員長	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
三宅 浩之	企画委員長	関東通信病院	東京都	03-448-6537

3. 33周年記念事業企画委員会

諸橋芳夫	委員長	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
若月俊一	委員	佐久総合病院	長野県	02678-2-3131
河野稔	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
竹本吉夫	委員	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
高橋彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

4. 33周年記念式典運営委員会

平野一彌	委員長	港北耳鼻咽喉科病院	神奈川県	045-421-8944
篠崎功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
財津晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
河井博	委員	河井病院	東京都	03-951-9116
大城三郎	委員	日本病院共済会	東京都	03-264-3180
高橋彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

5. 30年史記念誌編集委員会

小野田 敏 郎	委員長	日本病院会顧問	東京都	(自宅) 03-990-9589
内 藤 景 岳	委員	日本病院会顧問	大阪府	(病院) 06-685-0221
渡 辺 進	委員	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311
吉 岡 観 八	委員	新千里病院	大阪府	06-871-0121
遠 山 豪	委員	日本病院会顧問	三重県	(病院) 0592-27-6171
北 原 哲 夫	委員	東京逋信病院	東京都	03-238-7111
高 橋 政 祺	委員	杏 林 大 学	東京都	0422-47-5511
落 合 勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03-381-0230
大 城 三 郎	委員	日本病院共済会	東京都	03-264-3180
高 橋 彦太郎	委員	日 本 病 院 会	東京都	03-265-0077
西 山 君 枝	委員	日本看護学校協議会	東京都	(自宅) 0424-85-9202

〔他団体との連携委員〕

1. 病院診療報酬適正化推進会議

諸 橋 芳 夫	代表委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
有 澤 源 蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
竹 本 吉 夫	委員	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
登 内 真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
北 村 行 彦	委員	優 生 病 院	兵庫県	06-488-1851
小笠原 道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
三 宅 浩 之	委員	関東逋信病院	東京都	03-448-6537

2. 四病院団体連絡協議会

総合部会

諸橋芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
河野稔	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-5861
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

税制委員会

有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
石井孝宜	委員	森会計共同事務所	東京都	03-230-3808

医療法委員会

池谷亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道学	委員	大道病院	大阪府	06-967-7111
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
藤掛敏	委員	藤掛第一病院	岐阜県	0582-65-5255

医療経済委員会

岡本隆一	委員	岡本病院	京都府	075-611-1114
鈴木憲輔	委員	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-488-1851

会 員 状 況

昭和60年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	39	新 潟	51	鳥 取	9
青 森	15	静 岡	56	島 根	11
岩 手	12	愛 知	119	山 口	23
秋 田	25	岐 阜	25	香 川	10
山 形	10	三 重	35	徳 島	3
宮 城	16	滋 賀	21	高 知	30
福 島	28	京 都	52	愛 媛	24
栃 木	13	大 阪	162	福 岡	67
茨 城	35	奈 良	31	佐 賀	4
群 馬	26	和 歌 山	69	長 崎	37
埼 玉	40	兵 庫	150	熊 本	14
千 葉	77	富 山	21	大 分	7
神 奈 川	92	石 川	14	宮 崎	10
東 京	231	福 井	9	鹿 児 島	8
山 梨	30	岡 山	78	冲 縄	7
長 野	18	広 島	36	合 計	1,900

	昭和59年4月1日	昭和60年3月31日	増 減
正 会 員	1,860	1,900	+40
賛 助 会 員 A	151	153	+2
B	131	134	+3
C	10	10	0
D	108	97	-11
計	2,260	2,294	+34